

水俣市民競り舟大会復活

せりふね

10周年記念誌

水俣市競り舟協会













# もくじ

ご あ い さ つ  
競り舟のあゆみ  
九州競り舟大会  
台湾遠征  
競り舟の(ペーロン)はなし  
日本各地の競り舟  
海外の競り舟(ペーロン)





水俣の競り舟が復活して10周年

地域のコミュニティーづくりに大きな役割を果す

# 競り舟のあゆみ



## 水俣市競り舟関係年表

明治31年頃	水俣で競り舟始まる。 旧水俣川、永代橋付近		7月24日 新造船による、第2回大会～水俣川河口。
昭和7年	河川改修で中止	53年	7月23日 3回大会～
昭和9年	日窒、尚和会の競り舟大会、梅戸港。 競り舟6隻建造(日窒)	54年	7月23日 4回大会～競り舟3隻新造。(計9隻となる)
昭和10年	青年団対抗始まる。	55年	7月20日 5回大会～敗者復活戦始まる。艇庫完成
昭和17年	大東亜戦争のため中止。	56年	7月26日 6回大会～
昭和24年	尚和会、競り舟大会復活。	57年	8月8日 県大型観光キャンペーン 九州競り舟大会(湯の児)
27年	青年団対抗		10月10日 7回大会～
33年	8月24日～水俣川幸橋下流で実施。	58年	7月17日 8回大会～
34年	8月23日～水俣川幸橋下流で実施。	59年	6月1日～6日 初の海外遠征、台湾国際ドラゴンボート大会出場 第3位、精神奨
51年	10月17日、第1回大会～ 第3回「水俣青年祭」に、17年ぶりに復活。 舟は、津奈木町より借用。 12月25日 「水俣競り舟建造実行委員会」結成。		8月12日 9回大会～初の女子レース開催。 10月16日 「水俣市競り舟協会」結成。
52年	1月28日 競り舟建造へ向け、署名運動始まる。 趣意書1万部配付 2月16日 「競り舟」建造を請願。 3月24日 請願書受理される。(3隻分) 5月27日 街頭募金を開始。(3隻分) 7月13日 「競り舟」完成、(6隻)進水式。	60年	6月18日～24日 第2回目の台湾遠征、第2位、規律奨 7月21日 復活10周年記念大会、九州競り舟大会 (水俣港)
		61年	8月4日 10回大会～ 6月8日～13日 第3回目の台湾遠征、第2位、精神奨
		62年	7月25日 11回大会～ 6月13日 日本青年会議所熊本ブロック会員大会 湯の児で競り舟大会開催 5月28日～4回目の台湾遠征 6月1日 8月2日 第12回大会



## 10周年記念誌発刊を祝して

水俣市長

岡田稔久



昭和51年10月、市民競り舟大会が復活して、すでに10年が経過し、これまで水俣市の夏を代表するイベントとして市民に親しまれ、益々盛んに賑わっておりますことは、まことによるこばしいことでもあります。

水俣の競り舟は、明治30年頃長崎から伝えられ、以来、地域の覇を競う海の伝統行事として若人の血をたぎらせていましたが、何時の頃からか、青壮年層の人口流出等経済社会の変動に伴い、水俣の様変りのなかで一時中断しておりました。水俣再生への一つの足掛りを探っていた水俣市青年団体連絡会議の若いみなさんが、競り舟復活運動を起し、17年ぶりに競り舟大会を復活させるまでには大変な苦勞を重ねてまいりましたが、市民の連帯による明るいまちづくりへの大きな輪がひろがり、10年の歳月を経て、今や夏の風物詩として盛んになってきたことは、大変意義深いことであると思います。

現在、40を越えるチームが市内の各地域や職域から参加し、文字どおり市を挙げての好例行事となっております。また、近年は、本市の競り舟選抜チームが、台湾の国際ドラゴンボート大会に出場し、2年連続して準優勝という輝かしい成績を挙げました。このように、本市の競り舟チームが、国際交流、親善にも大いに貢献していることに、心から敬意を表しますとともに、将来、水俣湾の環境復元が成就した暁には、水俣港湾を会場にして、国際的な競り舟大会が開催されることを市民は楽しみにしております。

市はこれまで、競り舟建造、艇庫建設等行ってまいりましたが、今後とも、市民競り舟大会が益々盛んになり、明るいまちの活性化につながりますよう期待いたしますとともに、関係のみなさんのご健勝とご活躍を祈念いたします。





## 水俣市民競り舟大会復活、せりぶね、 10周年記念誌の発刊に当たって



### 水俣市競り舟協会会長 寺本 巧

水俣の競り舟が復活して10周年を迎え、ここに、その歩みを綴る「水俣市民競り舟大会復活、せりぶね、10周年記念誌」を発刊することになりました。

水俣の競り舟は、長崎のペーロンを、明治の後半、森田国藏氏（八幡の住人）により紹介されたのが、その起りと言われております。それ以来、スポーツを愛好する市民の力によって、本市における屈指のイベントとして発展し、「ヘンヨヤッサ」の呼び名のもと、青年団対抗、日笠の各係対抗等、大正から昭和にかけては全盛を極めたと言われておりますが、社会情勢の変動には勝てず、昭和30年代に至って、その姿を見ることがなくなってしまったのであります。

然し、その後も、競り舟に対する市民の愛着は強く、昭和40年代後半に至って、復活への声も高まり、水俣市青年団体連絡会議の音頭で、昭和51年再び水俣の競り舟の勇姿を見ることが出来たのであります。

それから10年、再度燃え上がった市民の競り舟に対する情熱は、各チームの積極参加を呼び、本年度は一般男子53チーム（地域29チーム、職域24チーム）女子7チームの参加のもとに、全盛期を髣髴とさせる大会を持つことが出来ました。

ところで、このすばらしい水俣の競り舟を、市民の競り舟として定着させ、より充実を期するため、関係者によって、昭和59年10月、水俣市競り舟協会を設立いたしました。設立以来、市当局、市体育協会等のご指導ご協力のもとに、市競り舟大会の実施が勿論のこと、昭和60年九州競り舟大会の実施、また台北におけるドラゴンボート大会の選手派遣等、その活動の推進に努めている現状であります。

この「水俣市民競り舟大会復活、せりぶね、10周年記念誌」の発刊もその一つの取組みであります。復活10周年の節目を迎え、関係者の努力や各チームメートの活躍ぶり振り返り、水俣の競り舟の益々の発展に寄与することが出来れば……と、この事業に取組んだのであります。

願わくば、市民のこの競り舟が、復活10周年を機に一層の隆盛を極め、いつの世までも絶えることなく充実発展することを希うものであります。

## 郷土の伝統行事を受継ぎながら 明日のみなまたを語ろう



水俣市競り舟協会理事長

岩 阪 雅 文

水俣の夏の風物詩、競り舟が姿を消して久しく、復活しようという声は、消防団や一部の人から上がっていましたが、実現に向けての行動はなかなか起きませんでした。

昭和51年、水俣市青年団体連絡会議が結成され、「若者の手で、水俣を活気ある町へ」と青年祭、水俣青年の船等の事業を実施しました。

昭和51年、青年祭実行委員会の中で、競り舟大会を青年祭として実施してはという意見がで、具体化に向けて、行動を始め、最大の問題となった舟は津奈木町へお願いし、借りることができ、第1回競り船大会を実施することになりました。

水俣の競り舟の伝統は90年を数え、明治30年頃長崎から伝えられたと言われています。戦時中と、昭和30年代に途中一時中断されました。

思えば、第1回大会、何もわからず、右往左往しながら、往年の選手の方々を尋ね、選手やコーチ、監督に引っ張り出し、やっとの思いで、大会にこぎつけた、あの苦労が懐かしく思い出されます。

これをきっかけに、地域における、対話や連帯が芽ばえはじめ、水俣のコミュニティづくりの起爆剤となりました。

競り舟も10年目にして定着したとはいえ、各チームそれぞれの問題もまだかかえているようです。

第1回大会の18チームから平均40チーム以上の参加がありましたが、同好会やサークル団体等は減少し、地域や職域を中心とした大会に変わりつつあります。これらの理由には、回を重ねるごとに、練習などの費用がかさんだり、選手不足（選手の競合）や、競技会としての色彩が強くなり、地域や職域とのレベルの差が大きくなる等があげられます。

たしかに、ここ数年勝負にこだわりすぎる傾向もあります。しかし一方では、市民の祭りとして、楽しみで参加しているチームも多くありますし、「子供から婦人まで参加できる大会であってほしい」といった意見やもっと観光的に全国に紹介をできたらと、さまざまな意見が聞かれます。

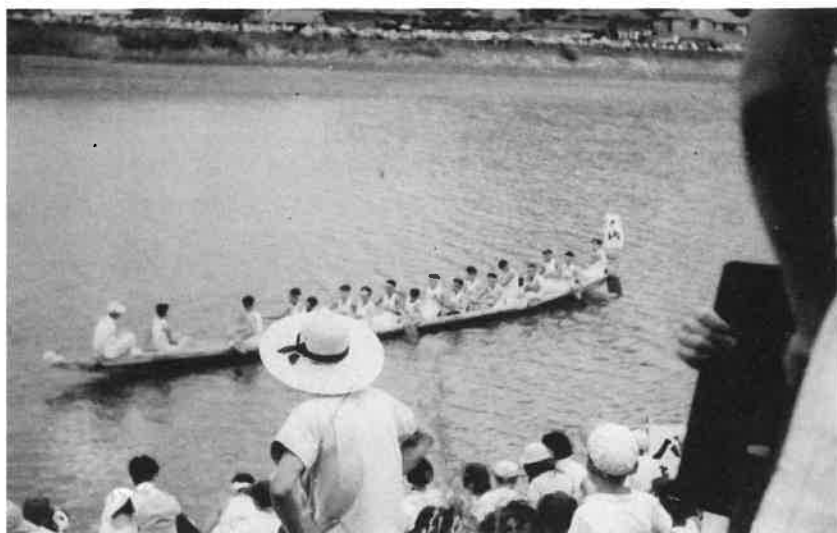
10年を契機に、さまざまな角度から競り舟のあり方について検討される時期に来ているのかも知れません。

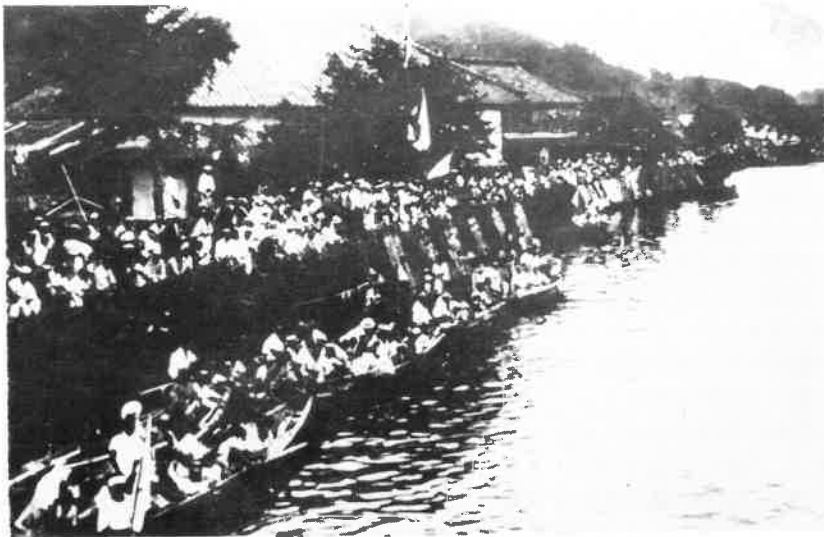
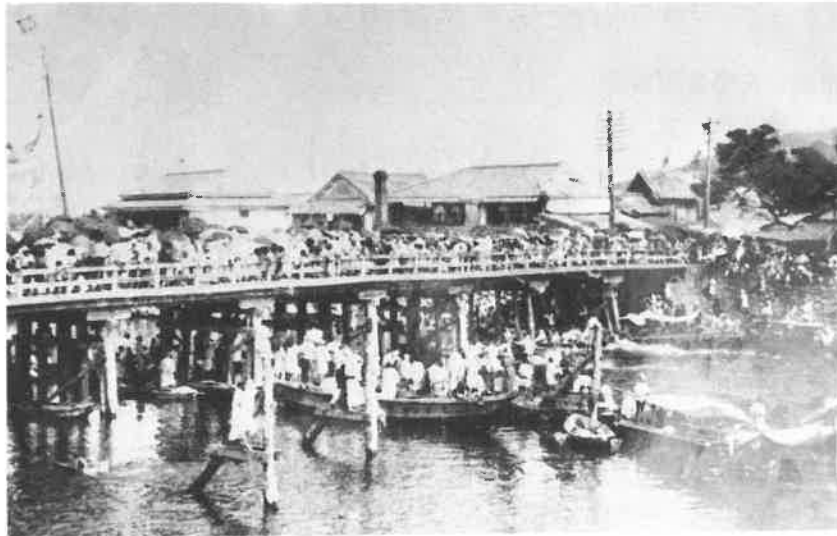
往年の選手の方々がまだ現役で活躍されているなか、競り舟を復活させた若者の情熱も、また燃え続けなければなりません。

大会も行政にのみ頼るのではなくて、私達自身が、多くの問題と困難を乗り越えてこそ真の伝統づくりがなされると思います。

17年ぶりに懐しい鐘の音と共に蘇った「水俣の競り舟」。この競り舟が今後も古きよき伝統として、私達のふるさとに息長く定着して行かなければなりません。

今後とも競り舟発展のため皆様のご協力を切にお願い致します。





## 競り舟、復活十周年 記念誌発行をお祝いして



水俣市体育協会理事長

小島 隆

このたび、水俣市競り舟協会において、水俣市の伝統ある競り舟、復活十周年をともに記念誌を発行されますことは、まことに有意義なことであり、心よりお祝し上げます。

私は、競り舟には特になじみが深く、少年の頃より旧水俣川で浜下町の先輩達に連れて、永代橋を中心に漕ぎ廻り時には夜まで提灯をへ先に灯しながら威勢よく頑張るのでした。当時は海に面した地域に競り舟を保有し、年一回の町あげての競り舟大なえて、海に川に練習が行れていた。

舟は現在の舟より小さくて短く、舵長く、立つて操作していた。櫂も細長であつた。現在は鐘をたたいているが、当時は太鼓をたたいていた。特に各地域の舟にあり舟首（へさき）に趣向をこらして、浜地域の舟はマテ鼻（マテ貝に以ている地域の舟は象鼻、丸島、湯堂、茂道と舟首の特徴（型）で見分けがついたものだ）一回の町をあげての競り舟大会は勇壮で、各地域の選手達は闘士満々としていたよえる。水俣川の両岸はもちろん永代橋には近郷、近在の観衆と地域の応援で、すず盛況であったのが今でも脳裏に残っている。

昭和九年の河川改修で競り舟も中止となり、戦後チッソ水俣工場の係対抗で復活外の練習に汗を流したこともあった。

伝統ある水俣市の競り舟にも時代の流れで、何度かの曲折があり現在の競り舟復選手であり競技役員であり競り舟愛好者の一人として見守り続けてきた。

昭和61年には水俣市体育協会に加盟され競り舟協会として発足、水俣市の競りて現在市民の間に定着し、県内外の交流はもちろん海外遠征等も行ない、国際親善を果す等、素晴らしいものがあります。

スポーツで健康な町づくりをモットーとする水俣市で、特に夏の水の祭典、競りはスポーツを通じて市民の連帯感を強め健康で明るい町づくりの最良の場であるためのものであります。よって今後の競り舟協会の充実と発展を切望してお祝いのことばします。



1976年（昭和51年）  
**第1回大会**



1985年（昭和61年）  
**第11回大会**

# 第1回大会 1976年 (昭和51年)

## 水俣青年祭競り舟大会要項

### 趣旨

昭和34年を最後に途絶えてしまった競り舟大会ですが、  
 び津奈木町の御理解と温かい御配慮により、我々青年の手で  
 振りに開催することになりました。  
 競争にこだわることなく、お互いが力を合わせることの素  
 さ、助け合うことの貴重さを見直し、水俣の伝統と言われる  
 を経験して下さい。



優勝した湯堂チーム



開会式、八幡宮相撲場（現在武道館）

### 第1回大会成績

1位	湯堂	2分36秒0
2位	水東	2分39秒8
3位	丸木舟	2分41秒2
敢闘賞	津奈木	

### 第1回大会

17年ぶりの競り舟大会、舟は借りても、若者の中に競り舟を漕いだ経験者はいない。昔、乗ったお年寄りの話を聞きながら練習が行われた。  
 コースづくりや競技運営には、カヌー協会の手伝いを受け10月17日、17年振りに、水俣川に、競り舟の鐘の音が帰って来た。少し肌寒い競り舟大会ではあったが、若者の打ち鳴す鐘の音につられ、多くの市民が、水俣川の堤防をうめ

つくした。  
 レースは、初めて競り舟を漕いだり舵を取る者ばかりコースをはずれ、一回転するチームや、どうしてもまっ進めないチームなど、応援につめかけた人々を爆笑のう巻込んだ。  
 しかし、準決勝以降は、練習量や経験がものをいい、チームが、初優勝を飾った。

時 競り舟大会

昭和51年10月17日 9:30 開会式 10:00 競技開始

水俣川において 500mコース

主 催 水俣市青年団体連絡会議（水俣市連合青年団・水俣青年会議所・  
水俣若い仲間会・水俣市フォークダンス同好会・石飛緑の会・  
袋軟式テニスクラブ・水俣ローターアクトクラブ）・音楽村“昔ばなし”

後 援 水俣市教育委員会

第3回水俣青年祭競り舟大会参加チーム

若い仲間会、水俣FD同行会、湯堂、水東、  
鶴、葛渡青年団、丸島青年団、イワシターズ、  
パチーズ、パオ、浜消防団、丸木船、立尾防  
チツソ泰山寮、レオ、水俣青年会議所、南福  
津奈木町青年団



女性の鐘叩きも登場



復活大会に若者が主役

国内の動き

- ・中国、周恩来死去、9月に毛沢東死去
- ・鹿児島にて5つ子誕生
- ・天皇在位50周年記念式典
- ・福田内閣成立
- ・200カイリ問題
- ・米ロッキード社の対日売込み工作資金、疑獄化
- ・ピーナッツ流行語となる
- ・新自由クラブ発足

県内の動き

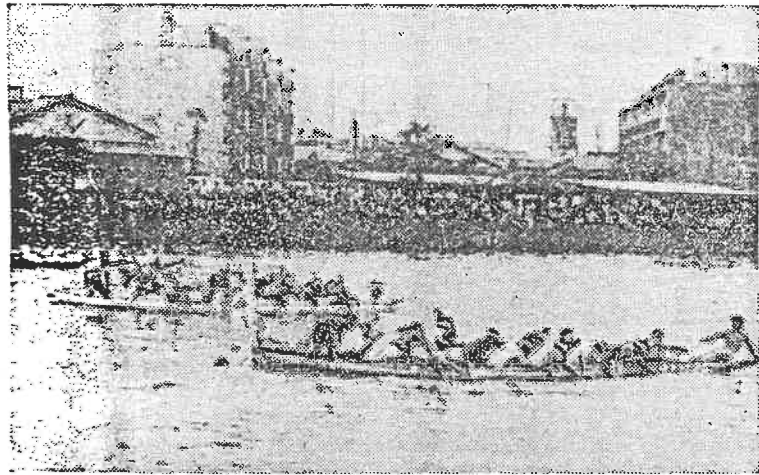
- ・水俣病不作為訴訟原告が全面勝訴
- ・県立美術館オープン
- ・南関町汚職事件でリコール運動
- ・流感風疹大流行

市内の動き

- ・湯の児病院に理学診療棟が完成
- ・国道268号線越小場バイパス完成
- ・市青年団体連絡会議結成
- ・袋地区岡山に不燃物埋立地を完成
- ・沿岸住民健康調査第1次検診始まる
- ・伝統行事「競り舟大会」復活する



# 17年ぶり勇壮なレース



17年ぶりの勇壮なレース 水俣川のペーロン競争

## 市青年祭の目玉に

水俣川のペーロン競争

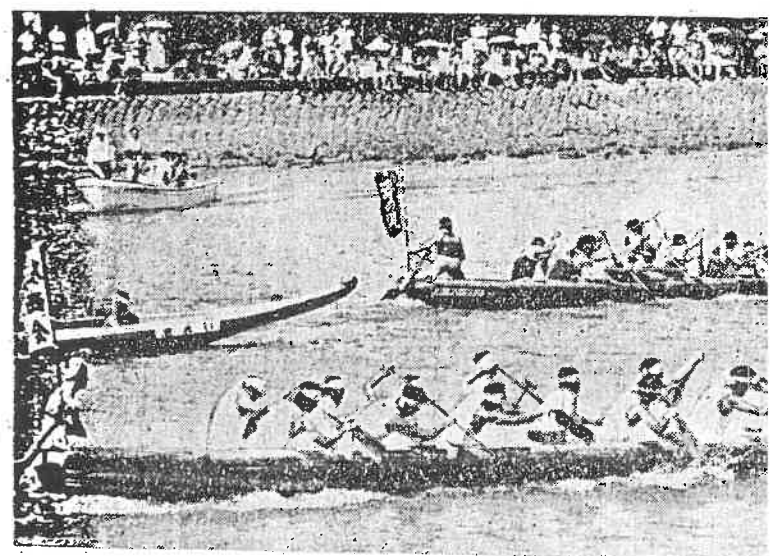
水俣市の水俣川で十七日、市青年団体連絡会(総務委員会)による「競り舟」(ペーロン競争)が行われた。十七年ぶりの復活で、川沿いの堤防は五千人の見物人で賑わった。

かつて活躍した市海軍部の湯堂チーム、丸島青年団や現存もペーロン競争を続けている隣町の芦北郡津奈木町青年団のほか、各職場やグループなどから計十八チームが参加。津奈木町から借りた六隻の舟にそれぞれ十五人が乗り組み、水俣大橋から迎風のコースで舟の中央に座ったカネ打ちの威勢のよけの音に合わせて勇壮なレースを展開した。

今年初めての「競り舟」が、水俣市で復活した。水俣川では明治三十年(一九〇五年)から投網用の舟を使った競り舟が行われていた。しかし、戦後、戦災で舟が壊れ、競り舟が廃れた。戦後、戦災で舟が壊れ、競り舟が廃れた。戦後、戦災で舟が壊れ、競り舟が廃れた。



ソレ行け 片手でもOK?



勇壮に 川岸の応援を受けて力こする水俣競り舟大会(水俣川口で)

## 水俣再生の願い込め

### 夏の競り舟復活

#### 17年ぶり 新造舟に熱い拍手

【水俣】水俣市の市民競り舟をあげての伝統行事に復活。しか大会が二十四日、水俣川口で夏の日開催することになった総合ペーロン大会で、水俣川で復活した。水俣再生をかけた青年、市民の意気込みが折からの炎天に増され、水俣市は熱い、熱い競り舟のレースにわきまをい

水俣の競り舟は明治三十年(一九〇五年)に川岸の応援を受けて力こする水俣競り舟大会(水俣川口で)が開催された。この時は舟を競り舟の津奈木から借りたが、今年水俣市が新造した。約七千人の見物人が水俣川沿いに詰め

【松枝】九ヶ所のコースで大会の第一回が行われ、水俣市が優勝した。水俣市が優勝した。水俣市が優勝した。水俣市が優勝した。

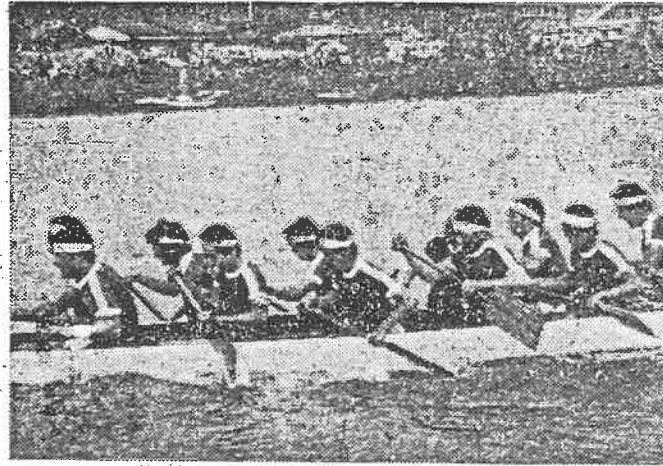
昭和52年7月24日  
第2回大会

# 外輪山

秋晴れの好天に恵まれた十七日、水俣市の水俣川で、青年祭の催しとして競り舟大会が行われた。十七年ぶりの復活である。少人数の伝統行事を再興、地域連帯の意を強くして、明るい町をつくらうという願いから盛り上がった。水俣市に多くの人々の伝統行事の中、市民の心を一つにした催しといえは、競り舟をあげて他になかった。

## 大成りだった競り舟

長崎の競り舟は、市民の心を一つにした催しといえは、競り舟をあげて他になかった。市青年団体連絡会が、ペーロンを冠している声北郡津南の森田園長が長崎ペーロンを冠して広めたという。以て競り舟をよみがえらせ、市民の心を一つにした。来年からは、七月のみならず、八月、九月、十月、十一月、十二月と、市民の心を一つにした。来年からは、七月のみならず、八月、九月、十月、十一月、十二月と、市民の心を一つにした。



17年ぶりに復活した競り舟

## 湯堂地区が初優勝

### 水俣市青年祭の競り舟大会

水俣市青年祭の競り舟大会(水俣市青年団体連絡会主催、競売新開西部本社後援)が、十七日午後八時、八幡アール横の水俣川で行われ、湯堂地区が初優勝した。競り舟をよみがえらせた。市民の心を一つにした。来年からは、七月のみならず、八月、九月、十月、十一月、十二月と、市民の心を一つにした。

## 十七年ぶりに競り舟

### 青年祭 復活に五千の観客わく

水俣の競り舟は、明治三十年の同祭主催、市教育委員会の主催で、三十四年(一九〇一年)に復活した。十七年ぶりに復活した。市民の心を一つにした。来年からは、七月のみならず、八月、九月、十月、十一月、十二月と、市民の心を一つにした。

水俣の競り舟は、明治三十年の同祭主催、市教育委員会の主催で、三十四年(一九〇一年)に復活した。十七年ぶりに復活した。市民の心を一つにした。来年からは、七月のみならず、八月、九月、十月、十一月、十二月と、市民の心を一つにした。

水俣の競り舟は、明治三十年の同祭主催、市教育委員会の主催で、三十四年(一九〇一年)に復活した。十七年ぶりに復活した。市民の心を一つにした。来年からは、七月のみならず、八月、九月、十月、十一月、十二月と、市民の心を一つにした。



10数年ぶりに、鐘がこだまする水俣川



ヨーイ、スタート(大橋下)

# 17年ぶりペーロン

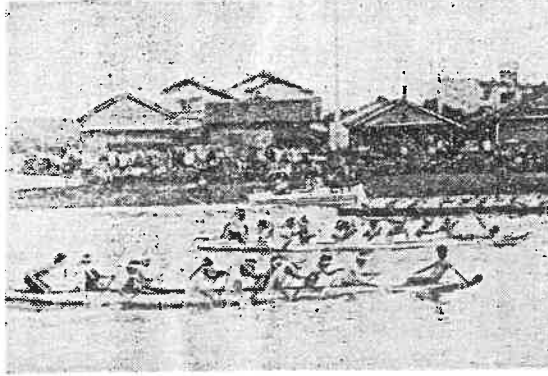
## 来月17日 若者たちが復活

水俣川

カヌー競技の原動力ともなった水俣川のペーロンが十七年ぶりに若者たちの手で復活される。

同市のペーロンは、明治三十四年(一九〇一年)に復活した。十七年ぶりに復活した。市民の心を一つにした。来年からは、七月のみならず、八月、九月、十月、十一月、十二月と、市民の心を一つにした。

病の発生などで衰退、昭和三十四年(一九〇九年)に復活した。十七年ぶりに復活した。市民の心を一つにした。来年からは、七月のみならず、八月、九月、十月、十一月、十二月と、市民の心を一つにした。



復活した水俣川の競り舟大会



一斉にスタート、チームワークがもう少し？

# 17年ぶり「競り舟」復活

## 水俣 青年団の熱意が実る

長い間途絶えていた水俣市の伝統行事・競り舟大会が十七日、水俣市の手づから十七年ぶりに復活した。

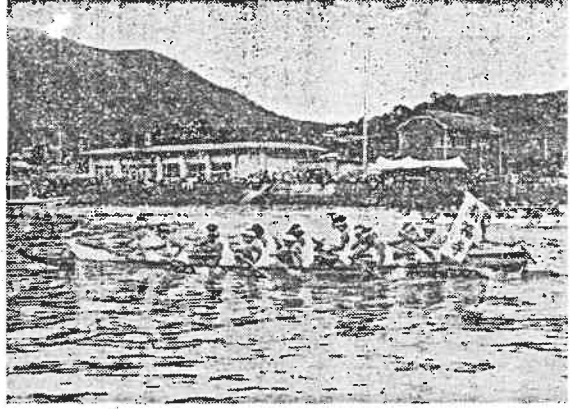
水俣市青年団協議会(会長 藤原文彦)は、町内各町に呼びかけ、競り舟の復活を呼びかけ、市内各町に呼びかけた。市内各町から、競り舟チームが参加し、水俣川の両岸に沿って競り舟大会が開催された。

競り舟の復活は、町内各町に呼びかけ、市内各町に呼びかけた。市内各町から、競り舟チームが参加し、水俣川の両岸に沿って競り舟大会が開催された。

各町をめぐって、競り舟大会が開催された。市内各町から、競り舟チームが参加し、水俣川の両岸に沿って競り舟大会が開催された。

### 水俣の競り舟復活 故郷に一層の愛着

水俣市の競り舟復活は、市民の心を一つに結び、故郷への愛着を深めることになった。競り舟大会は、市民の心を一つに結び、故郷への愛着を深めることになった。



### 水俣市 競り舟大会にぎわう

「カン、カン、カン」――熊本県水俣市の水俣川で、十七年ぶりに「競り舟」大会が、なつかしい音色の音色で響きわたる。伝統の復活を約五千人の市民が、喜びあふた。

この大会は、同市青年団協議会(会長 藤原文彦)が主催し、市内各町から、競り舟チームが参加し、水俣川の両岸に沿って競り舟大会が開催された。

競り舟大会は、市民の心を一つに結び、故郷への愛着を深めることになった。競り舟大会は、市民の心を一つに結び、故郷への愛着を深めることになった。



1977年  
(昭和52年)

# 競り舟建造実行委員会結成!

## セリ舟建造に関する市民の皆様へお願い

### 趣旨

青空に響く鐘の音と、川岸からの歌声に呼応して熟子の掛声も勇ましく、水しぶきを掻きあげて突き進む精神な船体、正に勇壮なる海のレース、競舟。水保市長はこの鐘を聞いて夏を知るといふ伝統しかし、古きよき時代のこの水保の名物も、激しい人口流出には抗されず遂には中断の止むなきに至った訳であります。

あれから十七年、市民の間ではとんとんとして、競舟に対する郷愁が結晶になることもありましたが、閉居するこのみにて実行に至らず、あの勇ましい掛声も心をかきたてる鐘の音も、いつしか市民の脳裏から忘れ去られていきました。そして昨年十月十七日、水保市青年団体連絡会理事長の主催により、第三回水保青年祭行事の一環として開催されましたが、市民の反響は想像以上のものがありました。第一「競舟をこれからも続けよう。」

「水保の伝統を守ろう。」

「競舟を建造して、市の伝統を継承しよう。」

等々、復活に対する賛賞と存続を望む、市内外からの多数の意見が寄せられました。

しかし、青年団体連絡会としては、昨年の経験から今後ともこれを継続させることは困難との見方から、ここに水保競舟建造実行委員会を組織し、建造について署名運動を行い市議会に請願を行なったのでありますが、これに先立ち、浮池市長は市民の要望にこぞく応答いただき、今三月議会で、競舟建造費一五〇万円を提案、可決されております。

しかしながら、限られた期間内でレースを行わなければならないことや、大会前の練習等を考え合わせると、少くとも六隻の舟が必要ではないかと考える訳であります。

ここに於いて、私共、競舟建造実行委員会では、組織結成の趣旨に基づき、競舟建造費の募金運動を決定したのであります。

水保に競舟の掛声を甦えらせることは、地域住民の連帯感を深め、郷土の古きよき時代を語らい見直す機会をつくることができないでしょうか、私達実行委員会は、ただ競舟を建造し復活させることのみならず、水保の伝統行事とあわせ、スポーツによる明るい水保の実現を念じながら、この運動にとり組んでいこうと決意しております。

市民の皆さん、私達の意のあるところをお汲みとり戴きまして、本募金運動にご賛同を賜りますと共に、何分のご協力をお願い申し上げます。

昭和五十一年五月二十日



昭和51年10月17日 水保川にて

### 水保セリ舟建造実行委員会

- |     |            |   |   |   |
|-----|------------|---|---|---|
| 会長  | 水保市青年団体連絡会 | 岩 | 阪 | 雅 |
| 副会長 | 水保市消防団     | 川 | 通 | 文 |
|     | 水保青年会議所    | 高 | 山 | 七 |
|     | 水保市連合青年団   | 福 | 田 | 茂 |
|     |            | 有 | 村 | 利 |
|     |            | 井 | 上 | 二 |
|     |            | 永 | 田 | 義 |
|     |            | 向 | 井 | 一 |
|     |            | 石 | 田 | 勝 |
|     |            | 石 | 田 | 勝 |
- 顧問 水保市カヌー協会 石田 勝
- セリ舟建造費募金運動特別賛助者
- |          |       |
|----------|-------|
| 水保市工芸協会  | 芝原 秀夫 |
| 水保市商工会   | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
| 水保市老人会   | 長 太郎  |
| 水保市青年会議所 | 長 太郎  |
| 水保市連合青年団 | 長 太郎  |
| 水保市カヌー協会 | 長 太郎  |
| 水保市消防団   | 長 太郎  |
| 水保市婦人会   | 長 太郎  |
|          |       |

# 競り舟建造実行委員会

私達は、「水俣独自で競り舟を建造、伝統行事を盛りたてよう」と、昨年12月25日に以下のメンバーで「水俣競り舟建造実行委員会」を発足させ、1月から市民の方々の署名を集め市や議会に最低6隻の舟の建造を……と請願を行いました。

これに対し今年3月議会におかれまして、3隻分150万円の建造費が可決されました。しかし私達は最低6隻が必要であるとし、残り3隻分について、5月20日付で募金運動開始しました。3回の街頭募金、2カ月間の各地域、各団体、事業所等への呼びかけを通し3隻分の資金化を行った訳であります。

募金額は、第1回街頭募金	53,398円
第2回 "	34,520円
第3回 "	41,160円
一般募金361,253円、団体募金1,400,000円、以上総合計1,890,331円でありす。(7月20日現在)	

ここに競り舟3隻、並びに大会旗を水俣市に寄贈し、本建造実行委員会の目的を達成し、ここに8カ月間にわたる本運動に終止符を打ちました。本運動に参加した方々、並びに市民の方々へ感謝の意を表しますと共に、今後競り舟を通じて地域住民の連帯感を深め、郷土の古き良き時代を語り見直し、明るく水俣の実現を念じます。

水俣第一一八号  
昭和五十二年 三月二十一日

岩阪雅文 殿

水俣市議会議長 洲上末吉 殿

請願の結果お知らせについて

昭和五十二年 第二回水俣市議会において受取いたしました貴請願は採択と決定し、関係機関に送付いたしましたのでお知らせいたします。

以上

## 請願の主旨

一 水俣の伝統行事「競り舟大会」を復活存続させるため、競り舟を六隻建造してくだされば、セリ舟を六隻建造してくだされば、水俣の伝統行事「競り舟大会」を市役所の行事の一環として取り上げてくだされば、建造期間と考案いただき、議会後早速な御返事を重々お願い致します。

## 請願の理由

高度経済成長の発展とともに、世代間の断絶、地域連帯感の衰退等の好ましくない現象がみられ、それらの対策として「ふるさと再発見」が叫ばれている今日、水俣の伝統行事であった「競り舟大会」を復活させることは、大変意義のあるものと思われまます。

昨年十月十七日第三回水俣青年祭の行事として「競り舟大会」を開催されましたが、地域住民が及隣同志が、競り舟として、または応援するものとして、連帯感を深める絶好の機会であったと思われまます。また「ふるさと」の伝統と見直しということについては、市民は言うに及ばず、遠く県外へ転出された方々からも「競り舟大会」をぜひとも復活存続してほしいという希望も伝え聞かれます。

また今日の港祭りを考え合わせ、海の日、海の行事である「ふるさと」の何等取り組まれないのではいかと思われまます。そこで「競り舟大会」とその行事の一環に組み入れ、このことにより港祭りの充実と伝統行事の継承という二つの目的を達すとともに、沈滞した水俣に新風を吹きこもることに心からのご確信を致します。

従って私達は貴議会におかれましても、この主旨をよび取りの上、どうぞよろしくお願い申し上げます。

### 請願一号

水俣の伝統行事「競り舟大会」復活にかかると競り舟建造について請願の主旨

一 水俣の伝統行事「競り舟大会」を復活、存続させるために、競り舟を六隻建造してくだされば、

二 水俣の伝統行事「競り舟大会」を市役所の行事の一環として取り上げてくだされば、

三 建造期間を考案いただき、議会後早速な御返事を重々お願い致します。

### 請願の理由

高度経済成長の発展とともに、世代間の断絶、地域連帯感の衰退等の好ましくない現象がみられ、それらの対策として「ふるさと再発見」が叫ばれている今日、水俣の伝統行事であった「競り舟大会」を復活させることは、大変意義のあるものと思われまます。

昨年十月十七日第三回青年祭の行事として「競り舟大会」を開催されましたが、地域住民が、及隣同志が、競り舟として、または応援するものとして、連帯感を深める絶好の機会であったと思われまます。また「ふるさと」の伝統と見直しということについては、市民は言うに及ばず、遠く県外へ転出された方々からも「競り舟大会」をぜひとも復活、存続してほしいという希望も伝え聞かれます。

また今日の港祭りを考え合わせ、海の日、海の行事である「ふるさと」の何等取り組まれないのではいかと思われまます。そこで「競り舟大会」とその行事の一環に組み入れ、このことにより港祭りの充実と伝統行事の継承という二つの目的を達すとともに、沈滞した水俣に新風を吹きこもることに心からのご確信を致します。

昭和五十二年二月十六日

水俣市第七九三宛

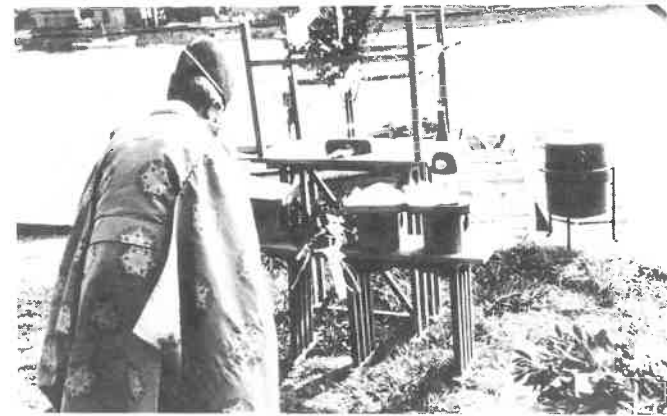
水俣競り舟建造実行委員会

採択

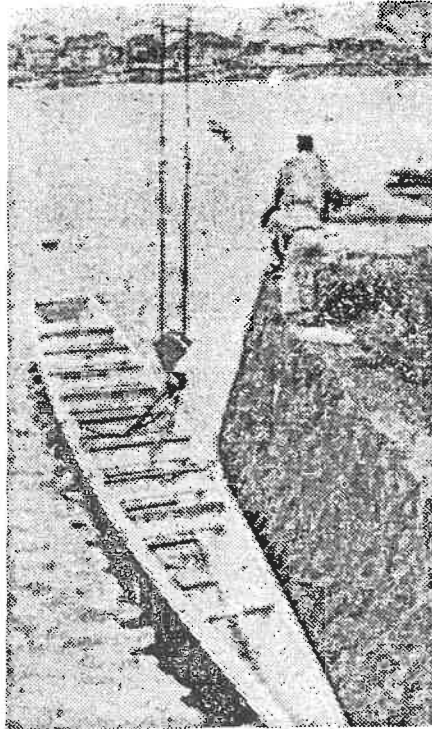
水俣市議会議長 洲上末吉 殿

## 競り舟建造

第1回大会は予想以上の成功により、競り舟大会の継続と、舟の建造の要望が各方面から上がり、市が三艇分の建造費を計上、残りの三艇分を、競り舟建造実行委員会で募金を行ない建造することになった。8カ月の募金活動の結果、競り舟三艇と優勝旗を市に寄贈、名実ともに、水俣の競り舟が復活した。



航海の安全を祈願



水俣川に進水したセリ舟

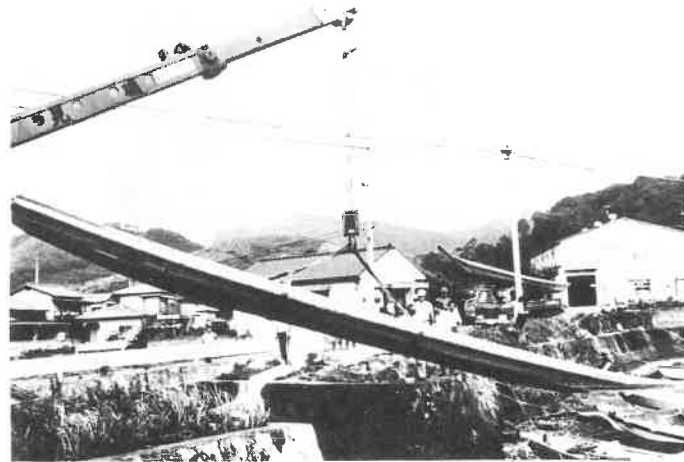
## セリ舟6隻が進水

水俣 24日の夏祭りに大会

昨春秋、水俣市の青年グループが十七年ぶりに復活させたセリ舟大会が、今年の水俣市の夏祭りから定期的に行われることになり、造船所に発注していたセリ舟六隻が完成し、このほど同市白浜の水俣川で進水式があった。

舟は長さ十二・七メートル、幅一・三メートル、十七人が乗って漕ぎだすもので、約五百人を乗せようとするもので、水俣、芦北地方の海岸では古くから行われていたが、過疎化で客

王の若者が減ったことから県内では芦北郡津奈木町だけが残っていた。市青年団体連絡会議（岩阪雅文会長）が昨年十月、津奈木町からヘロン舟を借りて水俣川で復活させ、約五千人が詰め



クレーンでいよいよ進水



かけるほどの人気だった。

二十四日に行われる市の夏祭り「水俣みなとまつり」に、青年団体連絡会議の主催で参加することを決めたもので、市は三艇分の補助百五十万円を出し、残る三艇については市民の募金で補填されている。セリ舟大会は四十二チームの申し込みがあつており、大会

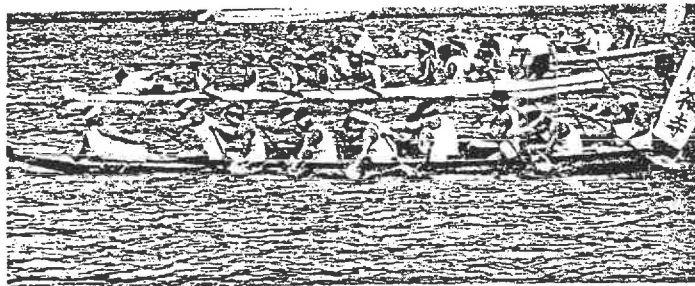


# 競り舟愛称募集結果

昭和52年7月9日締切として  
 競り舟に愛称を……と募集を行った

自 然 現 象		湯・月・星		花 木		山		地 名		動物鳥・魚・昆虫		社 寺		言 語 (方 言)		そ の		
船 名	応募数	船 名	応募数	船 名	応募数	船 名	応募数	船 名	応募数	船 名	応募数	船 名	応募数	船 名	応募数	船 名		
○あさかぜ	○2	あかつき	1	さつき	2	さくら	2	○矢城	6	筑前	1	はやぶさ	4	あそ	1	ナンクリ カエシ	1	昭和1号
○しおかぜ	○2	あけぼの	1	むつき	1	うめ	2	○矢筈	5	筑後	1	もづ	1	てんまん	1	ジグザグ リット	1	〃Ⅱ号
ゆうかぜ	1	おぼろ	1	きさらぎ	1	しょうぶ	2	鬼嶽	4	肥前	1	とき	1	はすまん	1	グワイ	1	大正1号
おきかぜ	1	ひびき	1	やよい	1	きく	2	大関	3	肥後	1	つばめ	1	ぎおん	1	オッドン	1	〃Ⅱ号
なみかぜ	1	やまびこ	1	うづき	1	あさかお	2	秋葉	3	大隅	1	はと	1	すわ	1	アバ	1	明治1号
たちかぜ	1	清流	1	みなづき	1	つばき	3	○亀齢	4	薩摩	1	とび	1	すみよし	1	アガタシタ	1	〃Ⅱ号
○はるかぜ	○2	浮雲	1	木星	1	しゃくやく	2	中尾	3	湯之児	1	たか	1					光峰
あきかぜ	1	雲海	1	水星	1	りんどう	1	城山	3	湯の鶴	1	ひばり	1					華舟
いそかぜ	1	青空	1	金星	1	ききょう	1	丸山	1	水俣	1	かもめ	1					希望
まつかぜ	1	○大空	1	光月	1	はぎ	1	阿蘇	1	○火の国	1	こんどる	1					青年
はつかぜ	1	○玉竜	1	水月	1	ゆり	1	雲仙	1	○山陽	1	とんぼ	1					みなと
ゆきかぜ	1	○呑竜	1	香月	1	ぼたん	1	霧島	1	出泉	1	いるか	1					セリー
かみかぜ	1	○雲竜	1	秋月	1	さざんか	1	高千穂	1	清水	1	ばんび	1					ハッピー
うずしお	1	○大海	1	○月光	2	すいせん	1	韓国	1	海陽	1	あゆ	1					ピース
くろしお	1	○スカイ	1	○流星	1	つつじ	1	三笠	1			とびうを	2					スマイル
ひきしお	1	○滝	1	○日の出	1	やまぶき	1											エンゼル
うしお	2	○泉	1	サン	1	梅桜	1											フレンド
ゆうなみ	1	レイン ボー	1	ムーン	1													ホープ
さざなみ	3			スター	1													アース
しらなみ	1																	活青
しらぬい	2																	恵院
いなづま	2																	
なぎさ	2																	
はやて	2																	
計			52		21		25		37		14		19		6		6	

# せり舟、若い力で復活

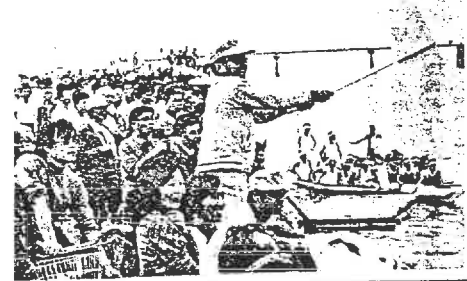


## 水俣川で18チームがレース

▼舟の上から若者同志の交流が続く。

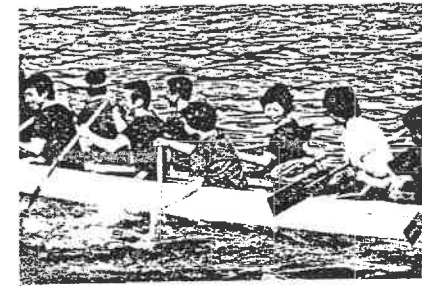


▼「ガンパレー」両岸から声援が飛ぶ。



打ち鳴らす鐘に合わせて櫂(かい)を漕ぐ、昭和34年を最後に途絶えていた勇壮な水の競技「せり舟」が、17年ぶりに復活しました。これは、市青年団体連絡会議が、「郷土の伝統行事を受け継ぎながら、若者たちが仲よく手を握ろう」と、第三回青年祭の行事の一つとして計画したものです。会場となった水俣川両岸には、懐かしい鐘の音につられて、約五千人の観衆が埋めつくし、熱っぽい声援を送りました。

レースには、市内の青年グループ十八チームが参加、大橋下をスタート点に河口までの五百メートルを、全身びしょ濡れで力漕しました。



▶せり舟競技始まって以来の女性選手も華やかに登場。  
▲ゴールを目前に最後のダッシュ。

**(入賞順位)**

一位湯堂、二位水東、三位丸木舟、四位津奈木町青年団、五位立尾防災、六位青年会議所、七位バオ、八位チツパチーズ、九位丸島青年団、十位葛渡青年団、十一位湯の鶴青年団、十二位6区消防団、十三位イワシタ、十四位浜消防団、十五位フォークダンス同好会、十六位チツン泰山寮、十七位レオ、十八位若い仲間の会。

**目録**

一 せり舟 一艇  
二 附属品 一式  
右贈呈致します

昭和五十一年七月二十四日  
水俣ロータリークラブ  
会長 永里吉春  
水俣せり舟建造  
実行委員会 敬

**目録**

一 せり舟 一艇  
右の通り贈呈します

昭和五十一年七月二十四日  
水俣ロータリークラブ  
会長 劉上末記  
水俣せり舟建造実行委員会  
岩阪雅文 敬

昭和51年10月17日

## 第1回大会

**命名**

一 あさかぜ  
一 いおかぜ  
一 はるかぜ  
一 やはず  
一 やしろ  
一 きれい

本日、第二回水俣市民競り舟大会を開催するにあたり市民の意を体し、幾久しく安全なる航路を祈念して、右のとおり命名する

昭和五十一年七月二十四日  
水俣市長 深池五泰

# 第2回大会 1977年 (昭和52年)

## 競り舟大会復活なる!!



優勝した湯の児チーム

### 湯の児チーム優勝

灼熱の炎天下に、若人の意気と、五千観衆の願いをかけた「水俣り舟大会」が7月24日、水俣川河口500メートルのコースで行  
この競り舟、もともとは、中国から渡来したもので、文字にする  
龍」と書き、これを中国語で発音すると「フェイロン」これがなま  
「ペーロン」又は「ビャーロン」と呼ばれているものである。

水俣のせり舟は、明治30年頃、当時八幡で長崎方面と商取引の  
森田国蔵さんという人が、長崎のペーロンを見て店員の舟子達に競  
たのが始まりと言われ、競り舟というより「ヘイヨヤツサ」と呼ば  
まれていたとのことである。

戦後、色々な事情から昭和34年を最後に、水俣の夏の風物詩競  
姿を消した。

それを昨年、ふるさとを愛する青年達が、青年祭として競り舟を  
げ、水俣にあの鐘の音が帰って来た。それを契機に市民の間に、競  
活の声が上がリ、今年は、主催、水俣市青年団体連絡会議主管、水  
競り舟大会実行委員会で開催した。

この実行委員会の構成メンバーは、さきに競り舟建造のため日夜  
続け遂に競り舟三隻分の募金を達成した競り舟建造実行委員会、教  
会社会体育課が主力となり、これに30名の体育指導委員と陸上競  
役員が、当日の競技役員として参加した。

競り舟大会実行委員は、大会当日までに十数回の会議をくりかえ  
に備えた結果、41チームという大量参加にもかかわらず、プログ  
予定した競技終了時間を二時間も短縮して、無事大会を終った。

### 第2回大会成績

1位	湯の児	2分29秒2
2位	湯堂	2分30秒7
3位	丸島親交会	2分30秒9
敢闘賞	水東	2分34秒1

### 第2回大会

期日 52年7月24日 参加チーム 41チーム

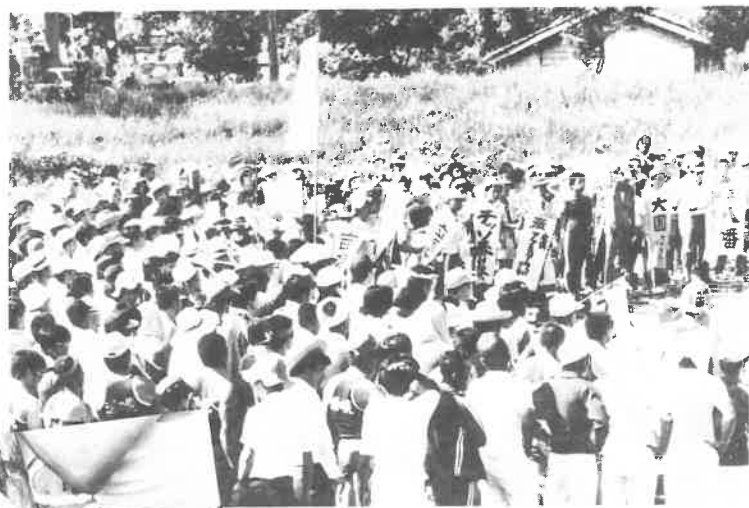
第2回大会は、自前の舟で、本格的な練習が行われ、各チームも第1回  
大会と比べみちがえるほど腕を上げ、すばらしいレースが展開された。

参加チームも41チームと第1回大会の倍以上に増え、応援の市民も  
水俣川両岸に、五千人が詰めかけ、競り舟の力漕に声援を送った。

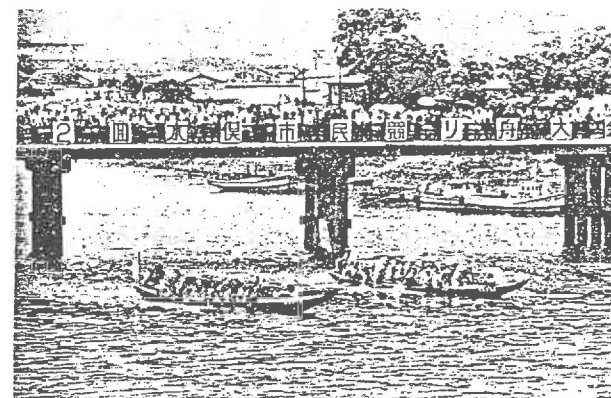
時 競り舟大会

昭和52年7月24日 8:30 開会式 9:00 競技開始  
水俣川において 500mコース

主催 水俣市青年団体連絡会議  
主管 水俣市民競り舟大会実行委員会  
後援 水俣市・水俣市教育委員会  
水俣商工会議所



新造船の第1回大会  
チーム数も41チームにふえた



第二回  
せり舟大会

鐘にあわせ掛声も勇しく  
NHKスタジオオーニで全国紹介

昨年の秋、十七年ぶりに復活した市の伝統行事せり舟が、今年は海の祭典にふさわしく、みなと祭りの最終日を飾って、7月24日、市内各団体、事業所など四一チームが参加して水俣川河口一帯で行われました。  
主催は市青年団体連絡会議、岩坂雅文会長で、市の補助を受けて六隻を新しく建造、このうち三隻は若者たちが自発的に街頭募金などをを行い、完成にこぎつけました。  
舟は出来るだけ昔の舟型に近づけて建造され全長十二尺。舟名も市民から募集した、やじろ・やはす・さけい・あさかせ・はるかぜ・しおかせと命名されました。  
入賞チームは次の通りです。  
優勝 湯の児、準優勝 湯堂、三位 丸島親交会、敢闘賞 水東の各チーム。  
〔写真上〕レースは水俣大橋下からスタート、五百メートルコースを三隻で競漕した。



往年の鐘叩きが蘇る

国内の動き

県内の動き

市内の動き

- カーター米大統領就任
- 日航機ボンベイで日本赤軍にハイジャックされ10月3日アルジェリアで全員解放
- 巨人軍、王貞治選手756号ホームラン世界新記録達成
- 有珠山噴火
- 毒入りコーラ事件

- ・不況倒産、閉鎖相次ぐ
- ・熊本市の人口50万人突破
- ・全国初の一斉自作共通テスト実施
- ・人吉ループ橋完成
- ・学校火災相次ぐ

- ・初野に隼人式古墳発見
- ・第1中学校校舎改築工事完成
- ・水俣・芦北消防組合発足
- ・老人ホーム恵愛園、白浜町に改築完成
- ・第1回体力づくり市民大会開催



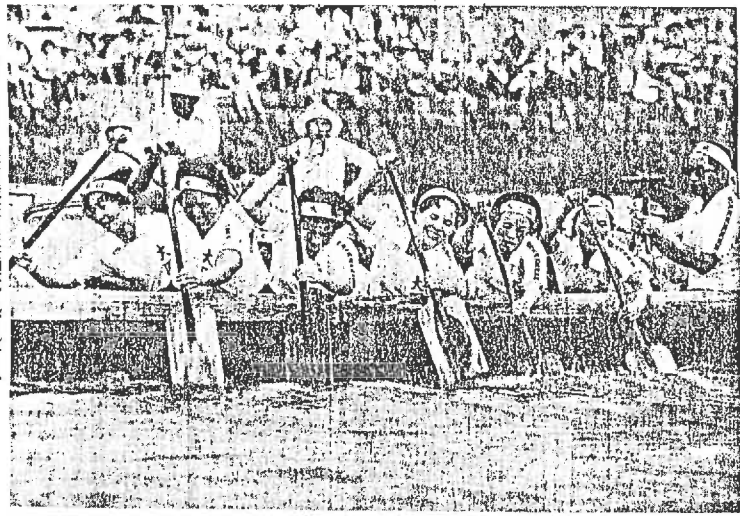


# 帰ってきた水俣の夏

女性チームも見事なカイさばき

## セリ舟に5000人の声援

「カリンカインカイン」「ソーレ」「カリンカインカイン」  
勢のいいリズムが響き、水俣では再び夏が盛りだくさんだ。



山形県も勢よく大会に花をえた大園バレーボールチーム



18年ぶりの大会に詰めかけた多数の観物人

体感があった。十八年ぶりの夏祭りに来た。水俣の夏祭りは、昭和三十四年から長い空白のお盆格的復活した水俣市のセリ舟大会(水俣市青年団連絡会主催)で、水俣市は「飛騨」は二十四年前九時から水俣川河口の五百メートルに開かれた。参加四十一チームは新造された六隻の舟を操り、うたをよびながら水俣川を流す。舟を操り、見物に集まった五千人余りの市民で水俣川畔は、終日十八年ぶりに「わい」を見せた。

○午前九時からの開会式で、水俣市長は「セリ舟の復活は、古い伝統に青年の思いがこめられた」といって、表裏がきを述べ、青年の力が欠かぬものである、若い力がこの大会を作り上げた、と、祝辞を述べた。

○地域、隣域、同好会などさまざまなチームのなかで特に注目無事にならぬかと思わしき。

を築いたのは唯一の女子チームである大園バレーボールチーム。一が、はばよの大会出場を交わしたが、よままとまされたいな酒( )きりを見たら、結局一回戦で姿を消した。それでも「土出来ハイ」最初はヨルまで、



ママさんチームも「ふるさとづくり」に一役をかって・・・

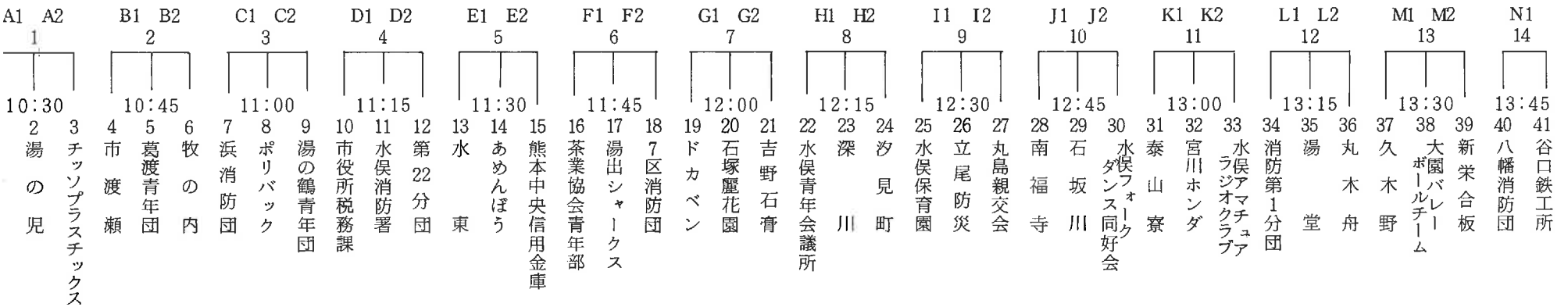
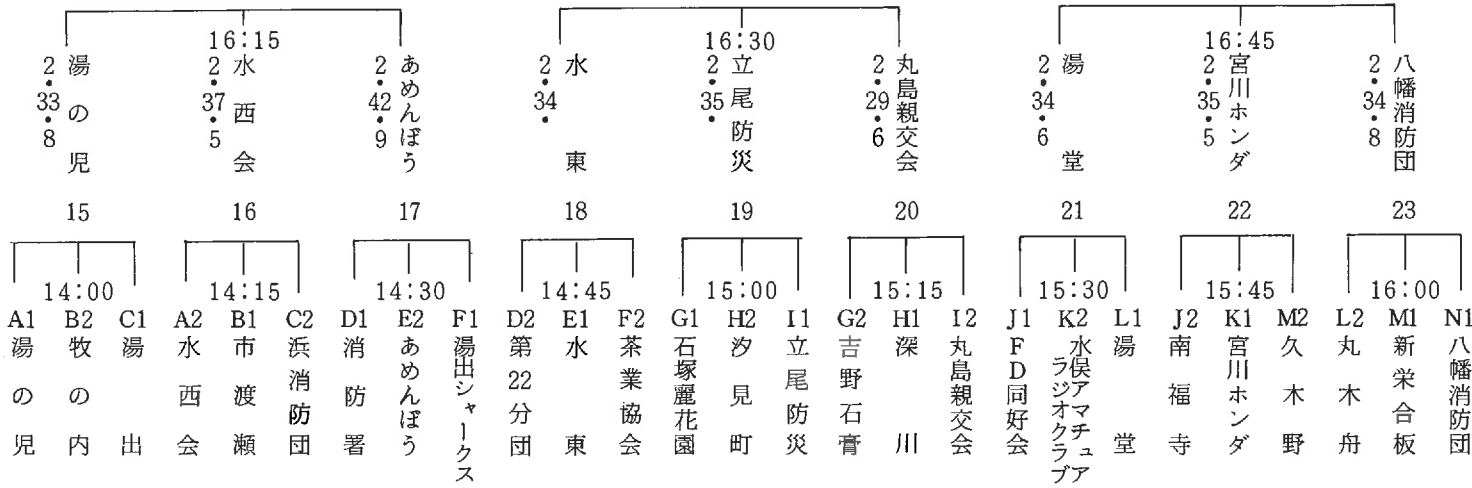
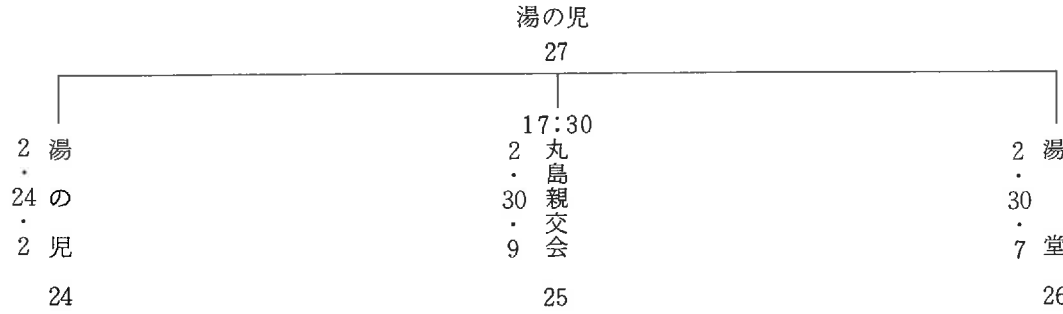


長崎県も勢よく大会に花をえた大園バレーボールチーム



## 第 2 回 水 俣 市 民 競 り 舟 大 会 組 合 せ 表

1 位	湯 の 児	2 分24秒 2
2 位	湯 堂	2 分30秒 7
3 位	丸島親交会	2 分30秒 9
敢闘賞	水 東	2 分34秒 1





# 第3回大会 1978年 (昭和53年)

## 湯堂チーム 2度目の栄冠



優勝した湯堂チーム



しぶきをあげて、懸命の力漕

### 第3回大会成績

1位	湯堂	2分39秒2
2位	消防署	2分39秒6
3位	湯の児	2分41秒2
敢闘賞	深川	2分26秒3

### 第3回大会

期日 53年7月23日 参加チーム 48チーム  
 当初青年達の手で復活し、青年団や同好会でチームをつくり出していたが、3回大会になると、地区単位で出場するチームが多くなり、地区を上げての競り舟大会へ移行していった。  
 3回大会のチーム結成状況 地区17チーム、職場16チーム、団体9チーム、同好6チームであった。

日 時 競り舟大会

昭和53年7月23日 7:30 開会式 7:45 競技開始

水俣川において 500mコース

主催 水俣市・水俣商工会議所  
 水俣市青年団体連絡会  
 主管 水俣市教育委員会  
 水俣市体育指導委員協議会  
 後援 水俣市体育協会

## 全市民の血を沸かす

### 第3回 競り舟大会 48チーム参加

は皆んなが確認する“水俣は生きている事”格的に復活した水俣市の伝統行事「第3回民競り舟大会」は、みなと祭りのフィナーって、水俣川河口で、勇壮に行われた。の水俣は市民的行事を待ち望んでいた。若人も、市民体育祭が消え競り舟が消えその市民感情の内にさえ消えかかっていた。時代から町民の心を沸かせて来た、この競会が途絶えたのは、水俣争議及び水俣病が、生活に、大きなカゲを落し始めた34年のある。

し、若者は、水俣を愛した。“水俣は生き”事を実証した。一昨年若い水俣の仲間が競り舟が途絶えてからの永い空白のあとを、勇気と、水俣をよみがえらせたい若者の気色々と挫折しながらも市民的行事を待ち望た人々の心と融合して、競り舟六隻の建造、伝統的行事を見事に復活させたのだった。23日、この日、暦は大暑、潮位の関係で午前7時30分から始ったが、午前中からはウナギ上りで、うだるような暑さに包まそれでも、伝統行事復活3年目の市民は、レースにひかれ、鐘の音に誘われて出足は

早朝から好調、出場チームと、両岸に陣取る応援者のテントの数もグッと増えて60余張りにもなった。

なかには、前日から応援者同志の陣取り合戦もあったとか……それぞれに、夏にふさわしい色彩りを添えて両岸に陣取った観客は、選手の力漕に暑さも忘れ鐘の音に合わせて盛んな声援をおくった。

今回は48チームが参加し白熱したレースが展開された。昨年は正式復活1年目で、練習不足や技術的に未熟なチームが目だったが、今年はコース侵犯もなく、競技終了予定時刻を25分短縮して、午後1時5分全競技を終了した。

さすがに3年目を迎えた競り舟は、各地で熱が高まり、試合前から相手チームのけん制や、情報収集から練習偵察を行い、陸上においては毎日の空漕ぎ等先輩老人達の指導の甲斐もあって実力伯仲のチームが多くなった。

レースは、前評判通り、湯の児、湯堂チームが決勝レースに勝ち残ったが、消防署がその一角に喰い込み、準優勝を飾ったことは天晴れであった。

これからの競技のあり方としては、昨年から強く要望されている、敗者復活戦を是非考えなくてはならないのではないだろうか。



女性とて力が入ります

#### 国内の動き

平総裁誕生  
 城、伊豆でM7級大地震  
 急騰、1ドル180円を突破  
 減らし広がり、失業高水準に  
 ラ金社会問題化  
 モンなど薬害訴訟で被害者勝訴  
 田空港、難問山積のまま開港  
 クルト日本一

- ・王貞治前人末踏の800号
- ・英で試験管ベビー誕生

#### 県内の動き

- ・阿蘇山上にアストログレンデ登場
- ・水俣病認定業務促進法成立とチッソ県債発行決定
- ・熊本市庁舎の建設決まる、現在地に15階建て
- ・真夏日が連続36日も、各地で水不足
- ・熊本工大高が甲子園で活躍
- ・ダイエー熊本本店決まる、規模は大幅縮小

#### 市内の動き

- ・文化会館牧の内に完成
- ・国立水俣病研究センター完成
- ・九州河村電器KK水俣工場が完成
- ・四ツ角に視覚障害者用信号が設置される
- ・第2小学校体育館が完成
- ・水俣市民の歌を制定



ゴール、カイが先に上がります



男性顔負けのこのパワー



ゴールあとの爽やかさ？

女子チームも参加  
水俣で競り舟大会  
水俣市の水俣川河口で二十三日に第三回市民競り舟大会(ペーロ競走)が開かれた。各配内や船場からこれまでの最高四十八チームが参加。川岸には一万人の市民が詰めかけ、ひいきのチームに

熱い声援を送っていた。  
この競り舟大会は、過疎化で幸の若者が減り三十四年以降となっていたが、一昨年の市民の若者たちで作っている水俣市青年団連総会(岩崎雅文会長)が音頭をとって復活させた。今では「みなまじり」の中心行事としてすっかり定着した。

ペースはかねの着に合わせて十  
四人のこぎ手がいっせいにかいを  
振り、五百メートルを三分前後でき抜  
く勇壮なもの。水俣市連合青年団  
女子チームの紅一点の参加で盛  
んな声援を受けていた。  
成績は次の通り。  
優勝 磯堂マサ優勝 水俣消防  
器三位 湯の尾マサ爾優勝 深川

# 猛暑吹っ飛ばす力漕

## 水俣市民 せり舟大会



初夏の香りが漂う

### 伝統行事に48チーム 見物人も盛んに声援

本格的に復活した水俣市の伝統行事「第三回水俣市民せり舟大会」はみなとまつりのフィナーレを飾って二十三日、水俣川河口で勇壮に行われた。

明治時代から市民を沸かせてきたこのせり舟大会が途絶えたのは水俣病が市民の生活に大きな力ガを落とし始めた三十四年のこと。しかし、長い空白のあと一昨年、青年たちの若い情熱が見事に伝統行事を復活させた。

この日の水俣は、昨年と同じく酷暑の一日。潮の具合で早朝の午前七時半から大会は始まったが、午前中から本銀柱はウナギより

で、うだるような暑さに包まれた。それでも市民の出足は好調で、昨年とはほぼ同じ五千人が見物につめかけた。

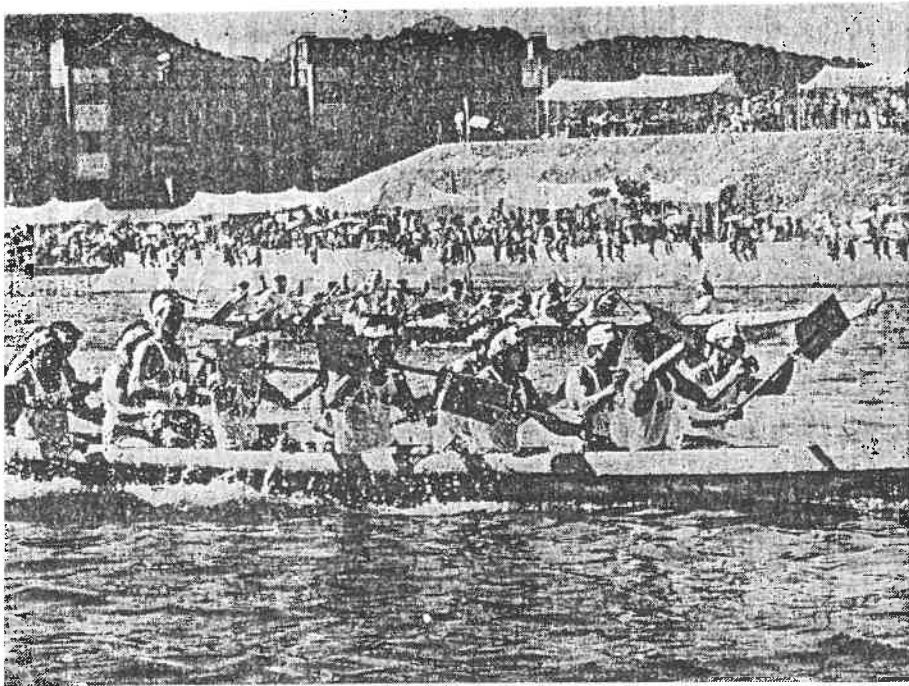
今回は昨年を上回る四千八百八十八人が参加、開会式で昨年優勝した湯の男チームの村崎安雄選手が宣誓してレース開始。レースは一チーム十七人が舟に乗り込み、五百メートルのコースを三チームずつで競うトーナメント形式。両岸に陣取った見物人たちは選手の方漕（そら）に暑さも忘れ、「カーン、カーン、カーン」のカネの音に合わせて盛んな声援を送っていた。

#### がんばった女子艇

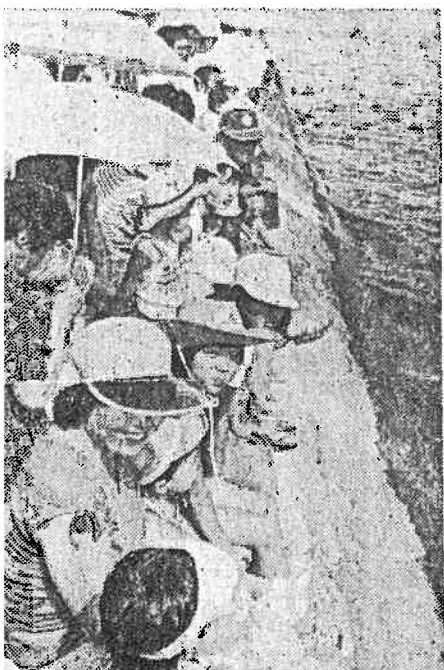
○この日、観衆の注目を集めたのは、紅一点の水俣市連合青年団女子チーム。「男に負けるなよ」の大声援を受け、練習の成果を見せて恩の合ったできぶりだったが、体勢を整えないままに又々



最年少艇長、熊田マサ子の東拓慶選手

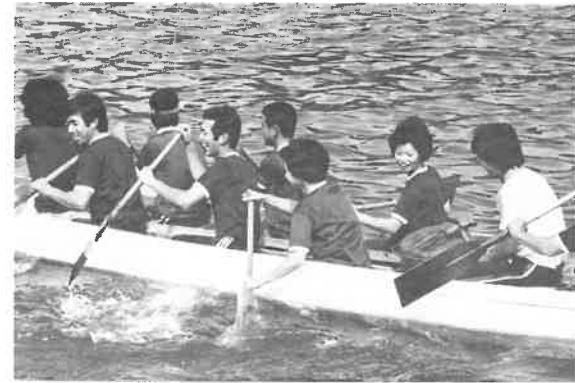


水しぶきを上げ、掛け声も勇ましいせり舟大会（水俣市水俣川河口で）



水俣川河畔につめかけた見物人





# 第3回 水俣市民競り舟大会

S 5 3.7.2 3 (日)  
7時30分開会式

(注) 1回戦の勝ち残り2チームを表わしたA 1は勝ち残った2チームのうち若番を表わし、A 2は後番を表わすもので、勝ち残った2チームの順位(1位、2位)を表示したものではない。

湯 堂 <2回目>  
(2・39・2)1コース  
(13:00)

<閉会式終了13:30>

開始 AM7:45  
-ス予定時間 10分  
終了予定時間 PM1:30  
湯 堂 2・36・0  
湯の児 2・29・2  
記録 2・26・3(深川チーム)  
第3回 S53.7.23)

優勝戦

(2・39・6)3  
②8

2位

湯

③1

2・39

2・堂

1

②9

1位

招待レース△

市議員団 (3.21.4) 3コース

ロータリークラブ(3.08.3) 2

市役所一新会(3.15.8) 1

津奈木青年団(3.05.3) 4

湯

④3

の

41

2・児

2

③0

12:20

(タイム)コース

①7の勝者 丸島親交会 2・38・4 2	②0 水俣消防署 2・31・4 1	③1 高木建設 2・45・0 4	④2 深川 2・32・9 3	⑤3の勝者 石坂川 2・41・4 4	⑥4 合口鉄工所 2・47・2 1	⑦2 牧の内 2・37・4 2	⑧1 湯堂 2・36・9 3	⑨2の勝者 新栄合板A 2・36・9 2	⑩1 湯の児 2・36・7 3	⑪3 宮川ホンダ 2・42・4 1	順位
コース	2	1	4	4	1	2	3	2	3	1	コース

11:50

①7 丸島親交会 2・43・6 3	②1 新栄合板B 2・37・2 2	③2 石坂川 2・39・8 2	④3 茶業青年部 2・45・6 1	⑤2 浜消防団 2・49・0 2	⑥1 谷口鉄工所 2・51・0 1	⑦3 ザ・ドラゴン 2・51・0 3	⑧2 水俣消防署 2・35・0 1	⑨3 チソップラスックス 2・43・6 2	⑩1 高木建設 2・49・4 3	⑪3 黒木酸素 2・32・4 2	⑫2 水俣FD同好会 2・39・0 1	⑬1 新栄合板A 2・32・2 3	⑭2 ポリバック 2・26・3 2	⑮1 深川 2・32・8 1	⑯2 第3分団 2・42・8 2	⑰3 江口建設クラブ 2・47・6 3	⑱3 水俣アマチュアクラブ 2・39・3 1	⑳2 三和車体 2・34・5 3	㉑1 湯の児 2・32・9 2	㉒2 立尾防炎 2・31・8 1	㉓3 第7分団 2・42・0 3	㉔2 第2分団 2・46・2 2	㉕3 第2分団 2・47・2 2	㉖1 宮川ホンダ 2・36・9 1	㉗2 熊日クラブ 2・52・8 2	㉘1 湯堂 2・41・5 1	順位		
コース	1	2	1	2	1	3	1	2	3	2	1	3	2	1	2	3	1	3	2	1	2	3	2	3	1	3	2	1	コース

10:27

① 湯出連合A 2・18・5 3	② 石坂川 2・46・3 1	③ スナックとむ 2・47・8 3	④ 丸島親交会 2・48・2 2	⑤ 新栄合板B 2・55・0 3	⑥ 茶業青年部 2・41・2 1	⑦ 浜消防団 2・56・2 3	⑧ LOD 2・53・4 2	⑨ 青年団女子 2・47・0 1	⑩ ドカベン 2・59・0 3	⑪ 水俣消防署 2・39・4 2	⑫ 谷口鉄工所 2・47・5 1	⑬ ザ・ドラゴン 2・58・9 1	⑭ チソップラスK 2・50・5 3	⑮ 電々水俣 2・59・0 2	⑯ 高木建設 2・45・1 1	⑰ 水俣FD同好会 2・48・2 3	⑱ チソップラス 2・56・7 2	⑲ 新栄合板A 2・45・9 3	㉑ 葛渡青年団 2・08・2 2	㉒ 黒木酸素 2・03・0 1	㉓ 水俣高校 2・46・6 3	㉔ 深川 2・03・2 1	㉕ 水俣ライオン 2・06・9 2	㉖ スクラブ 2・46・7 1	㉗ 水俣アマチュア 2・05・2 3	㉘ 消防第1分団 2・07・0 2	㉙ 三和車体 2・53・4 3	㉚ 第3分団 2・51・9 1	㉛ 江口建設工業 2・05・6 1	㉜ 汐見町 2・06・6 2	㉝ 湯の児 2・55・5 3	㉞ 立尾防炎 2・48・0 2	㉟ 中央信用金庫 2・19・4 3	㊱ 第2分団 2・56・0 1	㊲ 第2分団 2・52・8 1	㊳ 青年会議所 2・16・2 2	㊴ 宮川ホンダ 2・58・6 3	㊵ 熊日クラブ 2・52・4 2	㊶ 熊日クラブ 2・00・7 1	㊷ 水俣市農協 2・09・6 3	㊸ 大園 2・51・6 3	㊹ 湯出連合B 2・56・2 2	㊺ 湯堂 2・44・8 1	順位
コース	2	3	2	3	1	3	2	1	3	2	1	1	3	2	1	3	2	3	2	1	2	1	3	2	1	3	2	3	1	2	3	2	3	1	2	3	2	1	3	2	1	コース		

# 第4回大会 1979年 (昭和54年)

## 新栄合板初優勝

54チームが参加



優勝した新栄合板チーム

ことしの競り舟大会には、予想どおり54チームが参加しましたが、大会を主管する社会体育課にとりましては嬉しい悲鳴でございます。何故ならば、舟は6隻、潮位からみた競技可能時間は最大6時間(360分)レースは、トーナメント方式でも34レース、招待レースを加えると36レースとなり、1レース当りの持ち時間は10分、ちなみに、第2回大会の1レース当り平均所要時間は1分42秒、第3回大会が1分39秒となっており、この実績からみる限り6時間内に36レースを終了することは困難と考えられたからです。然し、生むは案ずるより易し、例えの如く、大会は予定時間を30分も短縮して無事終了しました。

今回はここで、苦勞の多い競技役員の活躍を簡単に紹介してその勞を謝したいと思えます。

競技役員には、選手係、抽せん係、配艇係、出発係、スターター、決勝係(計時、着順)コース審判、等がありますが、この何れか一つに支障をきたしますと、連鎖反応を起してレース全体の流れが悪くなります。各競技役員は、このことをよく自覚して、各々の分担業務を遂行することに全力をあげています。

選手係が、観戦に熱中のあまり遅れがちなチームの呼集に汗だくの奮闘をみせれば、配艇係は不安定な浮きさん橋の上で、舟の回転

をスムーズに行うべく選手の乗降をし、励、出発係とスターターは、照りつけず橋の上で、崩れ易いスタート体形を作るのに声を枯らしており、決勝役員は、片手に手製の照準器でゴールラインをという急がしさ。唯一つ、衆人觀視の縦横無尽に突っ走っているコース審判しぶきをあげる快速艇をみていると、これも涼味満点と思われませんが、左に非ず、下に影もなく、36回もレースの後を調整のなかに、コース侵犯監視の重要なおびており、かたときの油断もできないのが真実のようです。

これ等競技役員が支える影の力により年の大会も成功裡に終了することができた。

今年は、強豪と目されていた湯堂、丸島、が共に水東チームに敗れるといわせを演じ、何れも決勝進出はなりません。決勝に進出した、水東、深川は、回、第3回大会に、夫々敢闘賞を受賞し、実力を持ちながらチャンスに恵まれたチームであります。決勝レースは、深川、新栄合板により争われましたが、28秒4の好タイムで新栄合板が初優勝りました。新栄合板、優勝おめでとご後に、今大会最高

チッソプラスチックスの健闘を称えたいと思います。

### 第4回大会成績

1位	新栄合板	2分28秒4
2位	深川	2分31秒4
3位	水東	2分33秒8
敢闘賞	プラスチックス	2分28秒0

### 第4回大会

期日 54年7月29日 参加チーム 54チーム  
参加54チーム、6隻で消化できる最高のチーム数である。競技運営も、潮に合わせて行なわなければならない、これ以上チーム数が増えるなら、舟を新たに3隻つくらなければ実施できなくなった。又、参加者からも、朝早くから出て来て、1回漕いで終りというのでは、何のため練習してきたかわからない。せめて2回は漕ぎたいとの声が多く聞かれた。

日 時 競り舟大会

昭和54年7月23日 8:00 開会式 8:30 競技開始  
水俣川において 500mコース

主催 水俣市・水俣商工会議所  
水俣市青年団 水俣市教育委員会  
水俣市体育指導委員協議会  
後援 水俣市体育協



応援は5,000人を越える



初夏の日差しがまぶしい（開会式）

国内の動き

- ・総選挙、自民の単独支配揺らぐ
- ・鉄建公団不正、KDDも疑惑
- ・石油ショック日本を揺さぶる
- ・航空機疑惑（日商岩井）
- ・第5回先進国首脳会議（東京サミット）
- ・東名高速日本坂トンネル事故
- ・大阪の猟銃強盗人質ろう城
- ・箕島、真夏の甲子園制覇
- ・世界柔道選手権、山下初優勝

県内の動き


- ・河津寅雄氏死去と県連内紛
- ・阿蘇中岳爆発で14死傷
- ・大洋デパート更生計画成り城屋オープン
- ・ネズミ講、ついに終息（無限連鎖講禁止法施行）
- ・免田事件の再審決定
- ・国体で県勢大躍進、天皇杯3位に
- ・中学生5人、阿蘇高岳で遭難

市内の動き

- ・市が特定不況地域に指定される
- ・市議会議員選挙
- ・県水俣病検診センター改築オープン
- ・水俣川で西日本カヌー選手権大会
- ・ママさんバレー「ひまわりチーム」が全国優勝
- ・袋中学校完成



**熊本県版**



＜大塚と藤子郎＞  
 飯田 飯島 (白旗公友・熊本市 出水3丁目)

熊本新聞	電話	5283	新報第一丁目	電話	1892
八代支局	電話	5283	八代支局	電話	1892
水原支局	電話	5283	水原支局	電話	1892
天草支局	電話	5283	天草支局	電話	1892
阿蘇支局	電話	5283	阿蘇支局	電話	1892
玉名支局	電話	5283	玉名支局	電話	1892
宇土支局	電話	5283	宇土支局	電話	1892
山鹿支局	電話	5283	山鹿支局	電話	1892
南阿蘇支局	電話	5283	南阿蘇支局	電話	1892

広告費は西日本新聞社 電話 3181

# 『明るい水俣づくり』と取り組む



艇 庫

## 競り舟3隻、新造

参加者から要望が強かった、3隻の新造が認められ、競り舟が9隻になるとともに、これまでの仮設の艇庫から、新しく競り舟艇庫が建設された。

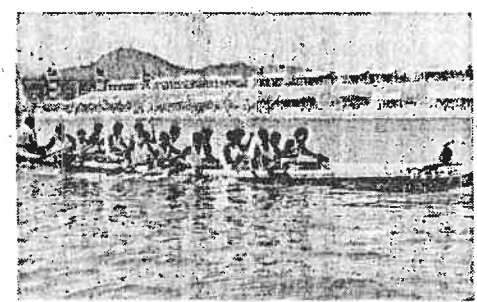


出番をまつ競り舟

# 避けて通れぬ水俣病

## ためらいと模索と苦悩

異質の七団体... 向上流... 模索と苦悩... 水俣病... 競り舟... 艇庫... 建設... 参加者... 要望... 認められ... 仮設... 艇庫... 新しく... 競り舟... 艇庫... 建設... された。



青年団体道徳会が復活させた競り舟大会 (昨年の大会から)

# 特捜する

希望ある郷土とは... 青年団体の住民... 競り舟... 艇庫... 建設... 参加者... 要望... 認められ... 仮設... 艇庫... 新しく... 競り舟... 艇庫... 建設... された。

# 第4回 水俣市民競り舟大会組合せ表

新栄合板

優勝 新栄合板  
 二位 深川  
 三位 水東  
 敢闘賞 チッソプラスチック

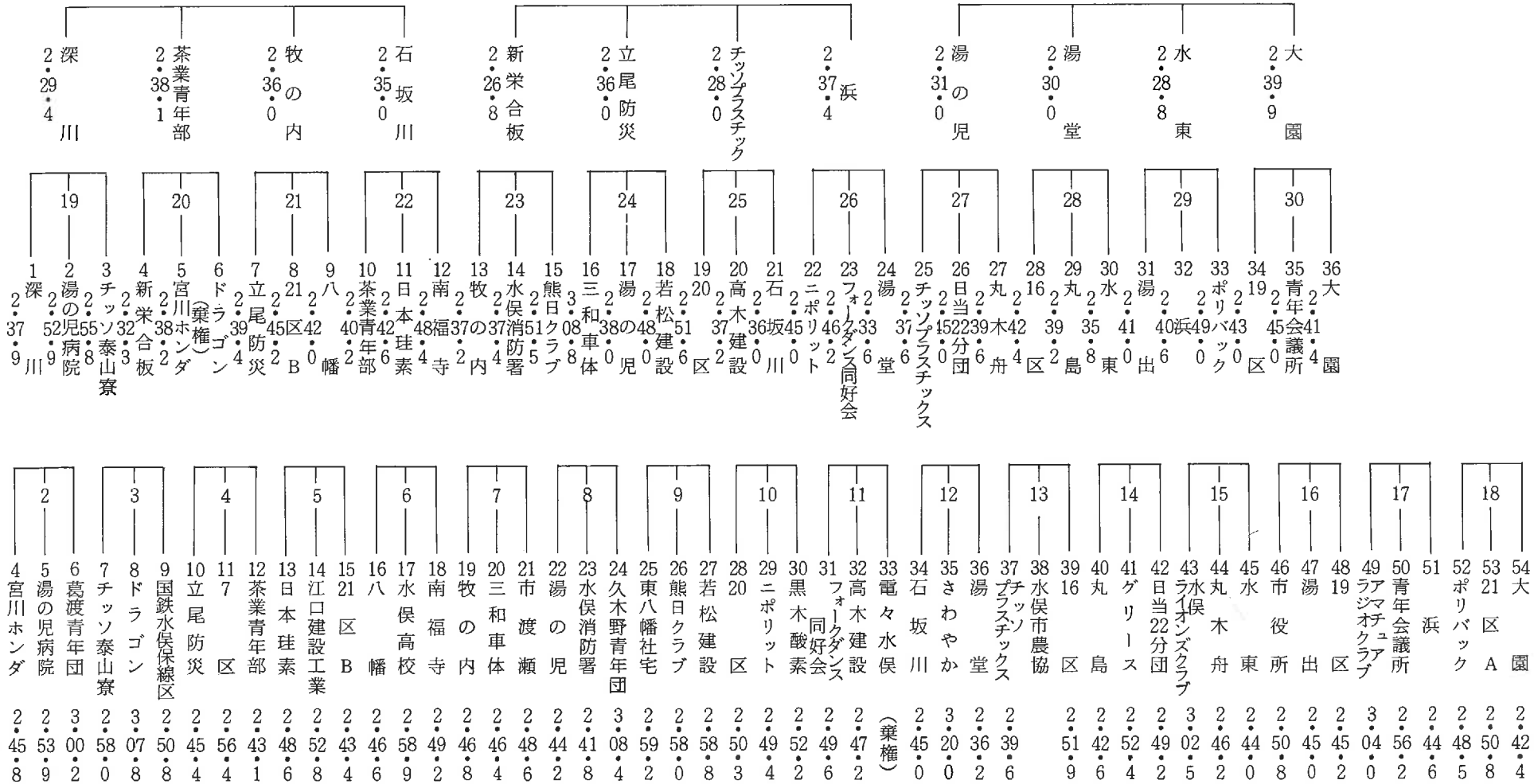
スタート AM8:20  
 スタート終了 PM2:13  
 時間 5時間43分  
 平均所要時間 9分32秒

決勝戦

2.31.4  
 深川

2.28.4  
 新栄合板

2.33.8  
 水東



# 第5回大会 1980年 (昭和55年)

## 石坂川チーム初優勝

敗者復活戦からみごと勝ちあがる

### 2位湯の児、3位消防署

第5回市民競り舟大会は、7月20日、地域、職域、同好の55チームが参加して行われました。

競り舟大会も5回目を迎え、水俣の夏の一大行事として定着して来ました。今年は、港祭り期間中に実施することができ例年のない盛り上りを見せましたし、舟も新に3艇造り、敗者復活戦もできるようになりました。

大会は、前評判の良かった、新栄合板、深川、湯堂、大園、水東、湯の児、消防署が順調に勝進みましたが、1回戦で、3位となり敗者復活にまわった石坂川が、2回戦から調子が出てき、準々決勝、準決勝と勝ち進み、決勝まで進出しようとう優勝してしまいました。

大会を見守る観衆もまさか石坂川チームが敗者復活から優勝するとは、誰

も考えなかったでしょう。

今までの大会では、全て海辺のチームでしたが、今回は、山手の石坂川が優勝したことにより、山手でもやればできるという事が実証されました。

また今年は、スタートを、大橋の橋の角度に合わせることにより、スタートがやりやすくなり、時間短縮に役立ちました。

桟橋も固定式のものをつくることにより選手の方々からよろこばれました。

しかし、事前の準備は、大変です。コースづくりも、潮の関係で夕方5時から始め、その日1日ではできず、翌日の朝6時半から海に潜りやっと作ることができました。裏方をされる体育指導委員や関係職員の方の苦労は、目に見えない所でこの大会をささえています。毎年御苦労さんです。



優勝した石坂川チーム

### 第5回大会成績

1位	石坂川	2分29秒4
2位	湯の児	2分31秒0
3位	消防署	2分31秒4
敢闘賞	深川	2分29秒8

### 第5回大会

期日 55年7月20日 参加チーム 55チーム

今大会から、舟が九隻になり敗者復活戦ができるようになる。

その恩恵を一番に受けたのが今回優勝の石坂川である。一回戦で、敗者復活にまわりながらみごと、勝ち上がり、初優勝を飾った。

寺 競り船大会

昭和55年7月20日(日) 9:00 開会式 9:30 競技開始

水俣川河口 500mコース

主催 水俣市・水俣商工会議所  
 水俣市青年団  
 水俣市教育委員会  
 水俣市体育指導委員協議会  
 水俣市体育協



力漕相手も気に成りません



親子で声援、おとうさん、がんばって

### 国内の動き

- ・衆参両院同日選挙で自民圧勝
- ・大平首相急死と鈴木内閣発足
- ・静岡の地下街でガス爆発15人死亡223人重軽傷
- ・乱心乱療の富士見病院事件
- ・自動車生産世界一欧米と摩擦
- ・長島退団、王引退、プロ野球新時代へ
- ・川治温泉ホテル火災45人死亡
- ・自民党内抗争で内閣不信任案可決
- ・モスクワ五輪不参加
- ・木田、新人でMVP

### 県内の動き

- ・異常気象で農作物に大被害
- ・8・30水害
- ・牛深市で談合汚職
- ・ダイエー進出

### 市内の動き

- ・岡山不燃物処理場が完成
- ・水俣湾ヘドロ処理工事が再開
- ・第1回GK杯バレーボール、ひまわりチーム優勝
- ・衆・参両議員選挙
- ・西の浦グリーンスポーツ施設着工
- ・水東小学校プール完成





舵も漕ぎ手以上に緊張する



ビデオも登場、戦力アップに一役

# 私たちも漕ぎますッ

## 水俣市連合青年団の女子部

昨年、本格的に復活した水俣市の真夏の名物行事、せり舟大会はことごとし二十三日、水俣川畔で開かれるが、四十七の男子チームに交じってただ一つ女性チームが出場する。市連合青年団女子部 田中節子主将で「自分たちの手で伝統行事を守っていく」と大会を前に連日、気合の入った練習を続けている。

### カシ取りは男性に



女性チームとしてただ一つ、せり舟大会に出場する連合青年団女子チーム

# せり舟大会出場へ "か細い腕"で猛練習

大会を運営。その合間に女子の委員が、舟に乗ってみたところ、思ったよりうまく漕(こ)げないとき、思い思いの出を作ろう」「昨年ほどという女性のなかから十六人を

ハンデいはなし  
女性チームだからといって、スエド・タイキップが与えられるわけではないが、平均年齢も二十歳ちょっとの元気の良い若い女性ばかりで、「勝つことが目的ではありません。これを参加することで本気の意識があるので、ぜひよか」(田中主将)とチームワンのため毎日、汗を流している。

唯一の女性チームとして出場しているだけに「これは(女性チームが)三チームぐらいになるのでは」と思っていた青年団チームだったが、最終的には、ことごとし一つしか出場しないことになり、同チームのメンバーたちもちょっと残念だ。



# 第6回大会 1981年 (昭和56年)

## 深川、チームワークで初優勝

### 第6回市民競り舟大会

### 二位丸島、三位消防本部

第6回水俣市民競り舟大会は、7月26日、水俣川河口500メートルのコースで開催されました。今年は、満潮時刻が午後4時45分と遅く、午後12時30分から開会式、同48分に第1レースが開始されました。

6月15日から35日間にわたり、海上練習8回と、毎日の空漕ぎで鍛えた1,225名の精鋭ぞろいでした。

何れ劣らぬ強豪チームのなかで、今年、前評判の高かったチームは、深川、石坂川、消防本部、新栄合板、などの他、過去に実績をもつ、湯堂、水東、湯の児、丸島チームに、南福寺、3区、大園、らの名前があがっていました。

競技は1回戦18レースのあと、敗者復活戦6レースを行い2回戦進出の42チームがそろい、1回戦、敗者復活戦は言わば予戦で、2回戦からは決勝トーナメント、1位のみに準決勝、決勝への道が開けるわけで、どのチームも2回戦から全力をあげての力漕となる。余力を残してなんて甘い考えで臨むと思わぬ不覚をとることになります。

各監督は、対戦チームの実力を診断し、刻々に増減する潮位と流れの変化を読み、コースや舟のハンディも考慮しながら戦術を練るのであるが、一番くじを引いて、舟か、コースか、何れかの選択権をとらないと、作戦も思うにまかせない結果となる。例え一番くじを引いて希望コースはとれても、舟は「やじろ」だったりということも

あり得る訳です。どうしても、「やじろ」の評判が悪い。舟足が重いということも理由のようですが、今年は1位を31しているし、多分に先入感的な感じなのですが……

今年のダークホースは丸木舟。大会まで「選手はそろうとだろうか」と言われていたが、1回戦はまぐれと言われ、2回戦では強豪水東を抑えて準決勝、準決勝では、湯の児病院、南福寺、と組んで悠々1位、一戦一戦に調子で遂には決勝レースに進出。

決勝レース進出を果たしたチームは、消防本部、深川、丸島。消防本部は、第5回大会3位の実績、福田消防長自らが艇長になっての指揮で士気まさに旺盛。深川は第3回から、敢闘、準優勝、敢闘を受賞し、秒3の大会記録をもっている。丸島は第4回大会で3位に入賞したあと、華々実績こそ残していないが、実力を秘めたチームの一つです。

対する丸木舟は、どちらかと言えよりユニークなチーム名で知られては実は知る人ぞ知る往年のカヌー選手、豪名門を相手にその活躍が期待されたがあるが、練習不足、いや、練習なしのつけ本番が、最後になって息切れしたようです。

午後12時48分に始まった競技は午後5時52分、5時間4分にわたる身ドラマに終りを告げました。



優勝した深川チーム

#### 第6回大会成績

1位	深川	2分35秒6
2位	丸島	2分36秒4
3位	消防署	2分37秒2
敢闘賞	新栄合板	2分32秒2

#### 第6回大会

期日 56年7月26日 参加チーム 54チーム  
本大会は、54チーム中、26チームが地区代表チームとなり、競り舟が、市民の間に定着し、地域のコミュニティづくりに大きな役割を果たすようになった。しかし、

それともない練習にも熱がはいりすぎ、経費が過ぎるという問題も出て来だした。

レースは、これまで好記録を残しながら、優勝できなかった深川が念願の初優勝を成し遂げた。

時 競り舟大会

昭和56年7月26(日) 12:30 開会式 12:45 競技開始

水俣川河口 500mコース

主催 水俣市・水俣商工会議所  
 水俣市青年団体連絡会議会  
 主管 水俣市教育委員会  
 水俣市体育指導委員協議会  
 後援 水俣市体育協会



「のぼり」の旗も応援旗に



招待レース、女性とて負けられません

国内の動き

- ・ 巨人軍が8年ぶり日本一
- ・ ポーランドに軍政
- ・ 元榎本夫人、衝撃証言
- ・ コロンビア、飛行に成功
- ・ 放射能漏れ
- ・ 福井教授にノーベル賞
- ・ 付米欧の貿易黒字、史上最高
- ・ 化炭夕張で93人死亡
- ・ サダト大統領暗殺

県内の動き

- ・ 荅北火電建設へ
- ・ 相次ぐ公務員汚職
- ・ 植木町長失職
- ・ 「典子は今」大ヒット
- ・ 山下柔道世界選手権で2冠

市内の動き

- ・ 都市計画道路幸町～牧の内線開通
- ・ 城山テニスコート完成
- ・ 寿屋水俣店オープン
- ・ 「グリーンスポーツみなまた」オープン
- ・ 中央商店街のアーケード完成





初体験 乗れるかしら？



自前の応援席は最高です

## 第6回市民競り舟大会成績一覧表

順位	チーム名	タイム	備考
	新栄合板	2' 44" 5	敢闘賞
1	久木田グループB	2' 45" 4	
2	久木田グループA	2' 46" 6	
3	22 区	2' 47" 1	
	深川	2' 48" 1	優勝
4	大川	2' 48" 2	
	丸島	2' 49" 6	2位
5	湯堂	2' 49" 8	
6	湯の児	2' 49" 9	
7	水東	2' 50" 1	
8	市渡瀬	2' 50" 4	
9	宝川内	2' 50" 9	
10	黒木酸素	2' 51" 2	
	消防本部	2' 51" 6	3位
11	19 区	2' 51" 8	
12	大園	2' 52" 6	
13	丸木舟	2' 54" 1	
14	20 区	2' 54" 7	
15	牧ノ内	2' 55" 5	
16	ポリバック	2' 55" 9	
17	21 区	2' 56" 1	

順位	チーム名	タイム	備考
18	F D 同好会	2' 56" 5	
19	葛渡	2' 56" 8	
20	石坂川	2' 56" 8	
21	3 区	2' 57" 4	
22	湯の児病院	2' 57" 6	
23	市役所	2' 58" 7	
24	16 区	2' 59" 4	
25	ニポリット	2' 59" 4	
26	南福寺	2' 59" 7	
27	白浜	3' 00" 3	
28	茶業青年部	3' 00" 5	
29	湯出	3' 00" 8	
30	山下コンクリート	3' 01" 1	
31	7 区	3' 01" 4	
32	日本珪素	3' 01" 4	
33	江添5区	3' 01" 9	
34	高木建設	3' 02" 0	
35	チッソ泰山寮	3' 02" 6	
36	2 区	3' 03" 2	
37	でんでん	3' 04" "	
38	池田印刷	3' 05" 3	



# 第7回大会 1982年 (昭和57年)

## 湯堂チームが優勝 (3回目)



4年ぶりの優勝に感激もひとしお



優勝した湯堂チーム

### 湯堂チームが優勝 (3回目)

#### 第7回市民競り舟大会

台風のため延期されていた第7回市民競り舟大会が、10月10日(体育の日)正午から、水俣川河口で開かれました。

この日は、少々風が強かったが、澄みきった秋晴れの下、地域、職場、同好会などから、37チームが参加。時期が遅れたため、よそからの観客は少なかったものの、水俣大橋から水俣川両岸にかけて、鈴なりの市民約三千人の声援を受けて、熱戦を展開しました。

あらためて練習をやり直したチ

ーム、「1回戦が練習」と、け本番で出場したチームなれぞれ各レースごとに力漕前年優勝の深川チームは勝で、新栄合板、葛渡の強ムと対戦、惜しくも敗れ2らず、伝統の強さを持つ湯ムが、8月、湯の児で行わ州競り舟大会で優勝した面揮、一糸乱れぬカイさばき第1回、第3回に続いて、年ぶり3回目の優勝を飾り

#### 第7回大会成績

1位	湯 堂	2分29秒8
2位	新栄合板	2分31秒9
3位	市渡瀬	2分33秒0
敢闘賞	消防署	2分33秒4

#### 第7回大会

期 日 57年10月10日

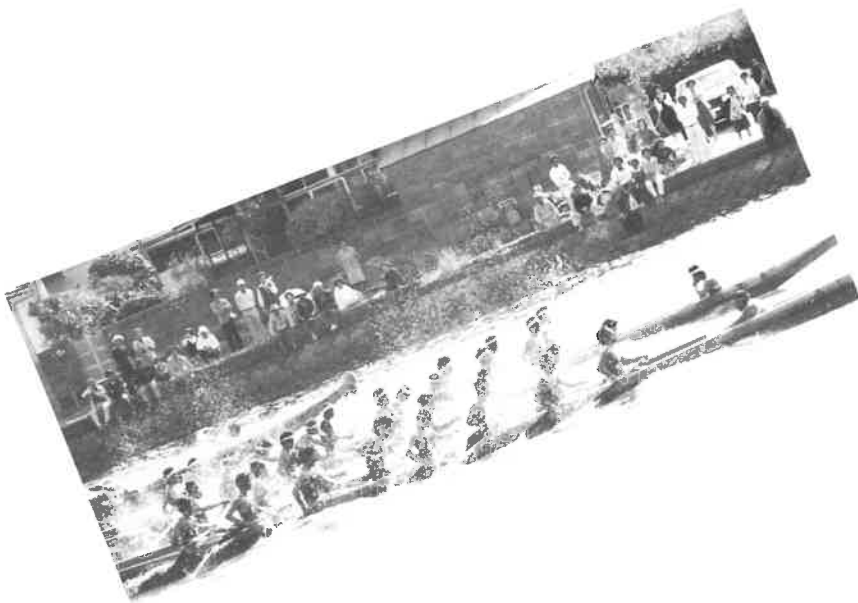
参加チーム 37チーム

第7回大会は、7月25日開催予定でしたが、集中豪雨のため、初めて延期され、肌寒い大会となった。期日に変更されたこともあって、参加チームが大幅に減少した。

時 競り舟大会

昭和57年10月10日 12:00 開会式 12:15 競技開始  
水俣川河口 500Mコース

主催 水俣市・水俣商工会議所  
水俣市青年団体連絡会  
主管 水俣市教育委員会  
水俣市体育指導委員協議会  
後援 水俣市体育協会



漕  
力



ゴールノもうたくたです

国内の動き

- ・中曽根内閣誕生
- ・羽田沖に日航機墜落
- ・ホテルニュージャパン火災
- ・衆院に比例代表制
- ・長崎に記録的な豪雨
- ・三越不正事件
- ・西武、初の日本一
- ・IBMスパイ事件
- ・ブレジネフ書記長死亡
- ・フォークランド紛争

県内の動き

- ・知事候補調整劇
- ・7月豪雨災害
- ・土木汚職
- ・ドッパ-挫折
- ・社会党書記長に馬場市就任
- ・免田再審結審
- ・直木賞に光岡氏
- ・人喰いザメ・KKT開局

市内の動き

- ・市長選挙
- ・市立図書館・公民館が完成
- ・第37回県民体育祭が本市を中心に開催
- ・ひばりが丘運動場拡張
- ・ヘドロ処理事業・砂まき工事に着工
- ・水俣川の水鳥が総勢57羽に





がんばって… 我を忘れて応援



戦い終わったあと、いざこれから！



日差しも傾いて、いよいよ決勝

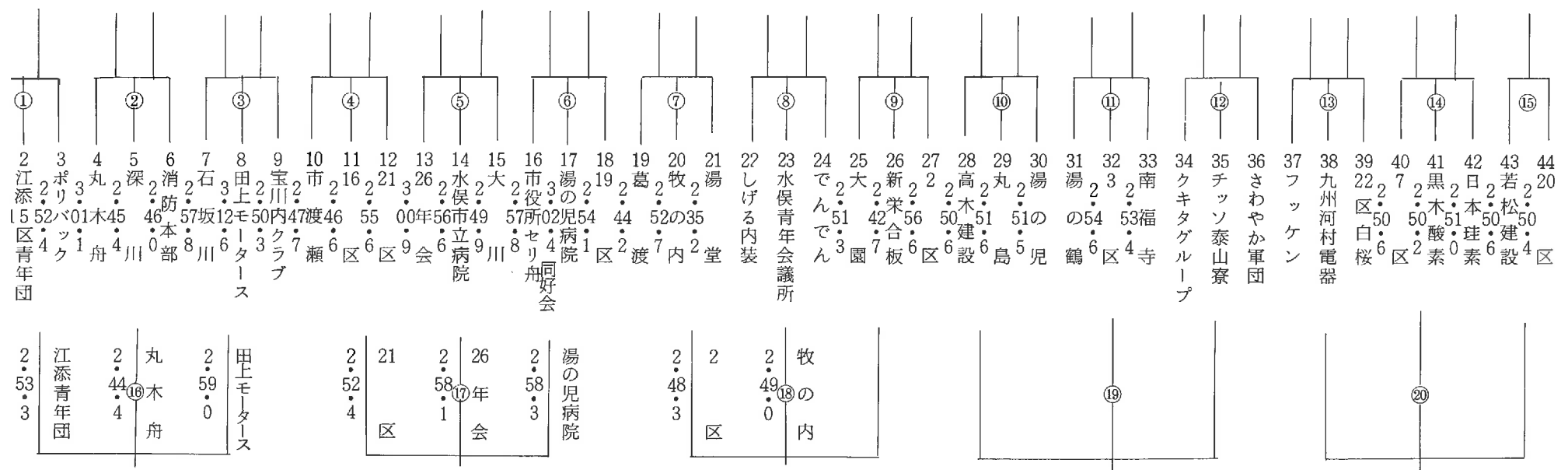
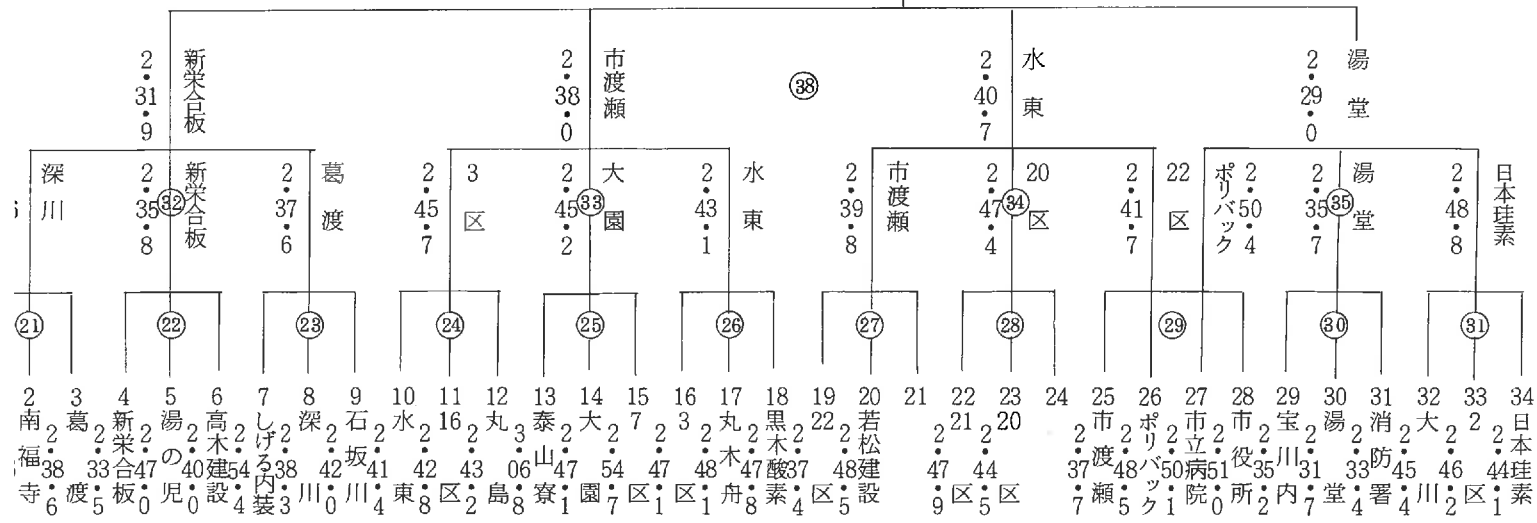
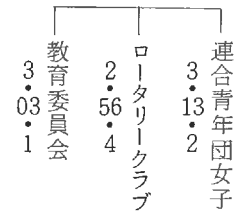
### 第7回市民競り舟大会成績表

順位	チーム名	タイム	順位	チーム名	タイム
1	湯 堂	2分29秒8	2 0	3 区	2分45秒7
2	新 栄 合 板	2分31秒9	2 1	南 福 寺	2分46秒0
3	市 渡 瀬	2分38秒0	2 2	2 区	2分46秒2
4	水 東	2分40秒7	2 3	湯 ノ 児	2分47秒0
5	消 防 本 部	2分33秒4	2 4	黒 木 酸 素	2分47秒8
6	宝川内クラブ	2分35秒2	2 5	2 1 区	2分47秒9
7	深 川	2分36秒8	2 6	ポリバック	2分48秒5
8	2 2 区 白 桜	2分37秒4	2 6	若 松 建 設	2分48秒5
9	葛 渡	2分37秒6	2 8	牧 ノ 内	2分49秒0
1 0	高 木 建 設	2分40秒0	2 9	市 立 病 院	2分50秒5
1 1	石 坂 川	2分42秒2	3 0	7 区	2分50秒6
1 2	1 6 区	2分42秒8	3 1	市 役 所	2分51秒0
1 3	丸 島	2分43秒2	3 2	江 添 5 区 青 年	2分53秒3
1 4	日 本 珪 素	2分44秒1	3 3	しげる内装	2分54秒4
1 5	丸 木 舟	2分44秒4	3 4	2 6 年 会	2分58秒1
1 6	1 9 区	2分44秒5	3 5	湯 ノ 児 病 院	2分58秒3
1 6	2 0 区	2分44秒5	3 6	田上モーターズ	2分59秒0
1 8	大 園	2分45秒2	3 7	チッソ泰山寮	3分06秒8
1 9	大 川	2分45秒4			

# 第 7 回 水俣市民競り舟大会組合せ表

場 堂

招待レース



# 第8回大会 1983年 (昭和58年)

## 湯堂チーム堂々の二連覇

### 第8回市民競り舟大会



優勝した湯堂チーム

第8回市民競り舟大会は、7月17日(日)時折激しく雨が降る悪天候の中、38チームとオープン6チームが参加して水俣川河口で行われました。

午前11時開会式が行われ、浮池大会会長より「競り舟は、水俣の一大イベントです。水俣の暗いイメージを若さで吹き飛ばして欲しい」とのあいさつがあり、前年度優勝の湯堂チームの岩阪雅文選手の選手宣誓の後競技が開始されました。

激しい風雨にもめげず、白熱したレースが展開され、決勝戦には、湯堂、深川、

丸島、新栄合板の4チームが進出した。

レースは、300m附近までは一線、地力と豊富な練習量に優る、合板と湯堂チームが徐々に他の二艇き離し400m附近では、完全に湯新栄合板の優勝争いとなり、両チームもカイの乱れもなく、力強いストロに艇速は、ぐんぐん伸び結局、湯堂ムが僅差で新栄合板をかわし、見事勝しました。

#### 第8回大会成績

1位	湯 堂	2分26秒7
2位	新栄合板	2分28秒3
3位	丸 島	2分29秒5
敢闘賞	深 川	2分29秒6

#### 第8回大会

期 日 58年7月17日

参加チーム 38チーム

時折激しい雨の降る悪天候の中で行われた。

前日から団体や同好会チームが減り、地区対抗の色彩が強くなって、少数精鋭になって来た。一部で選手集めや若者の競り舟離れがみえはじめる。

日時 競り舟大会

昭和58年7月17日

水俣川河口

11:00 開会式

11:15 競技開始

500Mコース

主催 水俣市・水俣商工会議所  
 水俣市青年団体連絡会  
 主管 水俣市教育委員会  
 水俣市体育指導委員協議会  
 後援 水俣市体育協会



決勝のデッドヒート (合板、丸島、湯堂、深川)



毎回、大会を盛り上げてくれる 連合青年団女子チーム

国内の動き

県内の動き

市内の動き

- 田中首相に実刑判決
- 大韓航空機撃墜事件
- 日本海中部地震、東北に大被害
- 三宅島大噴火
- 3年ぶり総選挙
- レーガン大統領来日
- 「おしん」ブーム
- ・戸塚ヨットスクール校長を逮捕
- ・スペインで航空機事故

- ・細川県政スタート
- ・水俣湾ヘドロ処理事業の見直し
- ・交通事故多発
- ・テクノポリス取組本格化スタート
- ・国際交流の活発化
- ・水俣病待たせ賃訴訟敗訴公訴

- ・県知事選挙
- ・アイランド水俣店が閉店
- ・水俣湾ヘドロ処理事業緑の鼻地区で、しゅんせつ始まる
- ・和田岬オープン
- ・中尾山に市民のコスモス園の造成始まる





ゴールの判定は？



中間点、ここから勝負

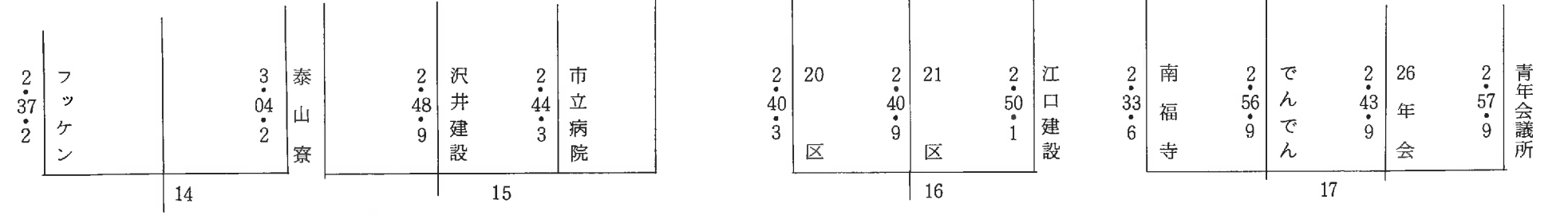
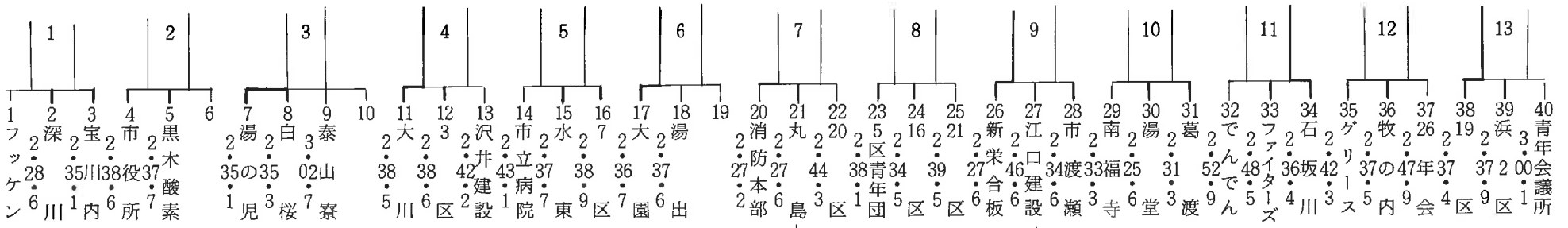
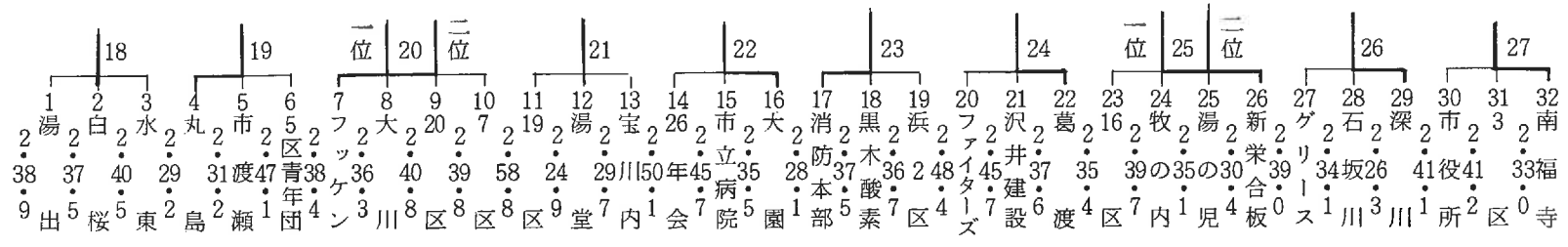
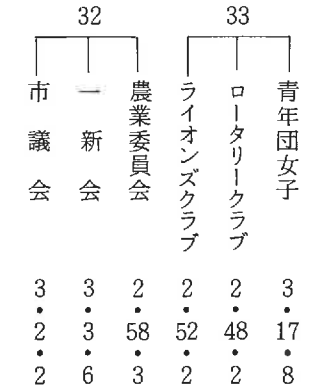
## 第8回市民競り舟大会成績一覧表

順位	チ ャーム 名	決勝タイム	最高タイム	順位
1	湯 堂	2分26秒7	2分24秒9	1
2	新 栄 合 板	2分28秒3	2分25秒0	2
3	丸 島	2分29秒5	2分27秒6	5
4	深 川	2分29秒6	2分26秒3	4
5	消 防 本 部	2分26秒0	2分26秒0	3
6	葛 渡	2分30秒1	2分30秒1	7
7	大 園	2分36秒4	2分35秒5	1 4
8	白 桜	2分37秒5	2分35秒3	1 3
9	湯 の 児	2分38秒3	2分35秒1	1 2
1 0	大 川	2分39秒5	2分36秒3	1 5
1 1	南 福 寺	2分39秒8	2分33秒0	9
1 2	フ ッ ケ ン	2分42秒2	2分37秒2	1 7
1 3	宝 川 内	2分29秒7	2分29秒7	6
1 4	市 渡 瀬	2分31秒2	2分31秒2	8
1 5	石 坂 川	2分34秒1	2分34秒1	1 0
1 6	1 6 区	2分35秒4	2分34秒5	1 1
1 6	浜 2 区	2分36秒7	2分36秒7	1 6
1 8	黒 木 酸 素	2分37秒5	2分37秒5	1 9
1 9	1 9 区	2分38秒8	2分37秒4	1 8
2 0	湯 出	2分38秒9	2分37秒6	2 1
2 1	グ リ ー ス	2分39秒0	2分39秒0	2 7
2 2	牧 ノ 内	2分39秒7	2分37秒5	1 9
2 3	7 区	2分39秒8	2分38秒9	2 5
2 4	水 東	2分40秒5	2分37秒7	2 2
2 5	2 0 区	2分40秒8	2分40秒3	2 9
2 6	市 役 所	2分41秒1	2分38秒6	2 3
2 7	3 区	2分41秒2	2分38秒6	2 3
2 8	沢 井 建 設	2分45秒7	2分42秒2	2 9
2 8	市 立 病 院	2分45秒7	2分43秒1	3 0
3 0	5 区 青 年 団	2分47秒1	2分38秒9	2 5
3 1	フ ァ イ タ ー ズ	2分48秒4	2分48秒4	3 1
3 2	2 6 年 会	2分50秒1	2分43秒9	3 1
3 3	2 1 区	2分40秒9	2分39秒5	2 8
3 4	江 口 建 設	2分50秒1	2分46秒6	3 0
3 5	で ん で ん	2分56秒9	2分52秒9	3 2
3 6	青 年 会 議 所	2分57秒9	2分57秒9	3 3
3 7	泰 山 寮	3分04秒2	3分02秒7	3 4

# 第 8 回 水俣市民競り舟大会組合せ表

招待レース

湯 堂 31



# 第9回大会 1984年 (昭和59年)

## しぶきをあげて力漕 湯堂が三連勝



優勝した湯堂チーム



リード、リードそのまま行け

### 第9回大会成績

1位	湯堂	2分22秒8	新記録
2位	丸島	2分26秒8	
3位	新栄合板	2分27秒2	
敢闘賞	3区	2分31秒8	

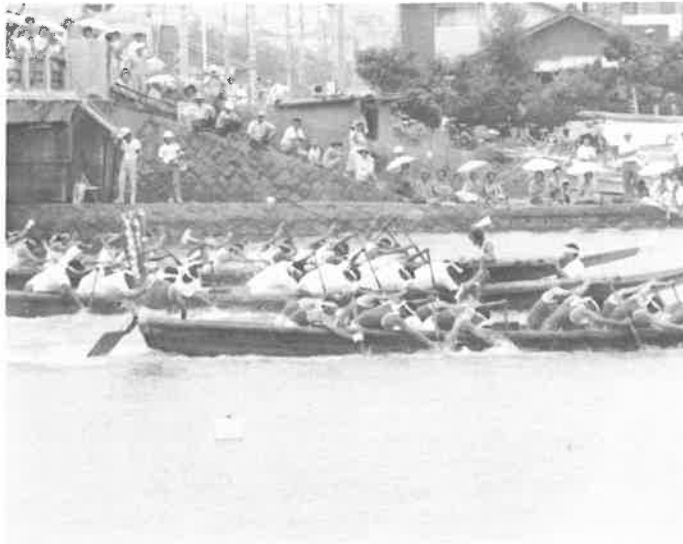
### 第9回大会

期日 59年8月19日  
 参加チーム 36チーム  
 監督の要望で、例年より1カ月遅れて開催、参加チームも36チームと、1回大会をのぞいて、最低となる。競り舟大会のみなおしや、練習等について検討する競り舟協会の設立が話題にのぼる。  
 台湾遠征メンバーの湯堂、丸島の実力が飛びぬけて目につく。湯堂が大会新で3連勝

時 競り舟大会

昭和59年8月19日 10:00 開会式 10:15 競技開始  
水俣川河口 500Mコース

主催 水俣市・水俣商工会議所  
水俣市青年団体連絡会  
主管 水俣市教育委員会  
水俣市体育指導委員協議会  
後援 水俣市体育協会



スタートで差がついています



いざ行かん でも少し不安



ガンバッテ… これからスタートへ向かいます



宣誓も緊張します

国内の動き

- リコ・森永脅迫事件
- 札発行
- 野県西部地震で死者、不明29人
- 井有明鉦火災で83人死亡
- ス五輪で山下らが金
- 浦氏のロス疑惑事件
- 京でケーブル火災電話9万回線マヒ
- 警官広田、連続殺人
- ・中曽根総裁を再選、二階堂擁立で紛糾
- ・韓国大統領初来日

県内の動き

- ・有明鉦火災
- ・ポツリヌス菌中毒
- ・五木で山崩れ
- ・テクノ指定
- ・山下選手五輪で金
- ・宮原線廃止・異状気象

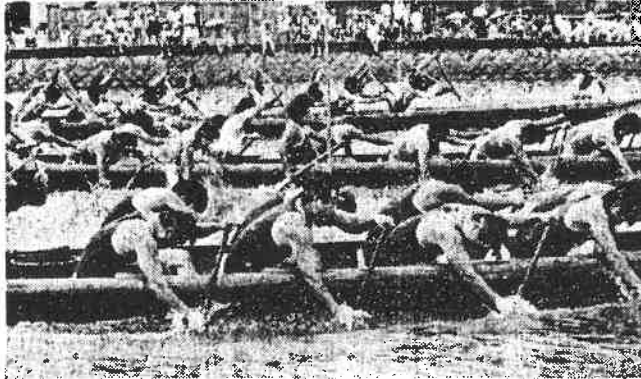
市内の動き

- ・水俣市競り舟協会設立
- 湯堂チームを中心とした、水俣の競り舟が、6月1日～5日まで初の台湾遠征を行ない、第3位の成績をおさめ、精神獎を受けた。
- ・競り舟台湾遠征

## 第9回市民競り舟大会成績一覧表

順位	チーム名	タイム	最高タイム	順位	チーム名	タイム	最高
1	湯 堂	2分22秒8	2分22秒8	19	宝 川 内	2分44秒8	2分
2	丸 島	2分26秒8	2分26秒8	20	2 区	2分46秒4	2分
3	新 栄 合 板	2分27秒2	2分27秒2	21	2 1 区	2分46秒6	2分
4	3 区	2分31秒8	2分29秒6	22	1 区 牧 ノ 内	2分47秒0	2分
5	チッソプラスチック	2分31秒4	2分31秒4	23	市 役 所	2分47秒4	2分
6	深 川	2分33秒6	2分33秒6	24	1 9 区	2分48秒4	2分
7	消 防 本 部	2分33秒8	2分33秒8	25	市 立 病 院	2分48秒8	2分
8	市 渡 瀬	2分41秒6	2分41秒0	26	湯 の 鶴	2分49秒0	2分
9	沢 井 建 設	2分42秒9	2分42秒9	27	エキサイティング	2分59秒4	2分
10	7 区	2分48秒0	2分48秒0	28	で ん で ん	3分00秒0	2分
11	石 坂 川	2分36秒4	2分36秒4	29	5 区	2分49秒2	2分
12	葛 渡	2分38秒4	2分38秒4	30	グ リ ー ス	2分50秒6	2分
13	1 6 区	2分39秒4	2分39秒4	31	チ ッ ソ 泰 山 寮	2分54秒4	2分
14	水 東	2分39秒8	2分39秒8	32	第 四 港 湾 建 設 局	2分57秒4	2分
15	2 2 区	2分41秒6	2分41秒0	33	越 小 場	2分59秒4	2分
15	南 福 寺	2分41秒6	2分41秒6	34	第 一 分 団	3分00秒0	3分
17	2 0 区	2分42秒2	2分42秒2	35	青 年 会 議 所	3分04秒0	2分
18	大 川	2分44秒2	2分44秒2	36	シゲルインテリア	3分05秒4	3分

熊 本 日 日 新 報



### 女性も勇壮に力漕 水俣市で競り舟大会

水俣市の真夏の恒例行事集、九回市民競り舟大会が十九日、水俣川河口で繰り広げられ、今年六月に台北市の国際レースに出場した協賛チームが大大会新記録で三連覇した。三十六チームが参加、水俣大橋から下流に五百メートルのコースで競ったが、両岸には市民約五千人が詰めかけ地元チームや職場の同僚チームに声援を送っていた。今年から女子の部を新設、三チームが男性に負けないうまさぶりを見せ、大声援を受けていた。水俣の競り舟は明治中期に始まったといわれ、過疎化などで一時中断したが、青年団などの働きかけで五十一年に復活した。一艇に十七人が乗り込み、カネの音に合わせて「レー」のかけ声でこぎ、は勇壮なもの。同市の名物行事



として市民に親しまれている。協賛2分22秒8、大会新記録。①丸島②新栄合板③葛渡④水東⑤女子の部⑥三連覇⑦八主婦会⑧56秒⑨青年団⑩協賛



# 第9回 水俣市民競り舟大会組合せ表

湯 堂

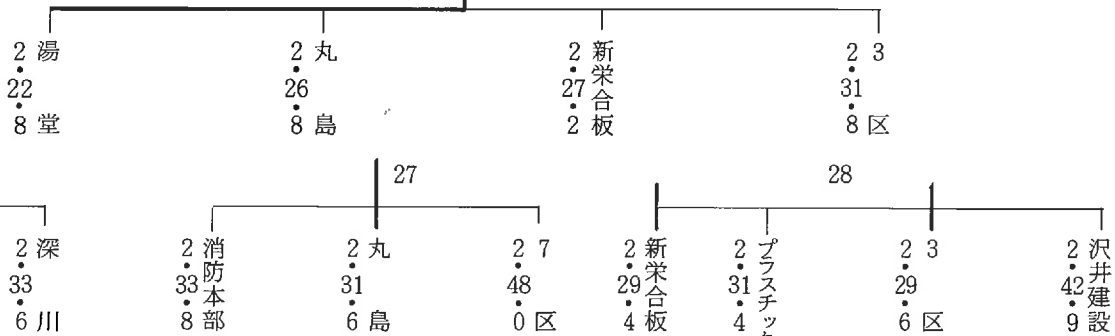
31

女子レース 招待レース

29

30

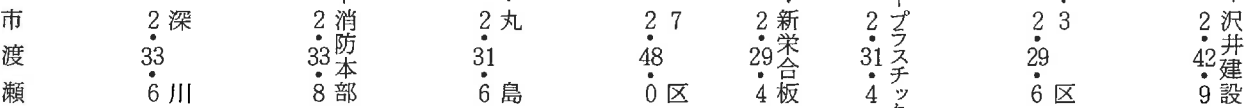
- 青年団女子
  - 湯堂女子
  - 八主婦会
  - ロータリークラブ
  - ライオンズクラブ
  - 市議会
  - 農業委員会
- 2・59・2  
3・02・4



26

27

28



17

18

19

20

21

二位

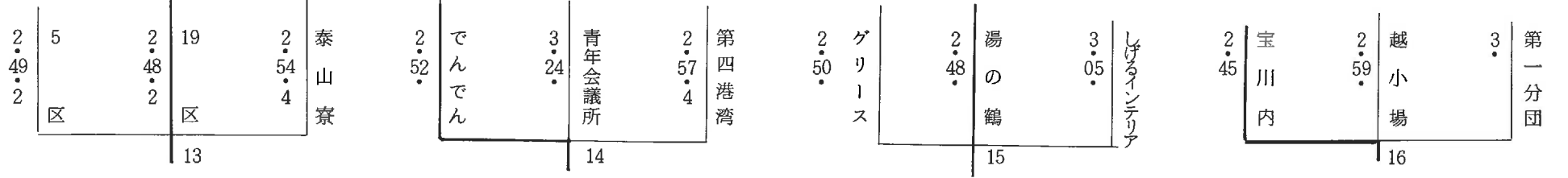
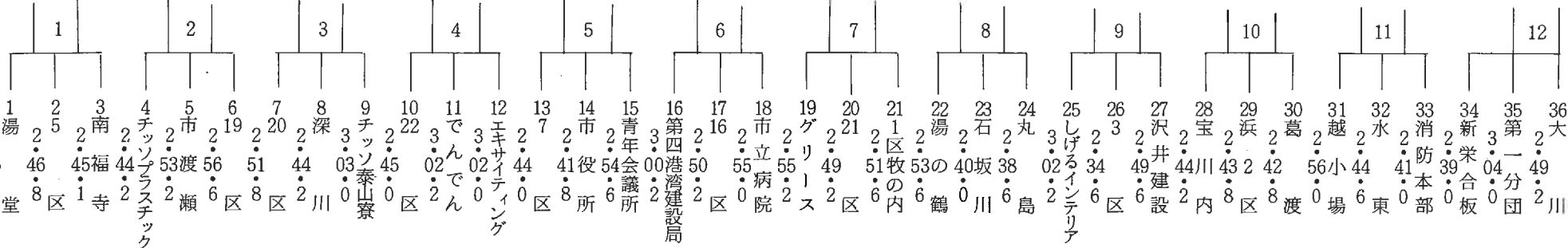
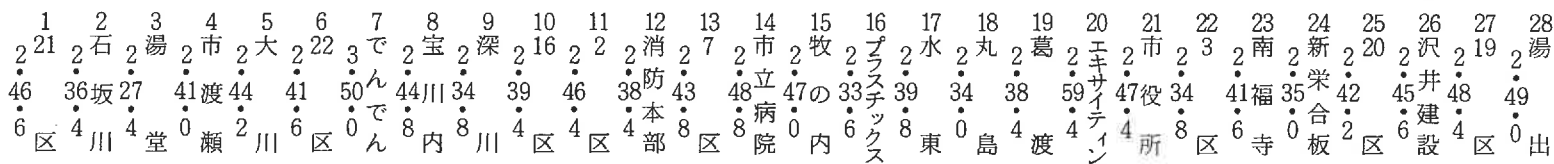
22

一位

23

24

25



# 第10回大会 1985年 (昭和60年)

湯堂が優勝 4年連続  
6回目



優勝した湯堂チーム



女子レースのスタート

## 第10回大会成績

成績は次の通り

準決勝

第1レース、①宝川内 2分31秒3、②宮川ホンダ 2分33秒8 ③葛渡クラブ 2分41秒8。

第2レース、①三区 2分34秒2、②新栄合板 2分37秒0、③南福寺 2分40秒0。

第3レース、①湯堂 2分26秒2、②丸島 2分34

秒4、③牧の内 2分42秒1、④黒木酸素 2分48秒8。

決勝

①湯堂 2分25秒5、②丸島 2分31秒3、③宝川内 2分34秒6、④三区 2分35秒6。

女子レース

一回戦、①三区婦人部 1分53秒9、②深川 1分54秒4、③湯の児病院 2分0秒2、④湯堂 2分01

秒8、⑤連合青年団女子 2分14秒0。

二回戦、①深川 1分50秒6、②三区 1分55秒、③湯の児病院 1分56秒、④湯堂 1分59秒9、⑤青年団 2分06秒。

順位等①深川、②三区、③湯の児病院、④湯堂、⑤青年団（順位は、二レースの内最高タイムで決定）

## 日時 競り舟大会

昭和60年8月4日 8:00 開会式 8:15 競技開始

水俣川河口 500mコース 女子 300mコース

主催	水俣市・水俣商工会議所
主管	水俣市青年団体連絡会
	水俣市教育委員会協議会
	水俣市体育指導員協議会
後援	水俣市競り舟協会
	水俣市体育協会

## 湯堂4連覇達成

### 第10回水俣市民競り舟大会

に競り舟が復活して、10年目の記念すべき、第10回水俣市民競り舟大会は、8月4日(日)地域・職域・41チームに、今大会から正式参加となった、女チームの計46チームが参加して、行われました。関係で、午前8時開会式が行われ、主催者、来賓から、「競り舟が、水俣の地域づくりや、活性化に功績は、大きい、今後も、明るい水俣づくりのため益々競り舟大会が盛んになるよう期待します」とあいさつを受けて4連覇をめざす、湯堂チームの羽選手が力づよい宣誓を行ない、10回大会の幕が落とされました。スの焦点は、なんとといっても、常勝を誇っていた、チームが、先の九州競り舟大会で、丸島に敗れた大会4連覇をめざす、湯堂と丸島の対決が注目のりました。

両チームとも1回戦、2回戦と順調に勝ち進みました記録的には、湯堂が2回戦で、2分25秒8という好記録を出し九州競り舟での雪辱を果すという、気迫を感じさせるレース運びをみせました。

決勝戦は、予想どおり、湯堂、丸島と練習用の舟を購入し、練習を積み重ねた、3区と宝川内の4チームの対決となりました。

スタートして100m早くも湯堂がリードをうばい、中間点では3分の1艇身と他の3チームの追撃をかわし2分25秒5の好タイムで、4連覇を達成しました。

今年から正式参加となった女子レースには、深川、3区、青年団女子、湯の児病院、湯堂の5チームが参加。300mのコースで、激しい女の闘いが展開され、10回大会に花を添え深川チームが初優勝しました。



女子レースも正式に始まりました

### 勇壮なレース展開

水俣の夏を盛り上げる市民競り舟大会が4日、水俣川河口で開かれた。ことしは復活10年目とあって延べ約1万人の市民がつめかけ、白熱したレースに大声援を送るなか、湯堂チームが4連勝、6回目の優勝を飾った。

水俣市の競り舟は長崎ペーロンの流れをくみ、明治後期が始まりといわれる。昭和30年代半ばに一時途絶えたが、51年に復活、夏の名物行事としてすっかり市民

の間に定着した。

1チーム17人で、ことしは男子41チーム、女子5チームが参加。水俣大橋から下流へ向かう500mのコースで、にぎやかなカネの音にあわせて水しぶきをあげる勇壮なレースを展開。兩岸に群がる市民から白熱した競り合いに歓声がわいた。結果は次の通り。

◇男子①湯堂2分25秒5 ②丸島2分31秒3 ③宝川内2分34秒6 ▷敢闘賞 3区

### 国内の動き

- ジャンボ機墜落
- 商事事件で、永野会長惨殺
- 優勝フィバー
- 同時多発ゲリラ事件
- 疑惑の三浦逮捕
- つくば科学万博開催
- 創政会発足、田中元首相倒れる
- いじめ問題が深刻化
- 農薬ドリンク事件
- 山口組組長射殺される

### 県内の動き

- 水俣湾のヘドロ処理事業第二工区の俊せつ開始
- 熊本「緑の百景」が決まる
- 「くまもとグリーンピック86」の実行委員会が発足
- 高森線第三セクター会社設立

### 市内の動き

- 湯の鶴温泉公園が完成
- 勤労青少年ホーム完成
- ヘドロ処理事業明神工区で護岸工事始まる
- 第1小学校昨年12月火災、ついで2回目の火災
- 競り舟が台湾へ初の海外遠征

## 第10回市民競り舟大会成績表



ウーン、いよいよスタートか



好レース、どちらも譲りません

	順位	チーム名	タイム	最高タイム		順位	チーム名	タイム	最高
男	1	湯 堂	2分25秒5	分 秒	子	24	7 区	2' 46" 9	
	2	丸 島	2' 31" 3			25	勇 姿 会 A	2' 47" 9	
	3	宝 川 内	2' 34" 6	2' 31" 3		26	越 小 場	2' 48" 4	
	4	3 区	2' 35" 6	2' 34" 2		27	久 木 野	2' 49" 2	
	5	宮川ホンダ	2' 33" 8			28	で ん で ん	2' 54" 9	
	6	新 栄 合 板	2' 37" 0			29	チ ッ ソ 開 発		
	7	南 福 寺	2' 40" 0	2' 35" 5		30	勇 姿 会 B	3' 05" 4	3' 0
	8	葛 渡	2' 41" 8	2' 38" 5		31	2 2 区	2' 41" 5	
	9	牧 ノ 内	2' 42" 1			32	水 東	2' 47" 0	2' 4
	10	黒 木 酸 素	2' 48" 8	2' 41" 6		33	泰 山 寮	2' 49" 9	
	11	深 川	2' 26" 0			34	市 役 所	2' 50" 9	
の	12	消 防 本 部	2' 35" 6		35	谷 口 鉄 工 所	2' 53" 0		
	13	大 川	2' 39" 8		36	市 立 病 院	2' 53" 2		
	14	1 6 区	2' 40" 0		37	1 9 区	2' 56" 2		
	15	市 渡 瀬	2' 41" 9		38	2 6 年 会	3' 00" 0		
	16	プ ラ ス チ ッ ク ス	2' 42" 5		39	青 年 会 議 所	3' 07" 5		
	17	湯 之 児 病 院	2' 42" 9		40	紫 水 寮	3' 10" 3	3' 0	
	18	2 1 区	2' 43" 4		女 子 の 部	1	深 川 女 子	1分50秒6	
19	浜 2 区	2' 43" 9		2		3 区 婦 人 部	1' 53" 9		
20	2 0 区	2' 44" 3		3		湯 之 児 病 院 女 子	1' 56" 0		
21	湯 出	2' 45" 7		4		湯 堂 女 子			
22	石 坂 川	2' 45" 9	2' 41" 2	5		連 合 青 年 団 女 子	2' 06" 0		
23	沢 井 建 設	2' 46" 2	2' 43" 3						

# 第10回 水俣市民競り舟大会組合せ表

湯 堂

34

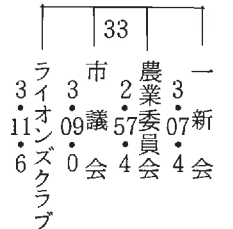


29

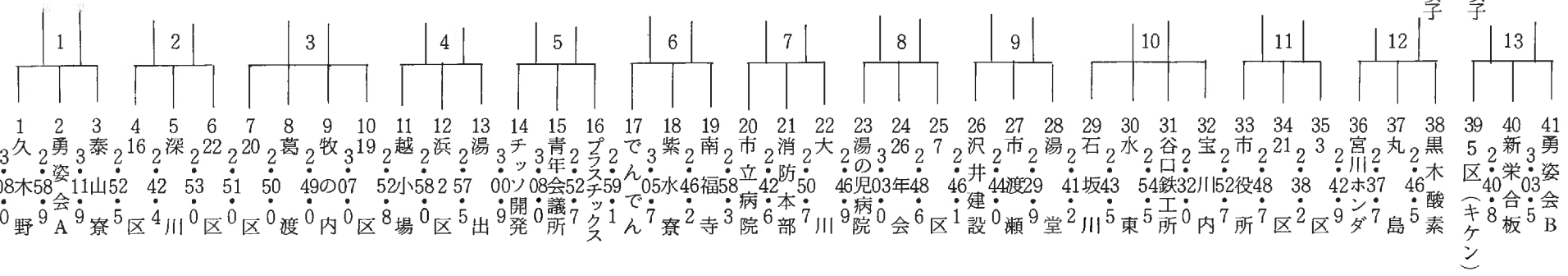
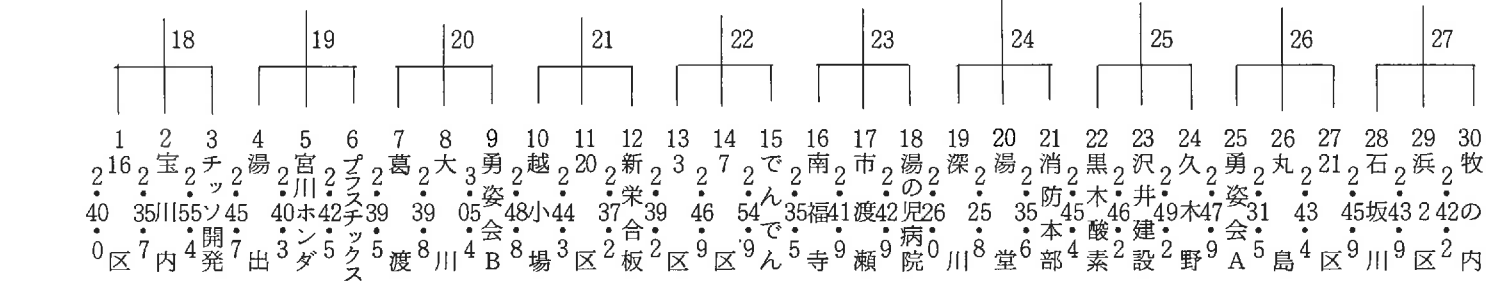
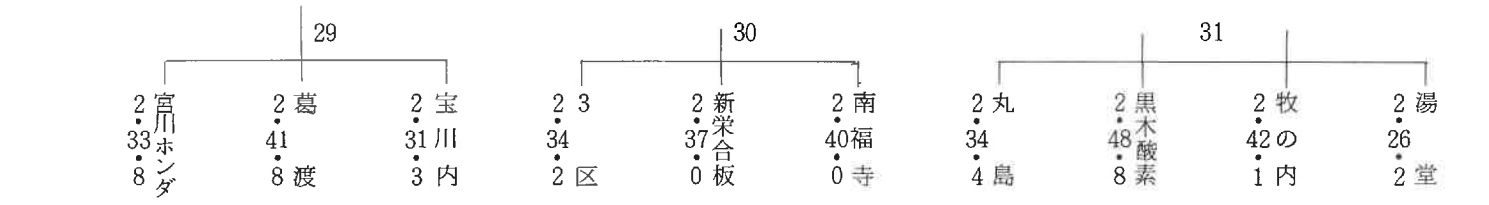
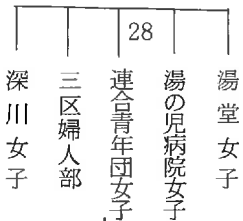
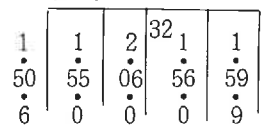
30

31

招待レース



女子レース



2:49.9	泰山寮	2:41.5	22川区	2:41.4	三位区	2:19.56.2	四位区	2:47.6	浜出区	3:07.5	青年会議所	3:10.3	紫水寮	2:53.2	市立病院	3:00.0	湯の児病院	26年會	2:43.3	沢井建設	2:47.0	三位水東	2:53.0	四位谷口鉄工所	2:50.9	市役所	2:41.6	黒木酸素
		14				15						16				17												



# 第11回大会 1986年 (昭和61年)

## 丸島悲願の初優勝

昭和51年、青年達による「競り舟」復活から11年、第11回水俣市民競り舟大会は、7月25日(日)真夏の太陽の下、男子46チーム、女子7チームが参加して勇壮に繰り広げられました。

今年は、出場チームも増え、例年になり盛り上がりを見せ、各チームの練習も熱のこもったものとなりました。

特に、丸島、宝川内は打倒湯堂を合言葉に練習を積み大会にのぞみました。

大会は、運営も順調に進み、準決勝の第2レースでだれも予想しなかった大番狂わせが起きました。5連覇を旨とする常勝湯堂が消防本部に0.1秒差で敗れてしまいました。

決勝は、本大会最高記録を出した、丸島が宝川内、消防本部を抑え悲願の初優勝を飾りました。

これまでも強豪と言われながら、栄冠をものにすることができなかった丸島チーム、今年は、練習からの気迫をそのまま

大会まで引継ぎ、従来にないチームワークと技術的な改良、力強さが随所に見られ、11年目にして初の栄冠を獲得しました。

監督の坂本至さんは、「最高にうれしいです。みんなが良く頑張ってくれましたと優勝の喜びを話されました。」

女子も白熱したレースを展開、新栄合板が初優勝を飾りました。湯堂チームがドラムカンによる練習方法を取り入れてから、各チームもパワーアップを図る一方、自前で競り舟を建造する等練習方法の改善や各チーム間の交流も盛んになってきました。

しかし、一方では迷走しながらも戦域、地域の交流の一役を荷うチームも数多くあり、楽しみとしての競り舟も生きています。市民のふれ合いの場として競り舟が益々発展するよう努力していかなければと思います。



優勝した丸島チーム

### 第11回大会成績

〔男子〕▷準決勝、第一レース、①宝川内2分27秒3、②新栄合板2分36秒7、③湯の児病院2分45秒4。

第二レース、①消防本部2分27秒8、②湯堂2分27秒9、③南福寺2分32秒2。

第三レース、①葛渡2分35秒2、②袋2分41秒3、③セントラル2分43秒5。

第四レース、①丸島2分31秒7、②宮川ホンダ2分34秒0、③チツププラスチック2分37秒5。

主催 水保市・水保市・水保市・水保市・水保市・水保市・水保市・水保市・水保市・水保市  
 主管 水保市・水保市・水保市・水保市・水保市・水保市・水保市・水保市・水保市・水保市  
 後援 水保市・水保市・水保市・水保市・水保市・水保市・水保市・水保市・水保市・水保市

日時 競り舟大会

昭和61年7月27日 9:00 開会式 9:15 競技開始  
 水俣川河口 500mコース 女子 300mコース



決勝戦、丸島・宝川内・消防署



ヤッター、ヤッター  
 湯堂、消防署に0,1秒差負け!

国内の動き

- ・三原山2000年ぶり大噴火
- ・パンダの二世誕生
- ・衆参同日選で自民が空前の勝利
- ・円高不況と差益還元
- ・社会党に初の女性委員長
- ・ハレーブムにわく
- ・ダイアナフィーバー
- ・三億三千万円強奪
- ・天皇ご在位60年の記念式典
- ・国鉄改革法成立

県内の動き

- ・水俣病認定棄却取り消し訴訟判決で原告勝訴。
- ・第4回全国都市緑化くまもとフェア開催。
- ・荒尾市長、姫戸町長を汚職事件で逮捕。
- ・熊本テクノポリスセンター完成などテクノ計画進む。
- ・水俣、八代、熊本各市で相次ぎ市長交代。
- ・三井ハイテックなど企業進出好調。
- ・九州初の第三セクター・南阿蘇鉄道スタート。

市内の動き

- ・「みどり埠頭」供用を開始
- ・市立武道館が完成
- ・第1回さくらまつり開催
- ・国勢調査、人口36,530人
- ・湯の鶴運動公園が完成
- ・石飛遺跡発掘調査終る



女子チーム、今年は7チームが出場



ゴールも間近か、ラストがききますか



女子の優勝、新栄合板



初出場 応援も楽器をつかって？

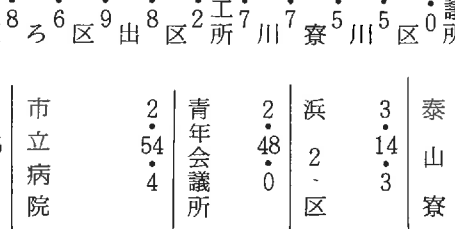
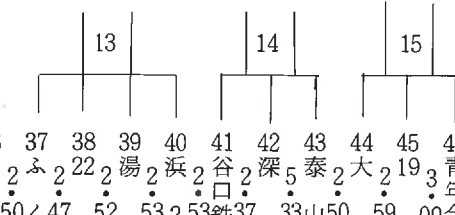
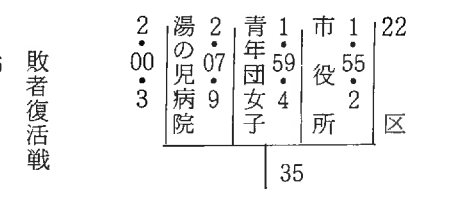
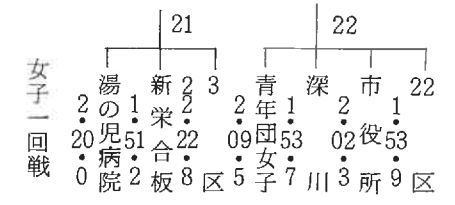
# 第11回 水俣市民競り舟大会組合せ表

丸 島

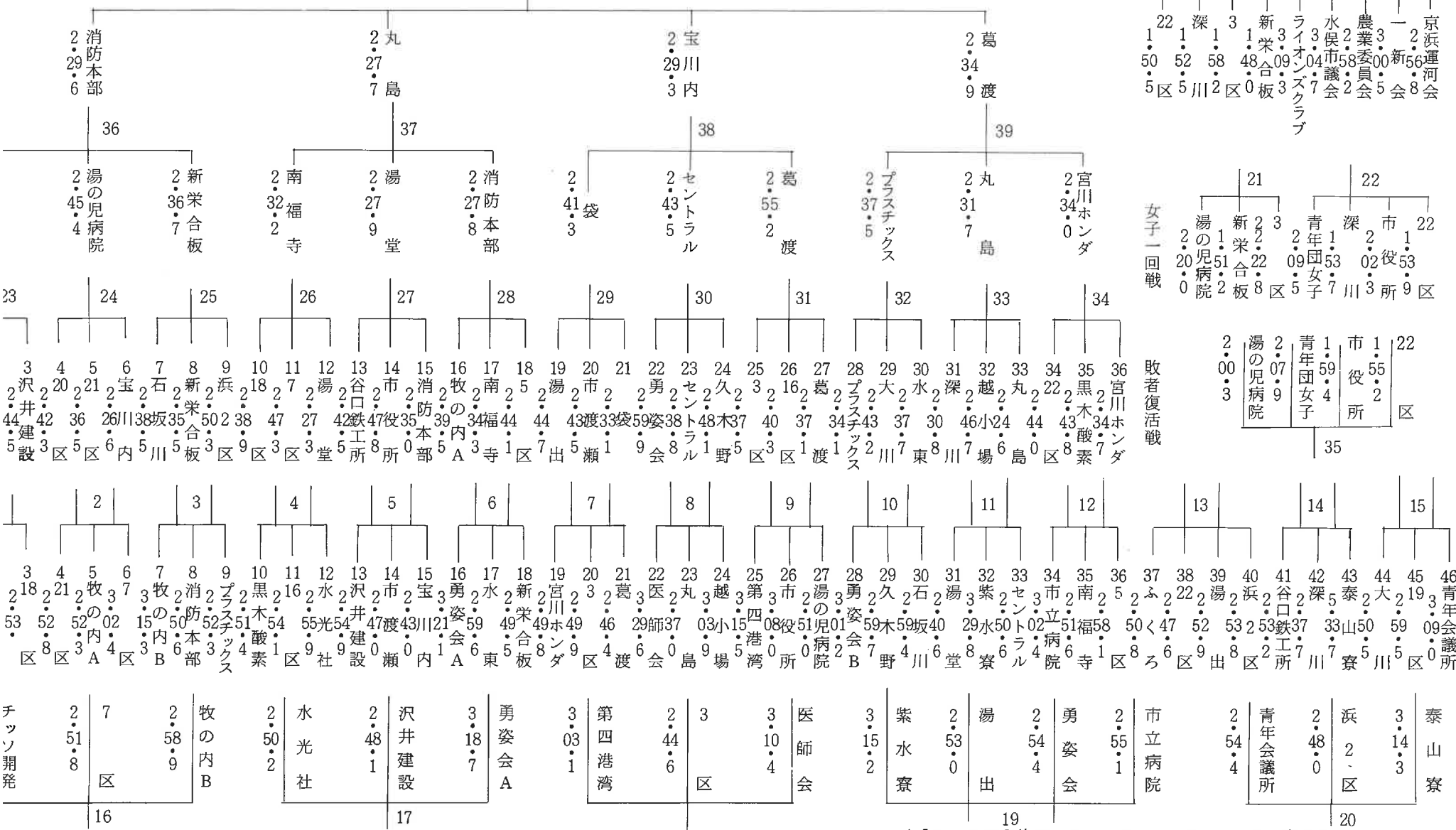
42

女子決勝 招待レース

41 40



13レースの3位は19レースへ、13レースの4位は20レースへ



## 第11回市民競り舟大会成績一覧表

順位	チー ム 名	タ イ ム	最 高 タ イ ム	順位	チー ム 名	タ イ ム	最 高 タ イ ム
1	丸 島	2分27秒7	2分24秒6 (2)	28	沢 井 建 設	2' 44" 5	2' 44" 5 (2)
2	宝 川 内	2' 29" 3	2' 26" 6 (2)	29	湯 出	2' 44" 7	2' 44" 7 (2)
3	消 防 本 部	2' 29" 6	2' 27" 8 (準)	30	19 区	2' 45" 2	2' 45" 2 (2)
4	葛 渡	2' 34" 9	2' 34" 9 (決)	31	越 小 場	2' 46" 7	2' 46" 7 (2)
5	湯 堂	2' 27" 9	2' 27" 3 (2)	32	7 区	2' 47" 3	2' 47" 3 (2)
6	南 福 寺	2' 32" 2	2' 32" 2 (準)	33	市 役 所	2' 47" 8	2' 47" 8 (2)
7	宮 川 ホ ン ダ	2' 34" 0	2' 34" 0 (準)	34	久 木 野	2' 48" 1	2' 48" 1 (2)
8	新 栄 合 板	2' 36" 7	2' 35" 5 (2)	35	浜 2 区	2' 50" 3	2' 48" 0 (敗)
9	チ ョ ン プ ラ ス チ ョ ッ ク ス	2' 37" 5	2' 34" 1 (2)	36	勇 姿 会 B	2' 59" 9	2' 54" 4 (敗)
10	袋	2' 41" 3	2' 33" 1 (2)	37	水 光 社	2' 50" 2	2' 50" 2 (敗)
11	セ ン ト ラ ル	2' 43" 5	2' 38" 8 (2)	38	青 年 会 議 所	2' 54" 4	2' 54" 4 (敗)
12	湯 ノ 児 病 院	2' 45" 4	2' 44" 1 (2)	39	市 立 病 院	2' 55" 1	2' 55" 1 (敗)
13	深 川	2' 30" 8	2' 30" 8 (2)	40	チ ョ ン 開 発	2' 58" 1	2' 58" 1 (敗)
14	21 区	2' 36" 5	2' 36" 5 (2)	41	牧 ノ 内 B	2' 58" 9	2' 58" 9 (敗)
15	3 区	2' 37" 5	2' 37" 5 (2)	42	第 4 港 湾	3' 03" 1	3' 03" 1 (敗)
16	水 東	2' 37" 7	2' 37" 7 (2)	43	医 師 会	3' 10" 4	3' 10" 4 (敗)
16	石 坂 川	2' 38" 5	2' 38" 5 (2)	44	泰 山 寮	3' 14" 3	3' 14" 3 (敗)
18	18 区	2' 38" 9	2' 38" 9 (2)	45	紫 水 寮	3' 15" 2	3' 15" 2 (敗)
19	牧 ノ 内 A	2' 39" 5	2' 39" 5 (2)	46	勇 姿 会 A	3' 18" 7	3' 18" 7 (敗)
20	16 区	2' 40" 3	2' 40" 3 (2)	1	新 栄 合 板 女 子	1' 48" 0	1' 48" 0 (決)
21	20 区	2' 42" 3	2' 42" 3 (2)	2	22 区 女 子	1' 50" 5	1' 50" 5 (決)
22	谷 口 鉄 工 所	2' 42" 5	2' 42" 5 (2)	3	深 川 女 子	1' 52" 5	1' 52" 5 (決)
23	大 川	2' 43" 2	2' 43" 2 (2)	4	3 区 婦 人 部	1' 58" 2	1' 58" 2 (敗)
24	市 渡 瀬	2' 43" 5	2' 43" 5 (2)	5	市 役 所 女 子	1' 59" 4	1' 59" 4 (敗)
25	黒 木 酸 素	2' 43" 8	2' 43" 8 (2)	6	湯 ノ 児 病 院 女 子	2' 00" 3	2' 00" 3 (敗)
26	22 区	2' 44" 0	2' 44" 0 (2)	7	青 年 団 女 子	2' 07" 9	2' 07" 9 (敗)
27	5 区	2' 44" 1	2' 44" 1 (2)				

( 男 子 )

優 勝 丸 島 2分27秒  
 2 位 宝川内 2分29秒  
 3 位 消防本部 2分29秒  
 敢闘賞 葛渡 2分34秒  
 最高タイム賞 丸島 2分34秒

とび賞

11位 セントラル 2分43秒  
 21位 20区 2分42秒  
 31位 越小場 2分46秒  
 41位 牧ノ内B 2分58秒

ブビー賞

45位 紫水寮 3分15秒

( 女 子 )

優 勝 新栄合板 1分48秒  
 2 位 22区女子 1分50秒  
 3 位 深川女子 1分52秒  
 敢闘賞 3区婦人部 1分58秒

ブビー賞

6 位 湯ノ児病院女子 2分00秒



# 水俣市競り舟大会記録

61. 7. 3

開催回数	大会日	参加チーム数				レース数		満潮	潮	競	技	競	技	優 勝		二 位		三 位		敢 闘	
		地 域	職 域	団 体	同 好 会	計	競 技	招 待	計	時 刻	開 始 時 刻	開 始 時 刻	所 要 時 間	1 レース平均	チ ャ ム 名	タ イ ム	チ ャ ム 名	タ イ ム	チ ャ ム 名	タ イ ム	チ ャ ム 名
1	51.10.17	2	3	7	6	18	15	15	時 分	時 分	時 分	時 分	時 分	湯 堂	2' 36" 0	水 東	2' 39" 8	丸 木 舟	2' 41" 2	津 奈 木 団 青 年	2' 38" 4
									13:00	13:00	3:30	3:30									
2	52. 7.24	9	9	10	13	41	27	2	29	時 分	時 分	時 分	時 分	湯 の 児	2' 29" 2	湯 堂	2' 30" 7	丸 島 親 交 会	2' 30" 9	水 東	2' 34" 1
										14:36	10:30	5. 13'	5. 13'								
3	53. 7.23	17	16	9	6	48	32	1	33	時 分	時 分	時 分	時 分	湯 堂	2' 39" 2	消 防 署	2' 39" 6	湯 の 児	2' 41" 2	深 川	2' 26" 3
										10:51	8:00	5. 30'	5. 30'								
4	54. 7.29	21	19	4	10	54	34	2	36	時 分	時 分	時 分	時 分	新 栄 合 板	2' 28" 4	深 川	2' 31" 4	水 東	2' 33" 8	チ ャ ム プ ラ ス チ ャ ム ス	2' 28" 0
										11:24	8:20	5. 43'	5. 43'								
5	55. 7.20	24	23	5	5	57	40	1	41	時 分	時 分	時 分	時 分	石 坂 川	2' 29" 2	湯 の 児	2' 31" 0	消 防 署	2' 31" 4	深 川	2' 29" 8
										13:13	9:41	5. 27'	5. 27'								
6	56. 7.26	26	19	2	7	54	43	2	45	時 分	時 分	時 分	時 分	深 川	2' 35" 6	丸 島	2' 36" 4	消 防 署	2' 37" 2	新 栄 合 板	2' 32" 2
										16:45	12:48	5. 04'	5. 04'								
7	57. 7.25	23	17	5	5	45	36	1	41	時 分	時 分	時 分	時 分	湯 堂	2' 29" 8	新 栄 合 板	2' 31" 9	市 渡 瀬	2' 33" 0	消 防 本 部	2' 33" 4
										14:53	12:30	4. 10'	4. 10'								
8	58. 7.17	23	9	2	3	37	32	2	34	時 分	時 分	時 分	時 分	湯 堂	2' 26" 7	新 栄 合 板	2' 28" 3	丸 島	2' 29" 5	消 防 本 部	2' 26" 0
										14:14	11:58	4. 19'	4. 19'								
9	59. 8.19	23	10	1	2	36	30	1	31	時 分	時 分	時 分	時 分	湯 堂	2' 22" 8	丸 島	2' 26" 8	新 栄 合 板	2' 27" 2	3 区	2' 31" 8
										13:03	10:20	3. 45'	3. 45'								
10	60. 8. 4	25	13	2	5	45	33	1	34	時 分	時 分	時 分	時 分	湯 堂	2' 25" 5	丸 島	2' 31" 3	宝 川 内	2' 34" 6	3 区	2' 35" 6
										10:41	8:30	4. 36'	4. 36'								
11	61. 7.27	29	19	3	2	53	37	1	42	時 分	時 分	時 分	時 分	丸 島	2' 27" 7	宝 川 内	2' 29" 3	消 防 本 部	2' 29" 6	葛 渡	2' 34" 9
										12:36	9:30	4. 40'	4. 40'								
							4			時 分	時 分	時 分	時 分	新 栄 合 板 子	1' 48" 0	22 区 女 子	1' 50" 5	深 川 女 子	1' 52" 5	3 区 婦 人 部	1' 58" 2

注 ①第1回大会 主催 青年団体連絡会議、第2回大会 主催 青年団体連絡会議、主管競り舟大会実行委員会、第3回大会以降 主催 水俣市・水俣市青年団体連絡会議・水俣商工会議所

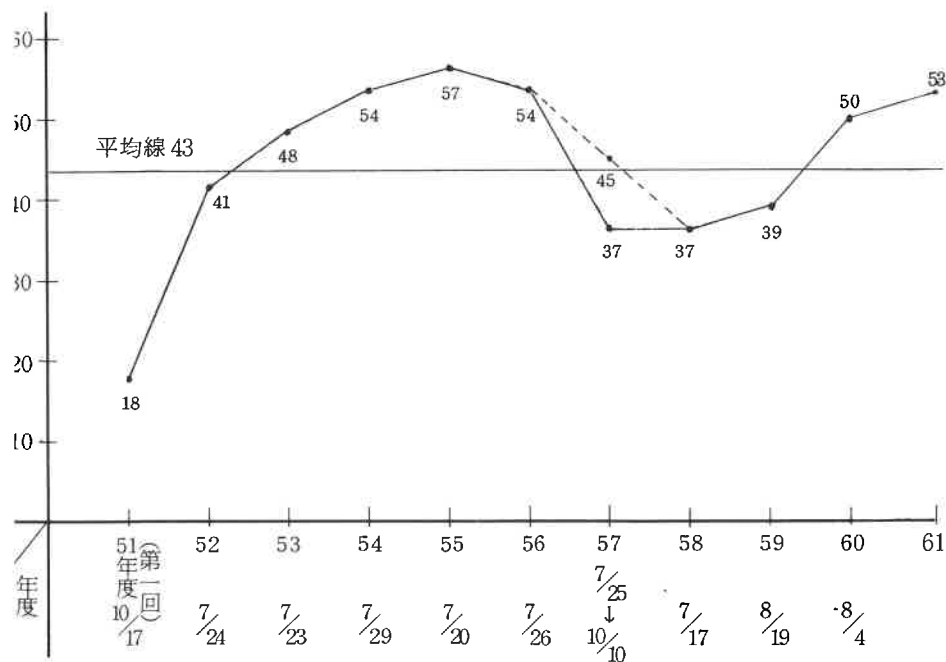
②敢闘賞は、準決勝までに敗退したチームで、最高タイムを記録したチームに与える。但し、第9・10回は、第4位を敢闘賞に決定した。③第10回…女子も正式種目(300M)とする。

# 大会成績

<b>第1回大会</b>	昭51. 10. 17	参加18チーム
優勝	湯 堂	2分36秒0
準優勝	水 東	2分39秒8
三位	丸 木 舟	2分41秒2
敢闘賞	津 奈 木 青 年 団	2分38秒4
<b>第2回大会</b>	昭52. 7. 24	参加41チーム
優勝	湯 の 児	2分29秒2
準優勝	湯 堂	2分30秒7
三位	丸 島 親 交 会	2分30秒9
敢闘賞	水 東	2分34秒1
<b>第3回大会</b>	昭53. 7. 23	参加48チーム
優勝	湯 堂	2分39秒2
準優勝	消 防 署	2分39秒6
三位	湯 の 児	2分41秒2
敢闘賞	深 川	2分26秒3
<b>第4回大会</b>	昭54. 7. 29	参加54チーム
優勝	新 栄 合 板	2分28秒4
準優勝	深 川	2分31秒4
三位	水 東	2分33秒8
敢闘賞	チッソプラスチック	2分28秒0
<b>第5回大会</b>	昭55. 7. 20	参加55チーム
優勝	石 坂 川	2分29秒2
準優勝	湯 の 児	2分31秒0
三位	消 防 署	2分31秒4
敢闘賞	深 川	2分29秒8
<b>第6回大会</b>	昭56. 7. 26	参加54チーム
優勝	深 川	2分35秒6
準優勝	丸 島	2分36秒4
三位	消 防 本 部	2分37秒2
敢闘賞	新 栄 合 板	2分32秒2

<b>第7回大会</b>	昭57. 10. 10	参加37チーム
優勝	湯 堂	2分29秒8
準優勝	新 栄 合 板	2分31秒9
三位	市 渡 瀬	2分33秒0
敢闘賞	消 防 本 部	2分33秒4
<b>第8回大会</b>	昭58. 7. 17	参加37チーム
優勝	湯 堂	2分26秒7
準優勝	新 栄 合 板	2分28秒3
三位	丸 島	2分29秒5
敢闘賞	消 防 本 部	2分26秒0
<b>第9回大会</b>	昭59. 8. 19	参加36チーム
優勝	湯 堂	2分22秒8
準優勝	丸 島	2分26秒8
三位	新 栄 合 板	2分27秒2
敢闘賞	三 区	2分31秒8
<b>第10回大会</b>	昭60. 8. 4	参加45チーム
優勝	湯 堂	2分25秒5
準優勝	丸 島	2分31秒3
三位	宝 川 内	2分34秒6
敢闘賞	三 区	2分35秒6
<b>第11回大会</b>	昭61. 7. 24	参加53チーム
優勝	丸 島	2分27秒7
準優勝	宝 川 内	2分29秒3
三位	消 防 署	2分29秒6
敢闘賞	葛 渡	2分34秒9
大会最高記録 (第9回大会)	湯 堂	2分22秒8

## 年度別参加チーム増減表 (S51~S61)



東京からも参加

## 年度別参加所属チーム増減表

昭和51年復活第1回大会は、18チームが参加をしています。内訳は、地域2、職域3、同好会7、団体6、となっており、手軽に人集めの出来る団体、同好会が中心になっています。

昭和52年は第1回大会後、競り舟建造へ向けての新しい動きがあり、市民の関心も一気に高まり、第2回大会は、41チームが参加しています。チームの構成は同好会や、団体が中心ですが、この頃から地域、職域チームが急激に増加をし、第6回大会まで続いています。しかし、団体、同好会チームは、減少の一途を辿っています。その原因として、考えられるのは、大会回数が増すごとに(1)、練習に要する費用がかさみ、その維持に困難をきたしてくる。(2)、職域や、地域との選手の競合。(3)、チームワークの難しさ、(メンバーの入れ代わりや、年齢、職業、地域、等の違い)などが考えられます。

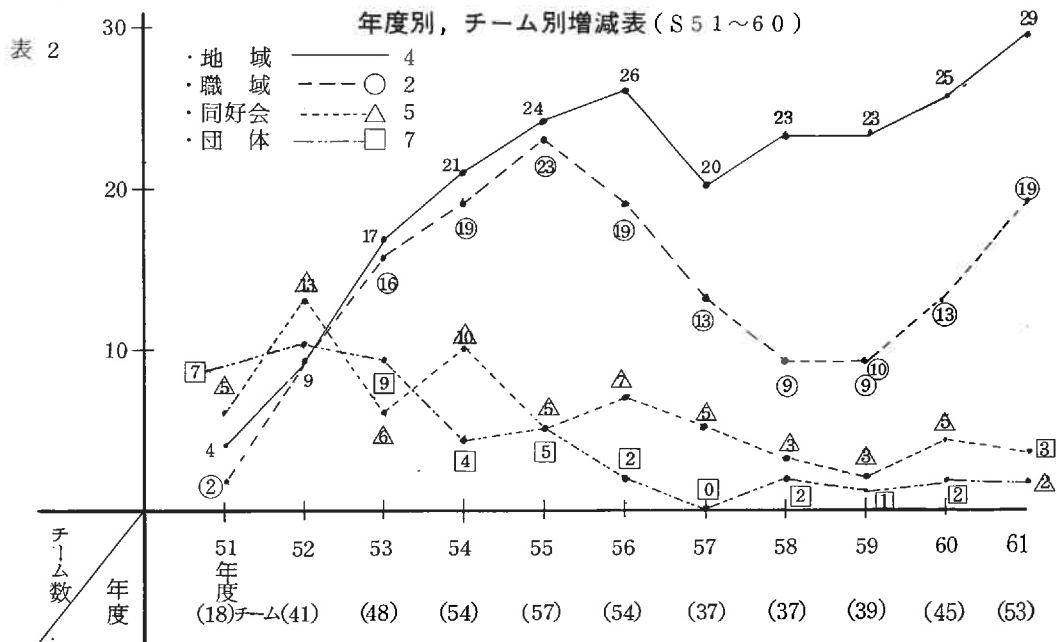
一方、地域チームは第11回大会まで順調な増加を辿っていますが、本大会も地域チームが主流となりつつあるようです。

入賞回数を見てみますと、地域チームが圧倒的に強いようです。地域チームのまとまり易さは言うまでもありませんが、次のような理由が上げられると思います。

(1)、地縁とか、血縁とか地域独特の結びつきが強く団結力に富む。(2)、1による地域住民の応援。(3)、地域の評価が、個人的評価につながる、など、他チームに比べ有利な点が多く見られることです。しかし、このような有利な条件も過度的な状況をきたしている面もあり、地域チームの増加もないと思われれます。

職域チームは、第1回大会から、第5回大会まで地域チームと同じように増加をしています。第6回大会から減少をしています。その理由は、

(1) 地域チームとの練習の格差。(2)、職域チームから地域チームへの選手の移行。(3)、経費やチームワークの限界、などが考えられるでしょう。

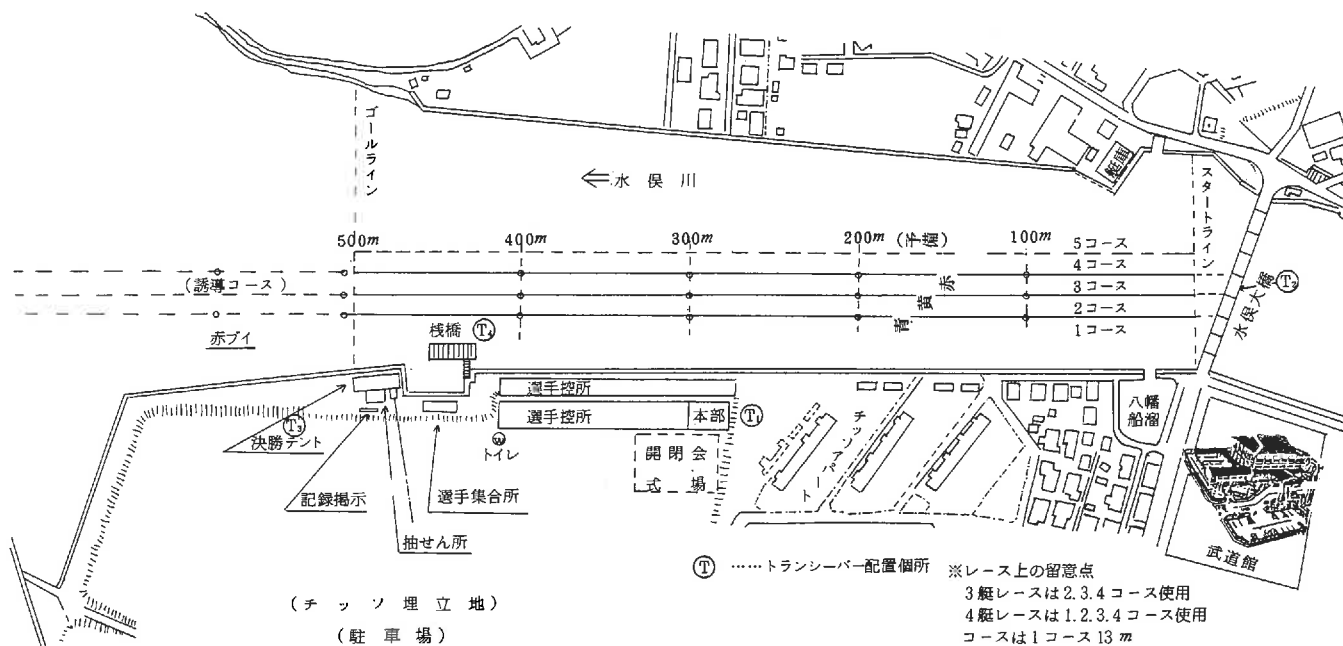


# 水俣市民競り舟大会会場図

## 第11回水俣市民競り舟大会々場略図

竹竿に3色の旗を取り付け(3.5~4m)

3列設置、4コースとした、61.7.27



## 競技規則

1. レースに出場できる選手は1チーム1とし、選手として登録された者でなければならない。(但し、登録は25名以内とする)
2. カイの寸法は自由とする。
3. コール(選手呼び出し)は5レース前とする。
4. レースは原則として3艇で行うが、都より4艇で行う時もある。
5. 1回戦は2チームを勝者とする。敗者戦及び2回戦以後は1チームを勝者とする。敗者復活戦男子の4艇レースは2チーム勝者とする。
6. 1回戦の敗者は、敗者復活戦へ出場できる。
7. 2回戦の組合せは、1回戦及び敗者復活各レースの終了後逐次抽選を行う。
8. 乗船する時は、抽選により艇とコースを定める。
9. スタート地点においては、カジ手がついたロープがいっぱいに伸びきった時、舟スタートラインに揃うようになっている各艇共その状態にて待つこと。(故意に遅りした場合は、そのままスタートさせること。)
10. スタートの合図は、「カイを上げー」と、ピストルで行う。この間、選手はカイを上上げて待つこと。但し、最前列2名の選艇の方向維持のため、カイを水中におろしてすることができる。
11. スタートのやりなおしは、大橋上にてを振るので、各艇長は充分注意しておくこと。
12. 不正出発を2回犯したチームは失格とする。
13. レース中事故が発生し、レースが続行しない場合は、鐘を乱打するとともに、選艇員がカイを上方に上げて合図すること。
14. ゴールは、艇の先端がゴールラインに達した時とする。
15. 順位は着順により決定し、タイムは参録とする。
16. 審判に対する不服申し立ては認めない。判定は最終のものとする。
17. レースに際し、艇尾にチーム表示旗をしていないチームは失格とする。



静かにたたずむ大会会場

# 競り舟練習区域略図 (湯堂会場)

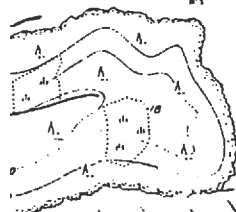


競り舟管理指導員

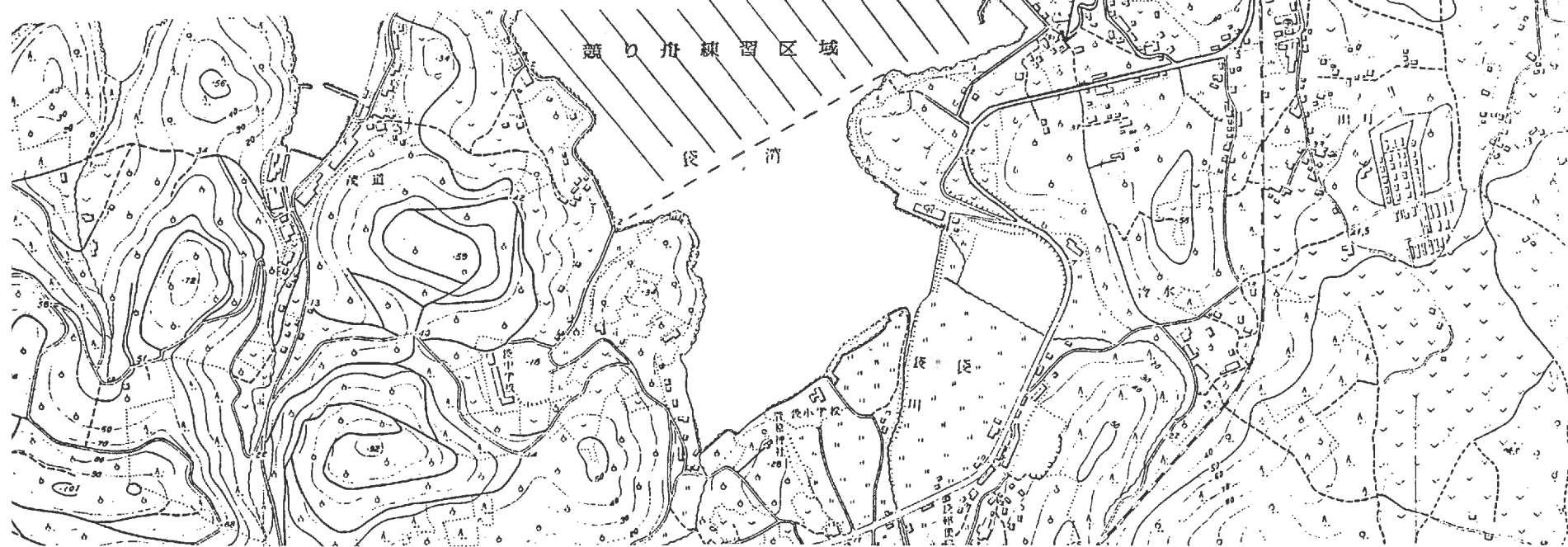
岩 阪 若 人

TEL 63-0521

ワ  
ワ  
ワ  
崎



湯 堂 会 場

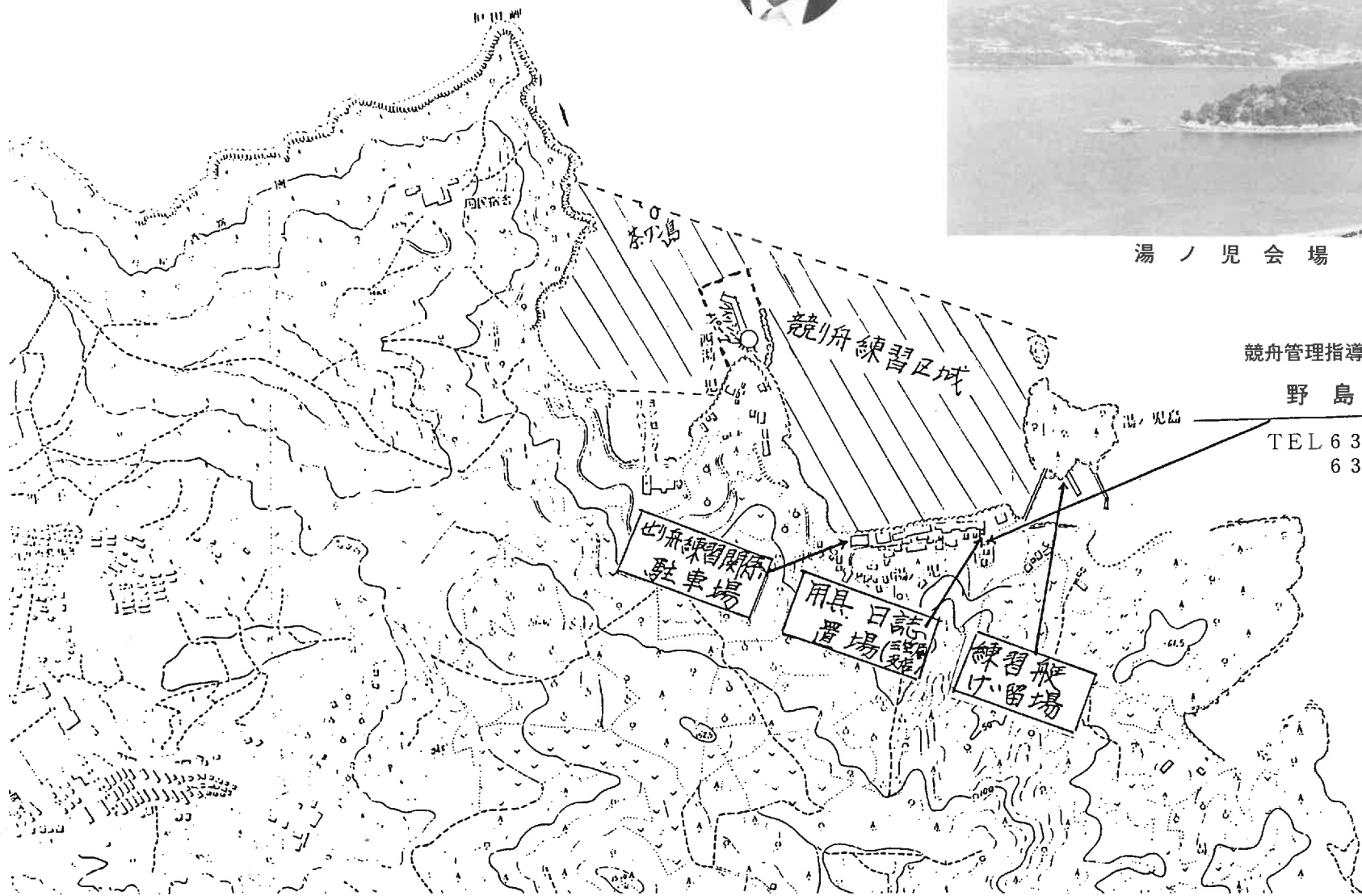




# 競り舟練習区域略図 (湯ノ見会場)



湯ノ見会場



競舟管理指導員

野島 学

TEL 63-6194 (自  
63-3151 (三

## 競り舟練習及び練習会場使用上の諸注意

### 、会場使用上の注意

練習会場を使用するにあたっては、地域住民との融和を図り、住民の積極的な協力が得られるよう心がけること。「笑顔であいさつ」の励行

- (1) 練習会場への車の乗り入れは最小限にとどめ、騒音防止につとめること。
- (2) 乗船の前後に飲食をした場合は、空カン、紙くず等は必ず持ち帰ること。
- (3) 乗船場附近の施設（特に水道等）や器具、器材を使用しようとする場合は、権利者の許可を得ること。（無断使用は絶対にしないこと）
- (4) 練習中の事故については、市は責任を負わない。

### 、乗船前の注意

- (1) 各人の健康状態については、充分注意し、飲酒者や心臓に疾患のある者等は乗船しないこと。
- (2) 泳げない者は、救命胴衣の着用等水難事故の防止に万全を期すこと。
- (3) 練習会場及び乗船時には、必ず管理人の指示に従うこと。
- (4) 各会場の練習日誌は、監督又はこれに代る者が必ず所要事項を記入してから乗船すること。

### 、練習中の注意

- (1) 練習会場には、夫々練習区域を設けてあるので当該区域内で練習すること。
- (2) 練習中は、管理人の指示をよく守り海上運航上の、諸法規を侵すことがないように注意すること。
- (3) 乗船後は、故意に船体をゆらすなど事故を誘発するような危険な行為は、厳に慎むこと。
- (4) 練習以外に、むやみに鐘をたたかないこと。
- (5) 舟を利用した、水泳や飛び込みはしないこと。
- (6) 海上に、チリ、ピン、空カン等を投棄しないこと。

### 、練習終了後の注意

- (1) 舟のけい留は、確実にを行うこと。
- (2) 練習終了後は、その旨を管理人に申し出、船体、備品の破損、異状の有無等を報告すること。

尚、異状の状況程度が翌日の使用に支障があると思われる場合は、その旨を翌日午前中に社会体育課（TEL 63-1111）へ報告すること。

水俣市教育委員会



夜間カラコギ練習に励む深川チーム



練習用のドラムカンを組む 湯堂チーム

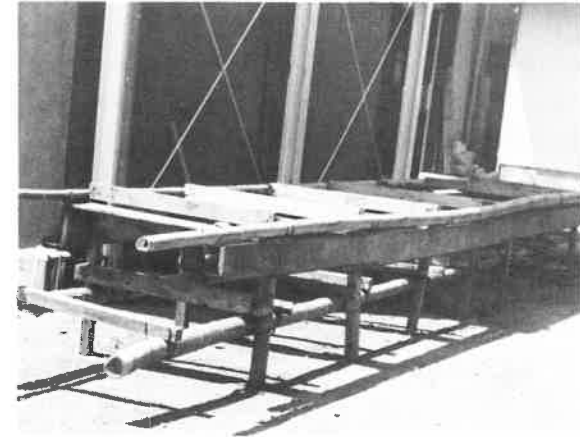
# カラコギ練習台



南 福 寺



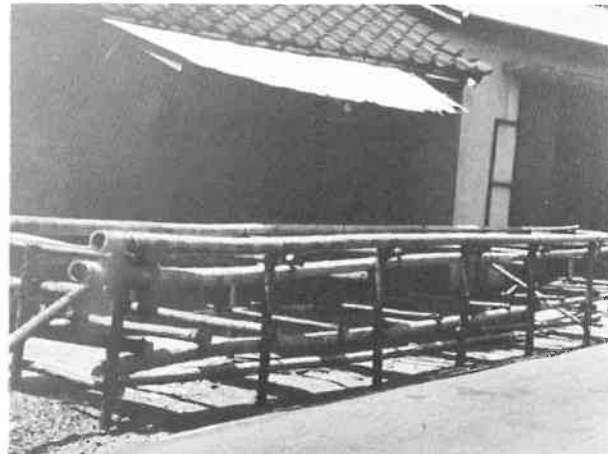
湯 堂



22 区



消 防 署



牧 の 内



新 栄 合 板

# 水俣市民競り舟大会10周年記念

## 九州競り舟大会

(飛 龍)

と き 1985(昭和60年)7月21日 開会式 午前10時

ところ 水 俣 港 レース開始 午前10時40分

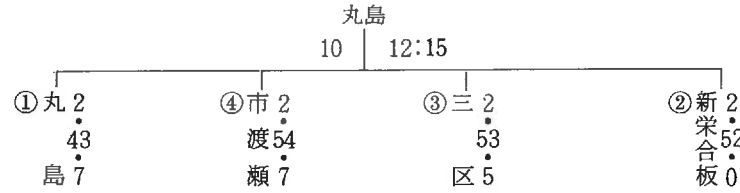




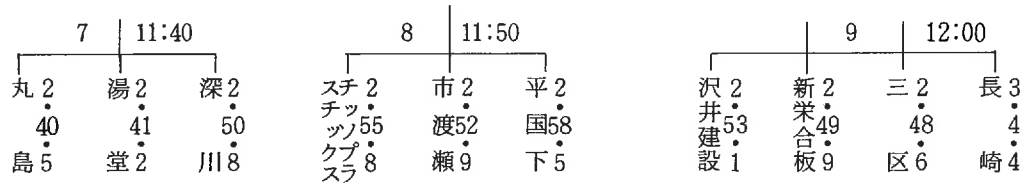
# 九州競り舟大会組合せ表

(500m直線コース)

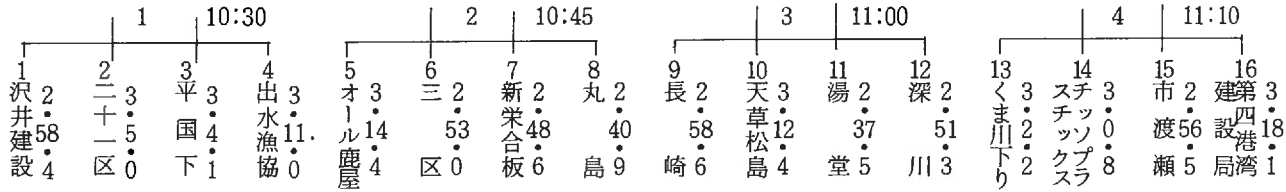
優勝戦



二回戦(抽選)



一回戦



敗者復活戦





優勝した丸島チーム



表 彰

優勝	丸	島	2' 43" 7	2位	新栄合板	2' 52" 5
3位	三	区	2' 53" 5	4位	市渡瀬	2' 54" 7



地の利？地元勢が有利

## 10周年記念

### 九州競り舟大会 丸島初優勝

水俣市の競り舟復活10周年を記念して、九州競り舟大会（市教委主催、競り舟協会体指協主管）は、第一工区が完成し新しく生まれ変わりつつある、水俣港に、長崎、鹿松島、人吉、出水、津奈木の招待各チームに水俣市の10チーム、計16チームが参加行われました。

今大会の企画に当っては、昨年結成された、水俣市競り舟協会のメンバーが中心とな九州管内の競り舟開催地に、参加依頼を行ない、色々な問題を乗り越え開催にこぎつけた。

また、会場となった水俣港はまだ工事中であるにもかかわらず、第四港湾建設局の全的な協力により、港まつりの一環として水俣港で実施することができるようになりました。

当日は、あいにくの小雨の降る天気となりましたが、九州各地から参加した精鋭が素晴らしいレースを展開しました。しかし、地元の利と、練習量にものをいわせ、決勝戦に残ったのは、四チームとも水俣のチームでした。

二回戦では、早くも丸島と湯堂が対決、丸島が湯堂を初めて敗り決勝進出を果し、その勢いで、決勝戦も他をよせつけず、初優勝を飾りました。

成績は次の通り

第一レース、①丸島2分40秒5、②湯堂2分41秒2、③深川2分50秒8。

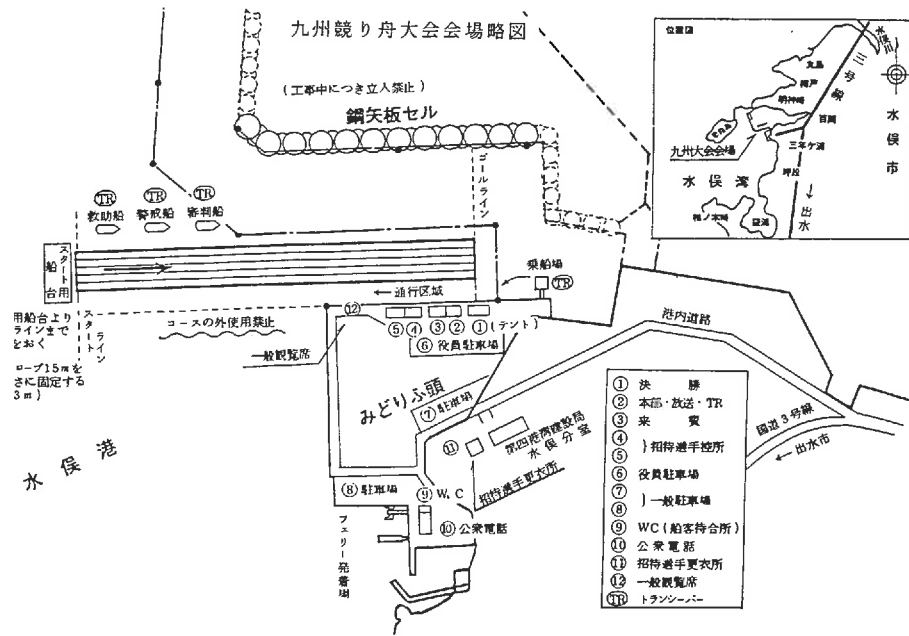
第二レース、①市渡瀬2分52秒9、②チップラスチェックス2分55秒8、③平国下2分58秒5。

第三レース、①三区2分48秒6、②新栄合板2分49秒9、③沢井建設2分53秒1、④長崎3分4秒4。

決勝 ①丸島2分43秒7、②新栄合板2分52秒0、③三区2分53秒5、④市渡瀬2分54秒7。



各地、精鋭ぞろいの開会式



松島町はプラスチックの競り舟、水俣のは木製

## 九州競り舟で優勝

丸島監督 坂本 至さん



九州競り舟大会優勝の丸島チーム監督、坂本至さんに、優勝の喜びと、この10年間の競り舟の思い出について語っていただきました。優勝の感想は、ただうれしいだけです。選手の皆さんが良く頑張ってくれました。丸島の競り舟優勝は、昭和31年以来のことです。

坂本さんと競り舟の出合はいつですか。  
「青年団で昭和34年まで、10年ぐらい選手として漕ぎましたし、復活してからは、一回大会からずっと監督やコーチとして皆んなの世話をしています。」  
この10年を振り返って、良かったことは。  
「何と云っても、多くの人との交流ができたことです。競り舟を始めるまでは、知らなかった地区の人と競り舟をすることで知り合いになり、おくさん方とも知り合いになれたことです。」

苦労はありませんでしたか。  
「やはりこの監督さんもそうでしょうが、選手集めが一番苦労しました。」 監督をやめるとい話を聞きましたが。  
「じつは、今年でやめるつもりでした。しかし選手のみんが、市民大会で優勝するまでは、そらできんというもんですから、市民大会で優勝するまで頑張ります。」

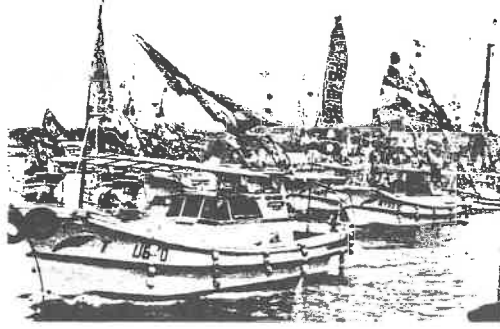
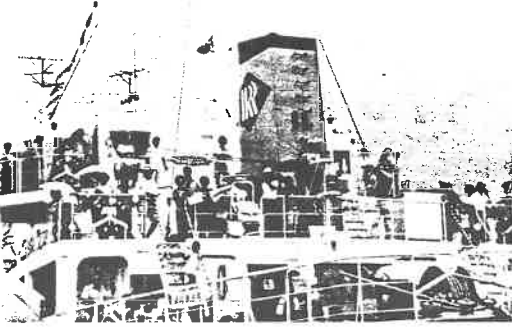
今後の目標は。  
「市民大会で優勝することと昨年できた競り舟協会を盛り上げ、水俣の競り舟がもっと盛んになるよう努力すること。」

坂本さんは、ねっからの競り舟好きです。鐘の音を聞くとじっとしてられないと話されます。今後とも競り舟発展のため頑張ってください。



長崎県長与チーム、レース前の歓談

▶旭富士丸のブリッジでは、船内見学と競り舟をちゃっかりと観戦



▲開港30周年とみどりふ頭の完成を祝い、満艦飾の漁船50隻が色鮮やかに海上パレード



▲工事中のヘドロ処理事業の第二工区(明神地区)をハツクに懸命の力漕



▲水シブキをあげてスタート直後の激しい競り合い



## 丸島が優勝

### 九州競り舟大会

みなとまつり行事の一つとして、九州競り舟大会が、七月二十一日、水俣港で行われました。この大会は、水俣市民競り舟大会復活十周年を記念し、さらに、水俣港開港三十周年と「みどりふ頭」の完成を祝って開かれたものです。長崎県の長与町、鹿児島県の鹿屋市、出水市、県内からは天草の松島町、人吉市、津奈木町の各チームに、本市十チームの十六チームが参加。レースは、舟やカイが違うこともあって、遠来の各チームが実力を発揮できず、結果は市内チームが上位を独占。二回戦で強豪湯堂を破った丸島が見事優勝、二位新栄合板、三位3区、四位市渡瀬となりました。

▲鈴なりになつて盛んな声援



# 水俣の競り舟

## 台湾遠征

1984年（昭和59年）～1986年（昭和61年）

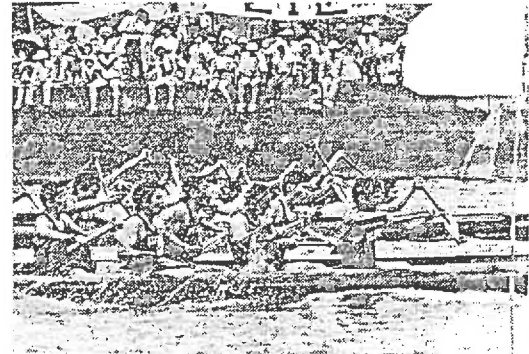
——ドラゴンボート大会——





# 競り舟、ドラゴンボートに挑む

## 水俣・湯堂チームを中心に26選手



ゴール目指して力闘する水俣の競り舟（昨年の大会で）

水俣の多物競り舟（ペーロン）が、今年も「四日市北市」で開催される「台湾ドラゴンボート大会」に出場することになった。また、水俣の選手も初めて海外試合で、選

手は、一躍して水俣を代表し、日本代表として出場することになった。先月、日本通運を通じて参加費が

あり、このほど正式に決まった。日本からの出場は今回が初めてで、水俣チームだけが

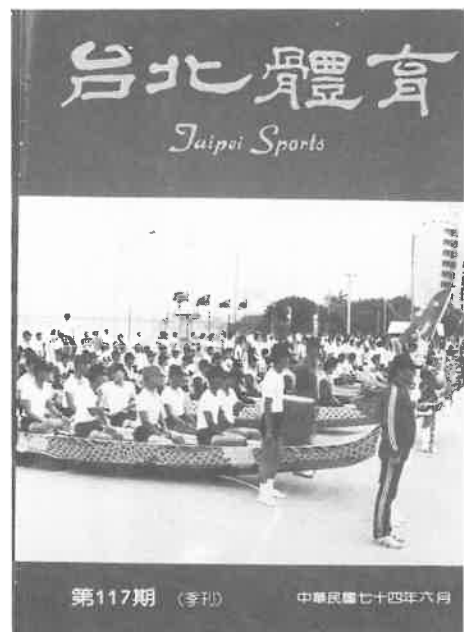
参加する。

## 来月台北で国際試合



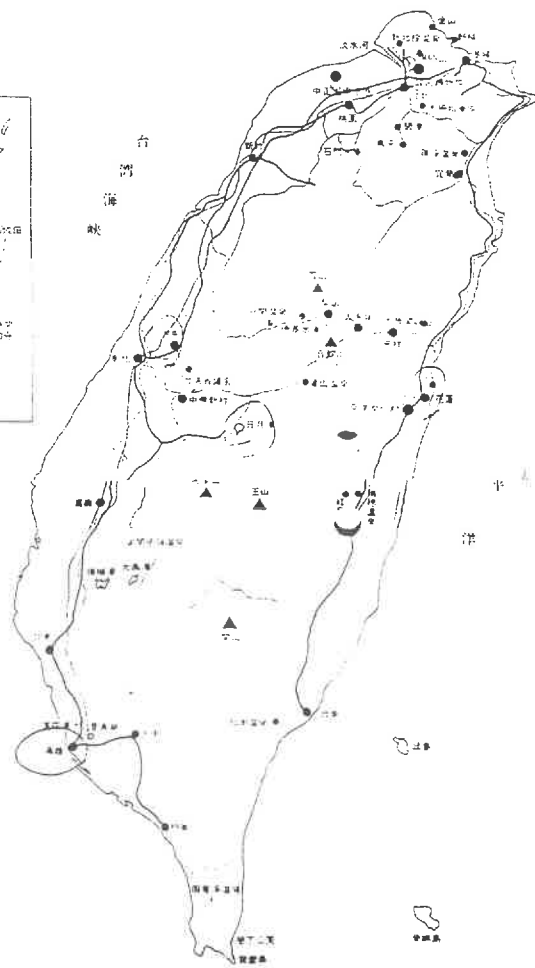
初の海外遠征、大会前に入賞の披露

# 台灣の大会誌



# 国際大会で 第3位入賞

台湾全図



職域の女子チーム



身障者も救命具をつけて参加する

## 初の海外遠征へ

6月1日、午前5時水俣を出発、満員のバスにトランク……前回からの興奮も手伝ってか、いささか睡眠不足である。「水俣せり舟」の長い伝統の中で、初の海外遠征とあって、身の引きしめる思いで、福岡空港へ!!

手続きを済ませて、10時30分福岡空港を飛び立つ。11時30分台北に着くと、体育関係者の歓迎をうけ、待ちうけたバスにてホテルへ直行。午後2時ホテルに着くと、食事をすませ、部屋割りを行なった後、早速練習である。淡水河がその場所でホテルから歩いて10分ほどの所にあり、台北市を二分する形で流れている。河幅は、水俣川の4倍ぐらいであろうか。

練習中、カイが川底に触れるところもあり、あまり深さはないようである。河水は濁りきっており、身体にかかると匂いが残る。軽い練習の後、ホテルで休養する。

6月2日、初の海外試合である。6時30分起床、7時食事、試合は10時30分ということで、8時30分より1時間の練習をする。ところが、急に気象状態が悪化し、開始時間が延びる。一たんホテルに引きあげ、中食をすませて再び会場へ。

我々日本チームは、午後1時30分のスタートとなる。

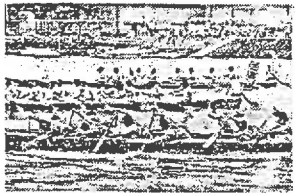
### オーストラリアに敗退

いよいよ、第一回戦のスタート。トレーニングも十分に、ボートに乗り込む。相手は優勝候補のオーストラリアチームである。練習十分とはいったものの相手チームの体格を見ると、まさに大男である。それに加えて河の流れも少々気になる。ヨーイ!!と同時にスタートを切った。数ヶ月ぶりの試合に満身の力を込めて河面を進む。腕や額に水しぶきが飛び散る。ボートはしばらくリードを保っていたが、ゴールが近くなる

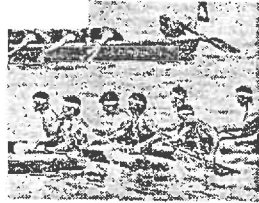


### 招かれ台湾・台北市へ

ボート大会 水俣のせり舟チーム出場



昨年の水俣川でのせり舟大会



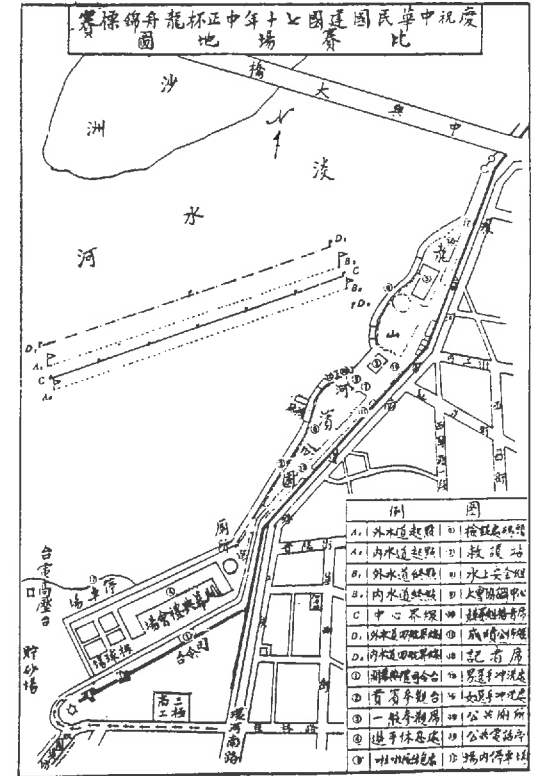
「水俣川」のせり舟大会は、毎年六月、水俣川を沿って行われる。今年も六月十六日、水俣川を沿って行われる。今年も六月十六日、水俣川を沿って行われる。

**◆ 水俣川**  
 水俣川を沿って行われる。今年も六月十六日、水俣川を沿って行われる。今年も六月十六日、水俣川を沿って行われる。



はなやかな開会式風景

### 拾、比賽場地圖



そこぬけに明るい、職域の女子チーム



初の海外遠征に参加したメンバー（台北市、淡水河にて）

水俣川のせり舟大会は、毎年六月、水俣川を沿って行われる。今年も六月十六日、水俣川を沿って行われる。今年も六月十六日、水俣川を沿って行われる。

水俣川のせり舟大会は、毎年六月、水俣川を沿って行われる。今年も六月十六日、水俣川を沿って行われる。今年も六月十六日、水俣川を沿って行われる。

1984年(昭和59年)  
代表選手名簿

No	氏名	職業(会社名)	〒・現住所・TEL
1	團長 前川 太助	水俣市役所経済部	〒867 水俣市幸町1番1号 TEL:0966-62-5274
2	副團長 山中 利治	水俣市役所経済部	〒867 水俣市幸町7-21 TEL:0966-62-4502
3	マネージャー 岩坂 雅文	(有)共立オートサービス	〒867 水俣市袋793 TEL:0966-63-1766
4	隊長 坂教 雄市	自 営 業	〒867 水俣市袋794 TEL:0966-63-2615
5	松永 永忠	新栄合板株式会社	〒867 水俣市袋793 TEL:0966-63-7259
6	坂本 幸則	坂本幸則行政書士事務所	〒867 水俣市袋770-1 TEL:0966-63-1860
7	松田 末男	新栄合板工業株式会社	〒867 水俣市袋686-3 TEL:0966-63-0340
8	濱崎 由廣	三宅組株式会社	〒867 水俣市袋774 TEL:0966-63-6832
9	坂本 賢保	山口製作所株式会社	〒867 水俣市袋786 TEL:0966-63-0447
10	坂本 賢康	興南電気株式会社	〒867 水俣市袋763 TEL:0966-63-0431
11	松田 浩幸	日本ポリプロパッキング株式会社	〒867 水俣市袋686-68 TEL:0966-63-5248
12	古川 長広	吉永商會	〒867 水俣市月ノ浦282 TEL:0966-63-7636
13	水本 子敏	東部板金	〒867 水俣市袋1403-168 TEL:0966-63-0071
14	松田 正敏	日本ポリプロパッキング株式会社	〒867 水俣市袋774 TEL:0966-63-0432
15	荒木 弘二	日本ポリプロパッキング株式会社	〒867 水俣市袋686-22 TEL:0966-63-5264
16	荒木 薫彦	新栄合板株式会社	〒867 水俣市袋820 TEL:0966-63-5781
17	註間 英彦	郡山防災	〒867 水俣市天神町2-3-3 TEL:0966-63-8200
18	吉浦 英悟	(株)田頭建設	〒867 水俣市袋794 TEL:0966-63-0149
19	岩下 健三郎	熊本県水俣市立湯出中学校	〒867 水俣市袋759 TEL:0966-63-0440
20	山内 彰博	新栄合板工業株式会社	〒867 水俣市袋8陣原団地9-4 TEL:0966-63-7387
21	寺床 幹男	新栄合板工業株式会社	〒867-02 水俣市大川893-02 TEL:0966-69-0439
22	前田 秀憲	新栄合板工業株式会社	〒867 水俣市平町1-7-3 TEL:0966-62-3437
23	前田 博光	新栄合板工業株式会社	〒867 水俣市袋8陣原団地27-3 TEL:0966-63-6457
24	野崎 光俊	新栄合板工業株式会社	〒867 水俣市月浦441-2 TEL:0966-63-5656
25	島本 康藤	原精機産業株式会社	〒867 水俣市祇園町1-3 TEL:0966-63-1858
26	窪田 政勝	(株)長野建設	〒867 水俣市平町1-10-41 TEL:0966-63-6766
27	杉谷 信介	新栄合板工業株式会社	〒867 水俣市丸島町2-13 TEL:0966-63-7834
28	佐々木 信一	(株)山口製作所水俣工場	〒867 水俣市梅戸町2-3-10 TEL:0966-63-5770
29	浜本 一進	水俣市漁業協同組合	〒867 水俣市袋744 TEL:0966-63-1268
30	松本 孝昭	セントラル工事株式会社	〒867 水俣市明神町1-320 TEL:0966-63-1662
31	松本 重義	無 職	〒867 水俣市南福寺98 TEL:0966-62-5742
820	石武 広巳	日本通運株式会社	〒105 港区新橋1-5-2 TEL:03-571-8481



健闘 日本代表、水俣市チーム  
第3位、精神獎獲得



# 1985年(昭和60年) 代表選手名簿

氏名	職業	〒・現住所・TEL
団長 昇 村	水俣市役所	〒867 水俣市古賀町2-10-12 TEL:0966-62-0337
副団長 康 藤 本	原精機産業(株)	〒867 水俣市祇園町1-3 TEL:0966-62-0227
コーチ 満 岡	チッソプラスチック(株)	〒867 水俣市袋686-69 TEL:0966-62-1706
隊長 則 市 幸 松 永 忠 石 英 明	坂本行政書士事務所 新栄合板株式会社 チッソ株式会社	〒867 水俣市袋770-1 TEL:0966-63-1860 〒867 水俣市袋793 TEL:0966-63-7239 〒867 水俣市袋155 TEL:0966-62-1274
マネージャー 文 雅 岩 阪	(有)共立オートサービス	〒867 水俣市袋793 TEL:0966-63-1766
荒木 弘 二	日本ポリプロ バック(株)	〒867 水俣市袋686-22 TEL:0966-63-5264
水本 千 敏	前川 飯 金	〒867 水俣市袋1403-168 TEL:0966-63-0071
荒木 本 賢	新栄合板株式会社	〒867 水俣市袋820 TEL:0966-63-5781
濱本 本 進	水俣市漁業協同組合	〒867 水俣市袋763 TEL:0966-63-0431
濱崎 由 廣	水俣市漁業協同組合	〒867 水俣市袋744 TEL:0966-63-1268
坂本 川 長 保	山口製作所	〒867 水俣市袋774 TEL:0966-63-6832
古川 長 市 吉 永 商 会	吉永商會	〒867 水俣市袋786 TEL:0966-63-0447
大町 良 俊	芦北コンクリート(株)	〒867 水俣市袋788 TEL:0966-63-1274
野崎 光 俊	新栄合板株式会社	〒867 水俣市袋794 TEL:0966-63-0590
杉谷 信 介	新栄合板株式会社	〒867 水俣市月浦441-2 TEL:0966-63-5656 〒867 水俣市丸島町2-13-21 TEL:0966-63-7634
窪田 政 勝	(株)長野建設	〒867 水俣市平町1-10-41 TEL:0966-63-6768
江口 寿 和	建設業	〒867 水俣市丸島町2-20-30 TEL:0966-63-0694
竹下 義 弘	チッソプラスチック(株)	〒867 水俣市梅戸町1-3-9 TEL:0966-63-5696
江口 一 之	水俣市役所	〒867 水俣市丸島町2-6-30 TEL:0966-63-4549
松本 孝 昭	セントラル工事(株)	〒867 水俣市明神町1-320 TEL:0966-63-1662
赤松 昇 昇	赤松工業	〒867 水俣市幸町14-13 TEL:0966-63-5918
赤松 辰 弘	柑橋工業	〒867 水俣市袋741 TEL:0966-63-4061
平松 辰 敏	柑橋工業	〒867 水俣市袋741 TEL:0966-63-4061
袁田 敏 彦	建設業	〒867 水俣市築地3-22 TEL:0966-62-1014
森田 敏 彦	建設業	〒867 水俣市牧ノ内10-35 TEL:0966-63-7159
荒竹 繁 一	江口建設工業(株)	〒867 水俣市南福寺10-16 TEL:0966-62-0852
行武 広 巳	日通航空	〒105 港区虎ノ門1-16-2 TEL:03-501-8681

## 日 程 表

日数	月 日	曜日	都 市 名	現 地 時 間	交 通 機 関	摘 要
1	1985年 6月 18日	火	水 俣 発 福 岡 発 台 北 着	05:00 10:20 11:25	バ ス 中 華 航 空 801便	水俣市役所に4:30に集合 バスで福岡へ 出国手続後一路台北へ 着後、ホテルへ
2	19日	水	台 北			
3	20日	木	台 北			
4	21日	金	台 北			
5	22日	土	台 北			
6	23日	日	台 北			
7	24日	月	水 俣 発 北 岡 発 福 水 着	16:10 19:15 23:00	中 華 航 空 802便	昼食後、午後の便で帰国 帰国後、バスで水俣へ

## 宿 泊 ホ テ ル

麒麟大飯店 (キリンホテル)  
 中華民国台北市康定路103号  
 電話: 02-314-9222



2位、敢闘獎と健闘した選手達



国境を越え、みんな友達

## 水俣競り舟が準優勝

### 台湾ドラゴンボート大会

90年の伝統をもつ「水俣競り舟チーム」は、台湾ドラゴンボート大会（中華民国74年中正杯龍舟錦標賽大会）に、昨年につづいて、日本代表として参加し、準優勝という輝やかな成績を挙げてきました。

市民の関心と期待をになった私たち一行28人は、6月18日早朝水俣を出発、福岡空港から中華航空801便で、一路台湾へ――。

台北国際空港で盛大な歓迎を受け、正午過ぎにホテル着。昼食後1年ぶりに淡水河で初練習。

19、20日は各国チームと時間割により朝2時間の特訓。

台湾での対日感情は極めてよく、しかも日本語の話せる年輩者も多く、日常会話に不自由なく過ごせたことを、一同喜んでいました。

大会の21日、20余万人の大観衆が見守るなかで開会式が行われ、地元（台湾）の部47チーム、われら日本を含む国際の部11チームが堂々の入場。国を挙げての開会式は壮観で、厳粛な中に行われました。

1回戦不戦勝のあと、2回戦は香港チームと対戦して楽勝。

3回戦は、優勝候補に挙げられているオーストラリア海兵隊チームと顔を合わせ、興奮状態のうちにタッチの差で日本チームの勝ち、第2戦目は硬直状態となって、遂に敗れる羽目となり、翌日の敗者復活戦に望みを託しました。

その夜は全員で作戦会議を行い、22日の決戦日は、香港チーム（昨年、日本チームが負けた2位チーム）と戦って勝ち、午後は準決勝で強豪のオーストラリアカンガルチームと対戦し、1、2戦とも少差で勝ち、決勝戦へ進出。

決勝戦の相手は、1日目に負けたオーストラリア海兵隊チーム。全力をつくしたが一歩およばず、涙をのむ結果となりました。しかし、フェアに戦った日本チームに、大観衆は惜しめない拍手をおくりました。

夜の歓迎レセプションでは、全員ハッピー姿で花笠音頭を披露。各国もそれぞれ特有の民族舞踊や歌を出して、盛会のうちに「また来年会いましょう」と、ユニホームの交換などで親睦を深めました。

翌日、準優勝の輝くトロフィをかかえて帰国しました。市民の皆さんのご声援、ご協力ありがとうございました。（団長S）



25名、息もぴったり

## 今年は優勝

水俣の競り舟チーム  
18日から台湾遠征



台湾出発の前に猛練習する水俣市の競り舟チーム

台湾遠征の水俣競り舟チーム、準優勝  
水俣市の競り舟チームが二十一日、二十日台湾・台北市で開かれた「台湾ドラゴンボート大会」で準優勝した。チームは二十四夜、水俣に帰った。  
同チームの出場は二年連続、昨年の三位を上回る好成績で、チームの団結とメンバーの良さが高く評価され、規律も厳格な「二レースの争い」も賞した。  
同チームが出場したのは、国際男子組、オーストラリア、香港、地次学なエリートチームによるトーナメント方式で、二日目は一回戦でオーストラリア海兵隊チームと敗れたものの、二日目の敗復活戦でも出場して優勝したいと話していた。  
優勝を争ったが、二レースの争いタイムでわずか一秒の差で敗れた。  
チームマネージャーで、競り舟協会の副会長の岩波雅文さん（左）は「相手は大男ばかり、二日目は一日四試合もしてスタミナ切れだった。来年は優勝したい」と話していた。

遠征するのは、団長の園村邦・市商工観光課長補佐、坂本幸則監督ら役員、選手三十人。選手は、昨夏の水俣市競り舟大会で上位入賞した瀬澄、丸島、八幡の各チームから選ばれ、うち十五人は昨年と同じ顔ぶれ。  
この大会は、台北市などの主催で、地元はもとより東南アジア各国からも参加があり、国際色豊か。水俣チームは、昨年の国際チームの部で、オーストラリア、香港に次いで三位だった。レースの距離、舟の長さ、乗員の違いなどのハンデもあったが、よく練習した上、尚ほが送られたという。  
今年は昨年の経験を生かして、優勝に切り替えて練習に励んでいる。一行は、十八日、福岡空港から出発する。

## 1986年(昭和61年) 代表選手名簿

No	氏名	職業	〒・現住所・TEL
1	団長 石田 勝	水俣市役所	〒867 水俣市平町2-1-12 TEL:0966-62-1771
2	副団長 箱崎 力	木材業	〒867 水俣市石坂川653 TEL:0966-67-1345
3	監督 島本 康藤	原精機産業(株)	〒867 水俣市祇園町1-3 TEL:0966-62-0227
4	マネージャー 岩阪 雅文	(有)共立オートサービス	〒867 水俣市袋793 TEL:0966-63-1766
5	コーチ 森田 繁敏	森田急送	〒867 水俣市牧ノ内10-35 TEL:0966-63-7159
6	田口 憲雄	新栄合板	〒867 水俣市浜町3-6-29 TEL:0966-62-3209
7	吉本 靖利	新栄合板	〒867 水俣市袋818棟4 TEL:0966-63-8504
8	谷口 忍	水俣衛生センター	〒867 水俣市深川1457 TEL:0966-63-1617
9	谷口 義弘	前田建設	〒867 水俣市深川1511 TEL:0966-63-7357
10	篠原 久雄	自営	〒867 水俣市梅戸町1-3-12 TEL:0966-63-7385
11	上田 倫行	興南電気	〒867 水俣市祇園町1-104 TEL:0966-63-0615
12	緒方 義昭	日本珪素	〒867 水俣市牧ノ内12-77 TEL:0966-62-0806
13	平松 辰弘	柑橋農業	〒867 水俣市袋741 TEL:0966-63-4061
14	松本 秀次	水俣市農協	〒867 水俣市石坂川674 TEL:0966-67-1059
15	吉里 高広	水俣市役所	〒867 水俣市吉里909 TEL:0966-69-0742
16	溝口 正幸	新栄合板	〒867 水俣市袋25-30 TEL:0966-63-3580
17	緒方 広治	チッソ	〒867 水俣市湯出2107 TEL:0966-62-0916
18	千千岩 哲也	釣橋郵便局	〒867 水俣市桜野305 TEL:0966-67-1929
19	吉野 幸男	農業	〒867 水俣市薄原1553 TEL:0966-67-1639
20	吉本 良一	水俣石油	〒867 水俣市宝川内1123 TEL:0966-67-1744
21	松本 春男	河村電器	〒867 水俣市宝川内892 TEL:0966-67-1767
22	永里 龍二	沢井建設	〒867 水俣市梅戸町1-3-10 TEL:0966-62-0860
23	江口 寿和	建築業	〒867 水俣市丸島町2-20-3 TEL:0966-63-0694
24	赤松 昇	赤松工業	〒867 水俣市幸町14-13 TEL:0966-63-5918
25	松永 茂知	松永米屋	〒867 水俣市牧ノ内10-4 TEL:0966-62-1588
26	有村 誠一	有村造園土木	〒867 水俣市初野101 TEL:0966-62-2345
27	山平 勝利	チッソ	〒867 水俣市浜4093 TEL:0966-62-2423
28	八田 博志	九州産交	〒867 熊本市江津町下江津11-36 TEL:096-379-2032

2位、精神奨と16チームを代表し健闘した

今年も準優勝!

### 台湾ドラゴンボート大会報告

月9日、私を含めた一行27名は、期不安の中、台北空港着陸、2時間の空は「ヤッパリ地上がいいなあ」…と誰ことばに実感。

に日の丸、JAPANの金文字、意外とに簡単な通関手続きである。巷より、リムジンバスでホテルへ高速走る。ホテル到着。休む間もなく練習へ。

度で3回目の参加、島本監督、森田コ、岩阪理事長は、昨年の経験者。道案手慣れたもの、幸いどこに行っても日が通じる点結構、道行く人も、日の丸ニホームに愛想を振りまいてくれる。になつかしそうである。こちらも「又逢いましょう」と言わなければ、いつも話は続く、うれしい悲鳴ではある。

台湾ドラゴンは全国大会、国際大会を2日間で180レース実施、国内外より20万人が集まると言われる端午の節句の国家行事の一つである。

10日、赤や緑の極彩色と耳鳴りがするような鐘の音で開会され、やたらと花火が鳴り響く。

第1戦、米国に快勝したが、強敵オーストラリアモンマルトルチームに敗れ、敗者復活戦で2勝をあげ、再度対戦、デッドヒートを繰り返して辛勝し決勝戦へ進出。

善戦惜しくも敗れて準優勝となったが閉会式で「精神奨」という特別賞を受賞、我々が努力したもう一つの意味が台湾の人々に通じた意義ある賞である。

古きよき時代の日本の心を、日本人以上に大切にしてくれている台湾の人々と、もっと語り合いたいと思っています。

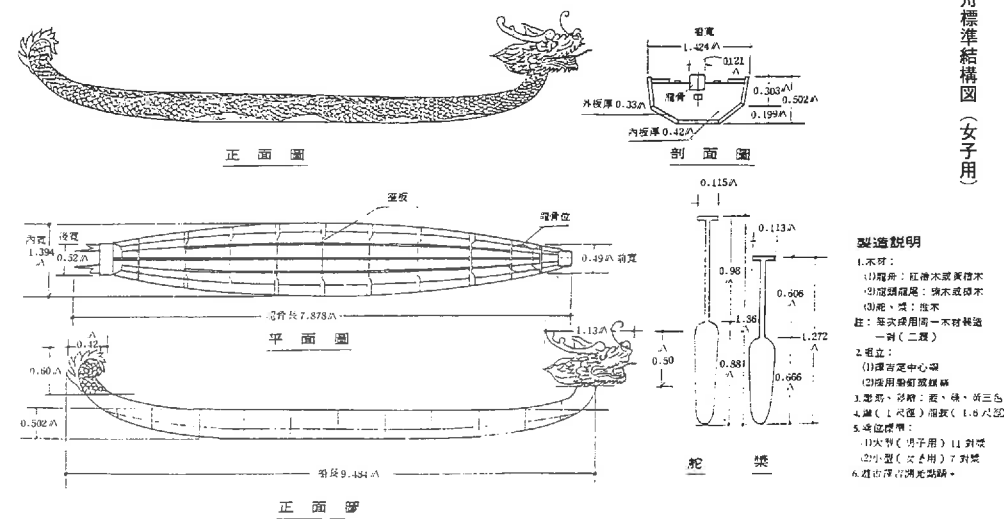
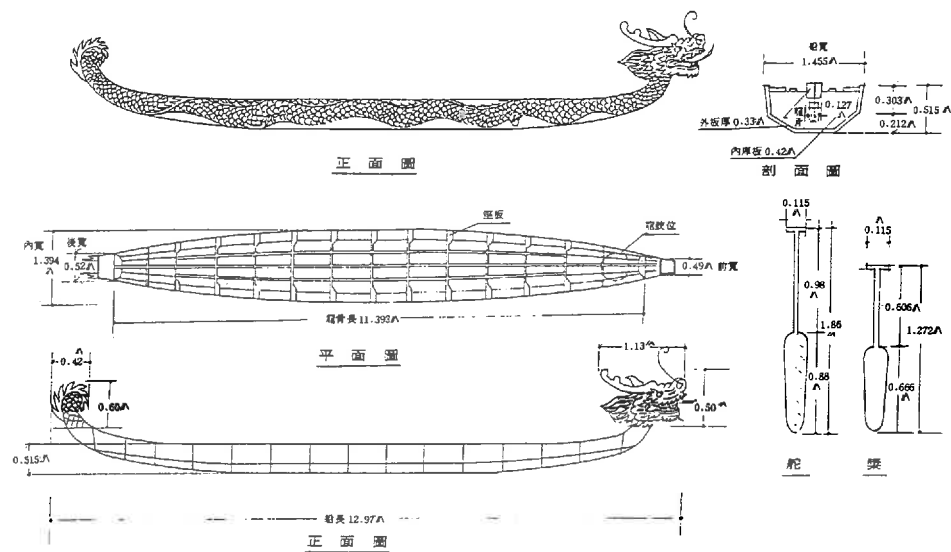
(団長 石田勝・市教委)



応援団も、じっとしておれません



選手は、男子、女子とも10代



- 製造説明**
1. 木質:
    - (1) 船身: 紅檜木或黃檜木
    - (2) 船頭龍頭: 楓木或杉木
    - (3) 舵、槳: 柚木
  2. 組立:
    - (1) 擇指定中心線
    - (2) 擇用船釘或鐵絲
  3. 塗料、彩繪: 藍、綠、黃三色
  4. 龍 (1 公尺) 幅取 (1.6 A) 2D
  5. 舵位標明:
  6. 船位標明 (清楚易辨):
    - (1) 大型 (男子用) 11 列
    - (2) 小型 (女子用) 7 列

# 競り舟（ペーロン）のはなし

競り舟（ペーロン）の発祥

競り舟の規模

日本各地の競り舟

「ここにもあった」競り舟

水俣の競り舟	（熊本県水俣市）
沖縄のハーリー	（沖縄県糸満市、那覇市）
長崎のペーロン	（長崎県、各地）
相生のペーロン	（兵庫県相生市）
津奈木のペーロン	（熊本県芦北郡津奈木町）
人吉の古代船	（熊本県人吉市）
松島の白龍船	（熊本県天草郡松島町）
出水のペーロン	（鹿児島県出水市）





# ペーロンの発祥

中国の福州 現在の福建省 地方で、この競漕は同地方の年中行事の中でも最も多彩なもので、往時は盛んに行なわれて居ましたが、近年は衰えていると、言われています。

## 白龍の起源は

西暦紀元前300年、楚の宰相屈原は懷王を助けてよい政治を行い、名宰相と言われていましたが、ざんげせられて湖南に移されました。

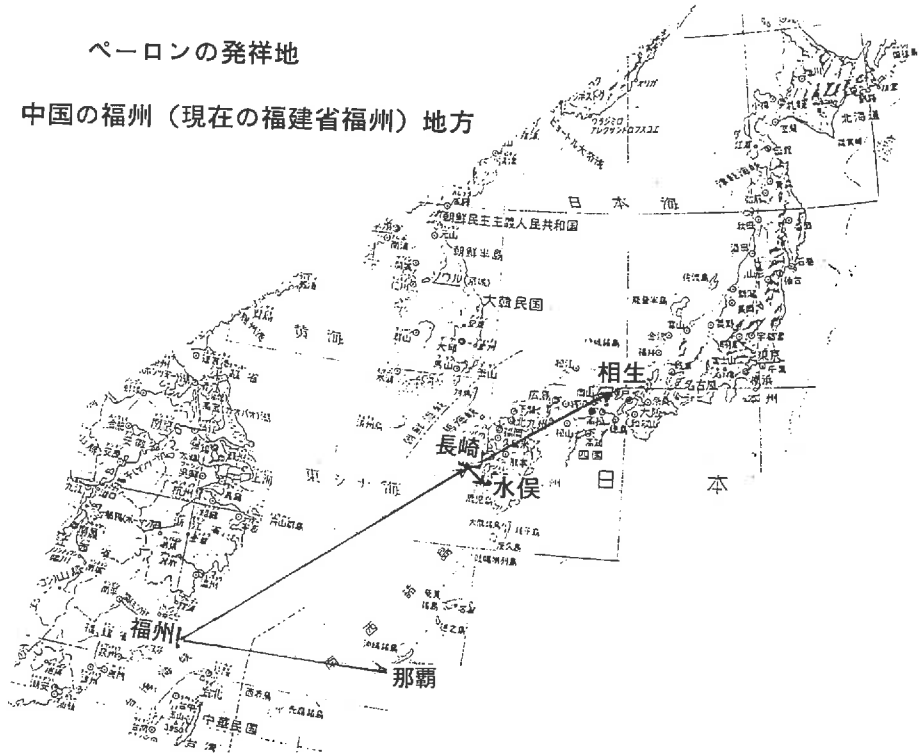
その後間もなく懷王は周の報(たん)王に捕えられ、屈原は憤慨して羅(河)に身を投げました。人民はこれを非常に悲しみ「ちまき」をつくって河に投げ、同時に龍船(白龍)に乗って相戦い、その霊を慰めました。ペーロンの語源は 飛龍 と書き、中国の発音で フェイロンと言うことからこれがなまって、ペーロン、またはピャーロンと、呼ばれるようになったと言われています。

## 日本に伝わったのは

縄文に伝わったのが、西暦1400年前後と言われ、約570年の古い歴史をもっています。また長崎が約300年前の明暦年間といわれています。

### ペーロンの発祥地

中国の福州(現在の福建省福州)地方



# ペーロンの規模について

ペーロンが長崎に伝えられた当時は、競漕専用の船ではなく、競漕に適した軽快な鯨船が用いられていました。

ペーロンが次第に盛んになるに従い特別の船が考案され、全長も15尋(約22米5位)20尋(約30米)、大きいのは30尋もあったということです。

先首は入首と呼び、その先端にしゃせん(L字型)を取り付け、おもて 先首に近い方、中間(中央部)、とも(後部)にわかれ、おもて、ともの外板には波模様、太陽、矢印、地区名などが画かれ、おもて中間に近い方に太鼓を、ともの中間近くに銅羅を取り付け、船はとても軽くしかもスマートに作られていました。

乗組員は享和元年(1801年)頃は、約50人位であったと言われています。また、時によっては60人、70人乗り込む場合もあり、全長、乗組員数等も自由のようで、至ってのんびりした取り決めであったようです。

大正中期の頃の船(全長12m余に決められている)の2倍位くらいは有り、乗組員も70人位ではないかと思われています。また、その形も今船に比べかなりそり上がっていて、1番目のオールの長さは相当長かった。現在の船は速度に重点がおかれ競漕専用であるため、それも少なくどちらかと言えばむしろボートに近い構造に変わっています。

## 競り舟(ペーロン)の比較

使用船	開催地	糸満市	那覇市	長崎市	水俣市	相生市	出水市	人吉市	松島町	津奈木町
乗材	1	1	=	6	9	3	3	6	10	6
長さ	木造	=	=	=	=	=	=	=	プラスチック	木造
幅	7			1.3	1.3.2		1.3		1.0	9.6
重	1.2			1.4	1.5	1.7			1.3	1.2
	700			800	800	860			800	

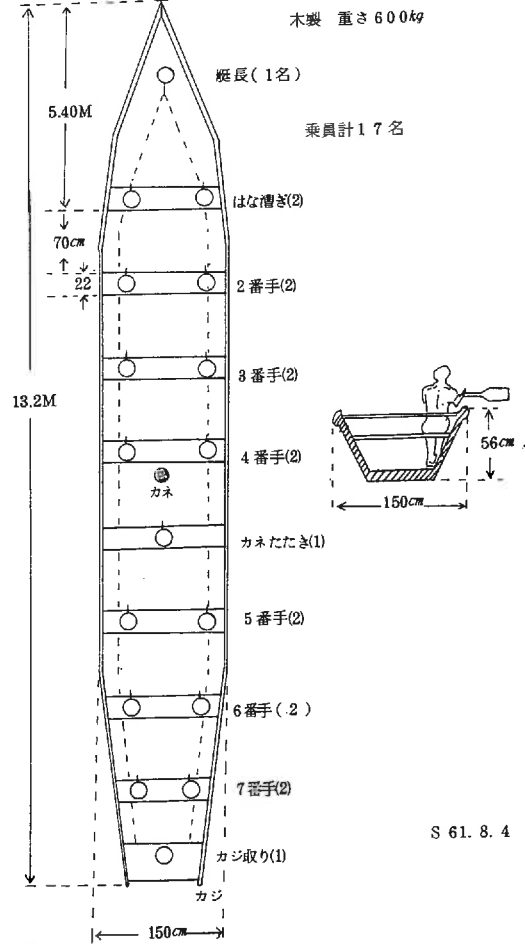
乗組員内訳	人員	14~15名	42名	32名	17名	40名	17名	12名	17名	15名
艇長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
漕手	12	3	2	2	1	3	1	1	1	1
舵	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1
あかぐみ	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1
その他			5	1		2(監督)				

距離	片路	2100m			500m	600m	200m		500m	500m
往	復	800m		1900m				400m		
開	期	旧暦		6月第1日曜日	7月下旬	5月最終	8月初旬	4月下旬	9月第3日曜日	8月第3日曜日
催	日	5月4日		9月中旬		日曜日		5月初旬	五橋祭	盆
場	所	糸満港	那覇新港(安謝)	長崎の他(神島)	水俣川河口	相生港	名護港	球磨川	合津港	大泊港

(注) 長崎県・沖縄県には数カ所に存在し、舟の規模も、様々で、上記は、その1例にすぎません。

# 水俣市の競り舟

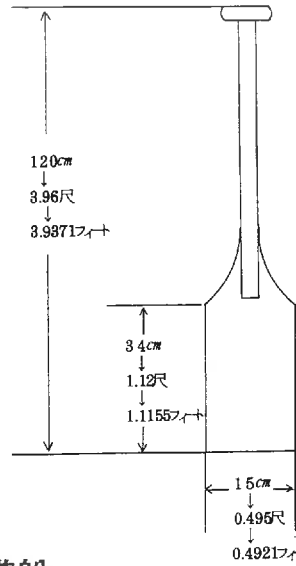
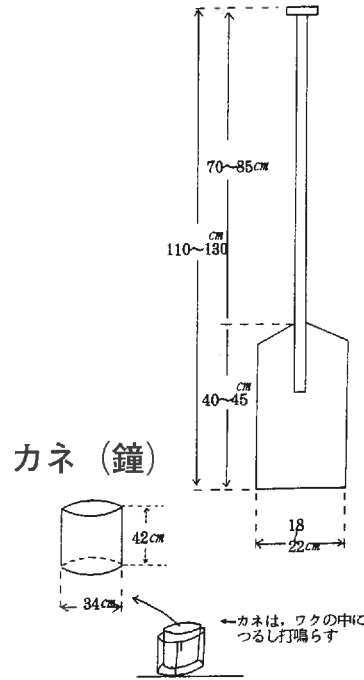
## 競り舟略図



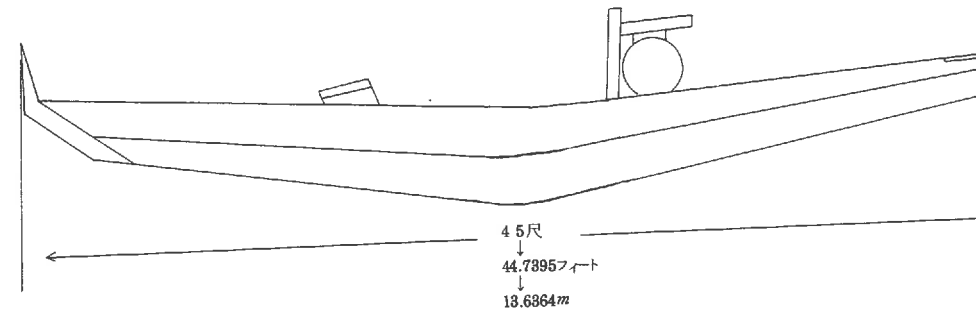
## 競り舟 カイ (オール) 略図

木製(カシ、スギ、クス等)

(カイ)



## 長崎市ペーロン協会標準船



# 熊本県水俣市

## 水俣市民競り舟大会



水俣市民競り舟大会

## 水俣競り舟夜話

水俣の競り舟は現福田農場の祖々父に当たる森田国蔵さんらによって長崎から伝えられたといわれていますが、八幡町の本郷さん（昭和51年没）によると、「明治31年、私が小学校1年生の時乗った記憶がある」と言うことなので、この少し前に始まったと思われます。

当時疫病が流行して伝統を誇った虫追い行事も、廃止されたままになっていたので、時機を得たこの競り舟は、年毎に盛んになって行きました。

白浜町の寵覚さん（77才）は、「19才の時の大正10年、商工会チームの一員として出場して、頑張りましたが、芸者チームに敗れたため、面目まるつぶれで、しばらくは表通りを歩けなかった」ということです。

これら女子チームは、「島田の髪をタオルで巻いて、流行の水着を着用して力漕、強烈なお色気を発散」しました。

昭和7年に改修されるまでの水俣川は、小崎一市立病院－水俣郵便局－山口製作所のコースを流れていました。

そして六ツ角付近には永代橋がかかり、浜側には砂糖屋旅館（現徳富歯科病院）が、その大きな姿を浮かべていました。対岸は古賀と大園で、川岸の通称大園の塘には、遊郭が軒つらね、二階からレースを見おろす遊女たちが、「ヤーさんがんばってえー」などと大声をあげ、興奮してくると、クシヤカンザシを馴染の選手に投げたり——。「その華やかさは現在の比ではなかった」と、古老たちは目を輝かせて懐しんでいます。



昭和初年、永代橋での競り舟風景



## 桜の名所 湯の児海岸道路公園

水俣ではトン、トン、トンと太鼓の音につづいて「ア、ヘンヨ」とはやしたり「ヘンヨヤッサ、トン、トン、トン」という調子に太鼓を叩くので競り舟のことを「ヘンヨヤッサ」とも呼んだとも言います。今日では競り舟と、よんでいます。

スタート地点は、現在の浜グラウンドの市立病院側入口付近で、永代橋下あたりだったということです。

レースは現在と同じ500mほどで、丸島、船津、古賀、浜、湯堂、茂堂などのチームがしのぎを削りました。津奈木からも毎年、オープン参加していましたが、これがめっぽう速く、水俣勢はまったく歯がたちませんでした。

また当時は、満潮時だけレースを行っていたもので、朝、数レースやって昼は休み、夜、潮が満ちるのを待って、ちょうちんの明りで、再びレースを行うと言う、のんびりしたものでした。

水俣川改修工事が始まった昭和7年から、地域対抗はなくなり、変わって日笠（チッソ）尚和会による競り舟大会が、昭和9年梅戸港で開かれました。

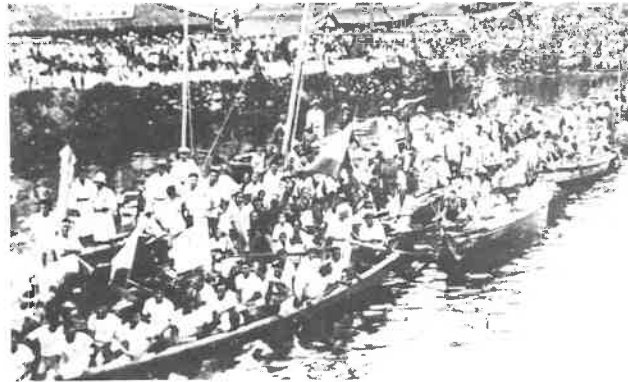


尚和会とは、チッソ従業員団体で、スポーツ、文化活動など、あらゆる分野で、市（町）の中心的存在でした。

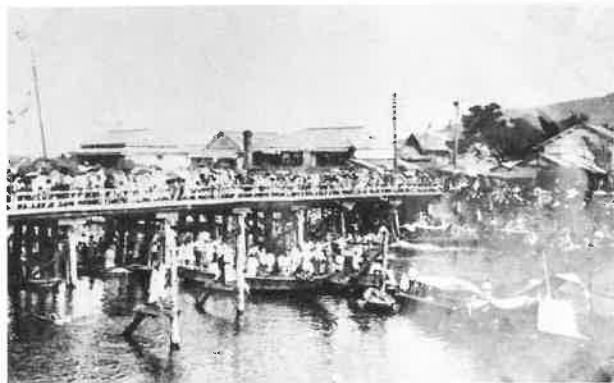
梅戸港での競り舟は、沖の方をスタートし港湾をゴールとするもので、「遠くて見づらかった」と言うことです。

旧水俣川時代にも活躍した浜町の塩崎伝次郎さん(73)によると「これまで漁船のモマ船を使用していたのを、尚和会により専用の競り舟6隻を建造、艇庫も梅戸に建設しました。」

また、「コーチの中に、東大ボート部でならした人がいて、艇長（メガホン振り）を船首にのせ、カジも「ろ」の型から普通の型に改めました」。現在のスタイルが、この時ででき上がっているようです。



昭和初めの頃の見物客と競り舟大会風景



さらに「カイも先のとがったものから平たい」に、漕ぎ方も角度はね方など、ボートの要素を取り入れた合理的なものとしたため、グンとスピードが加わりました。

梅戸では2回だけ行なわれ、昭和11年から改修なった新水俣川（現水俣川）で開かれました。

コースは、幸橋から八幡宮裏（現水俣大橋付近）までの500mで、このコースは兩岸の堤防が斜面となっているので、見物には絶好の観覧席となっていて、レースを見下ろしながら、一段と応援合戦が盛り上がりました。

尚和会より1年早い昭和10年、青年団対抗が始まり、この年丸島が優勝しています。

丸島町の橋本喜代太郎さん(73)は、当時、米俵(60)kgをほうり投げる力もちでしたが、旧水俣川時代と同じハナ漕ぎで出場、優勝に貢献しました。

橋本さんによると「丸島、船津（現八幡町）は以前から優勝を争うライバルだけに仲も悪く、魚市場をもつ丸島は鮮魚商の多い船津に——魚をうらない——と宣言すれば、船津側は——八幡通りは通らせん——と応酬。果ては丸島側が「なぐりみ」の一幕もありました。

丸島チームのマネージャーを努めた中村政雄さん(75)は、「浜、丸島、茂道、は仲がよく、反対派の船津、湯堂、津奈木とは犬猿の仲だった」こと。

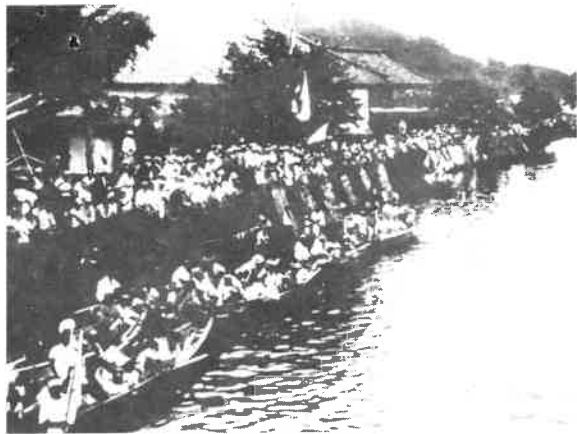
昭和16年に大東亜戦争が始まり次第に激化、浜町の園村輝男さん(55)は「尚和会で17年まで出場した」とのことですが、その後中止されたと言うことです。

終戦後の昭和24年、5年尚和会によって復活し、2、3年後からは青年団対抗が再開され、34年まで続けられました。

青年団対抗では、山間部の石坂川チームの活躍がめざましく、数回優勝、当時は極端な食糧難。「石坂川は米をたらふく食べとるから」「いや？漕ぎの練習がすごいから」、などの噂で、もちりでした。

昭和32年からは湯出青年団が3年連続優勝し、34年を最後に、財政的な理由で中止となりました。

そして51年、青年団体連絡会議によって復活し、現在に至っていますが、年々盛んになりました。一方、最近では昭和58年7月、「九州競り舟大会」が開催されました。そして、昭和59年6月初の海外遠征として、「台湾ドラゴンボート大会」に出場、堂々3位入賞、精神賞をも獲得しました。



浜源光寺と競り舟 (昭和初期)



一斉にスタート (昭和初期)



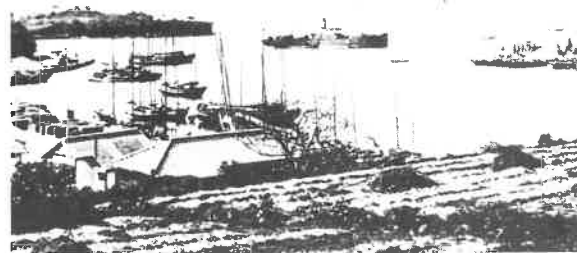
上流から見た永代橋 (右が砂糖屋旅館)



永代橋付近 (昭和初期)



昭和8年 百間港改修工事  
(百間港でも競り舟大会  
があった)



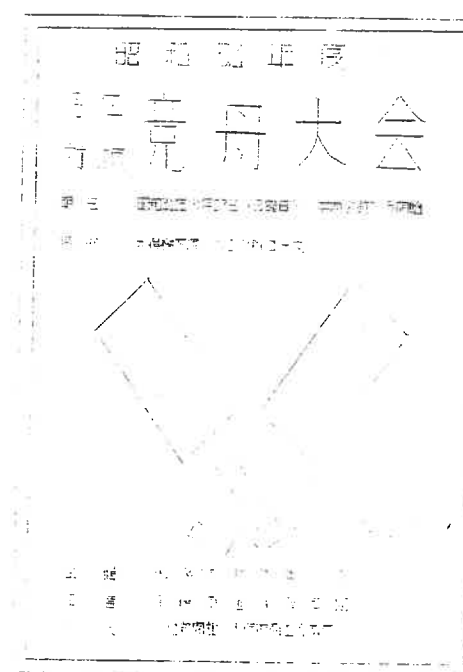
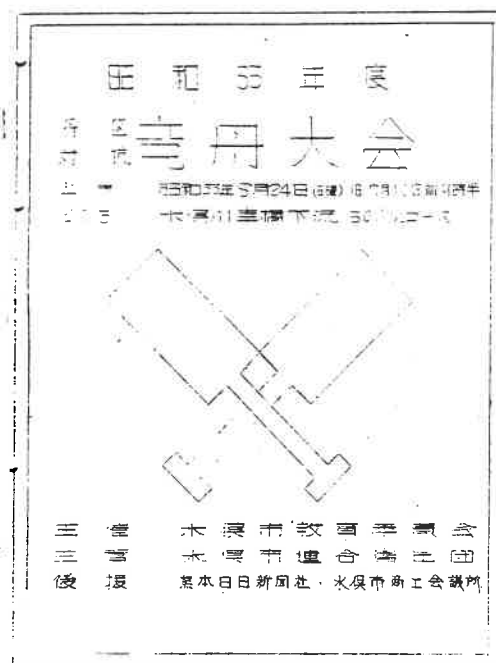
梅戸港でも競り舟大会があった  
(昭和初期の梅戸港)



昭和初期の永代橋のたもと  
(今の信用金庫附近)

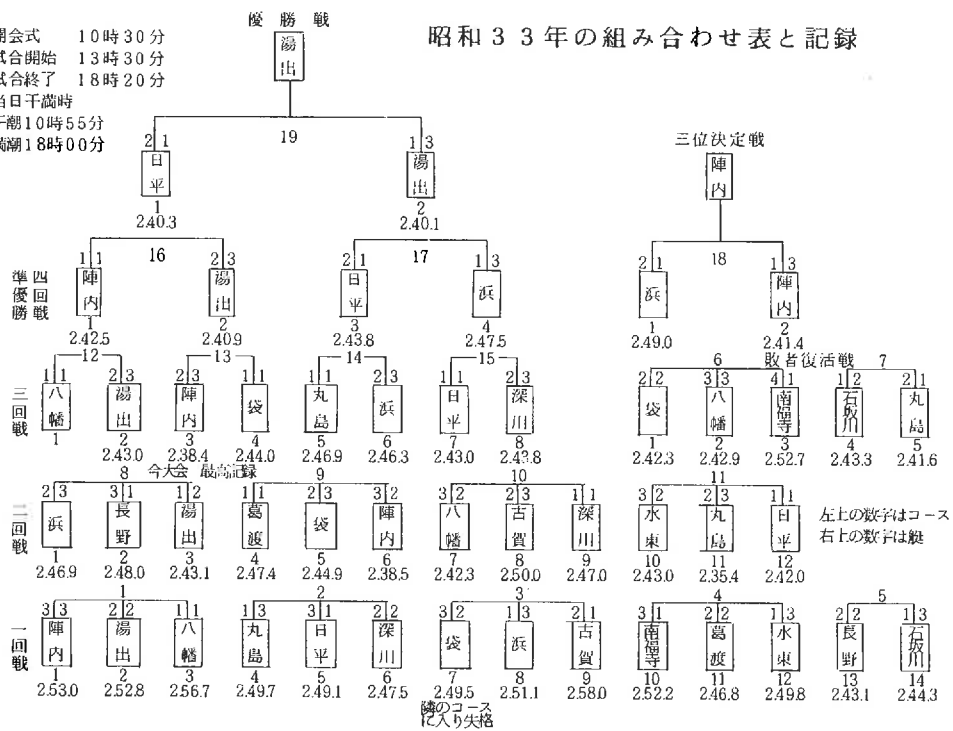
# 昭和33・34年の

## 競り舟大会資料

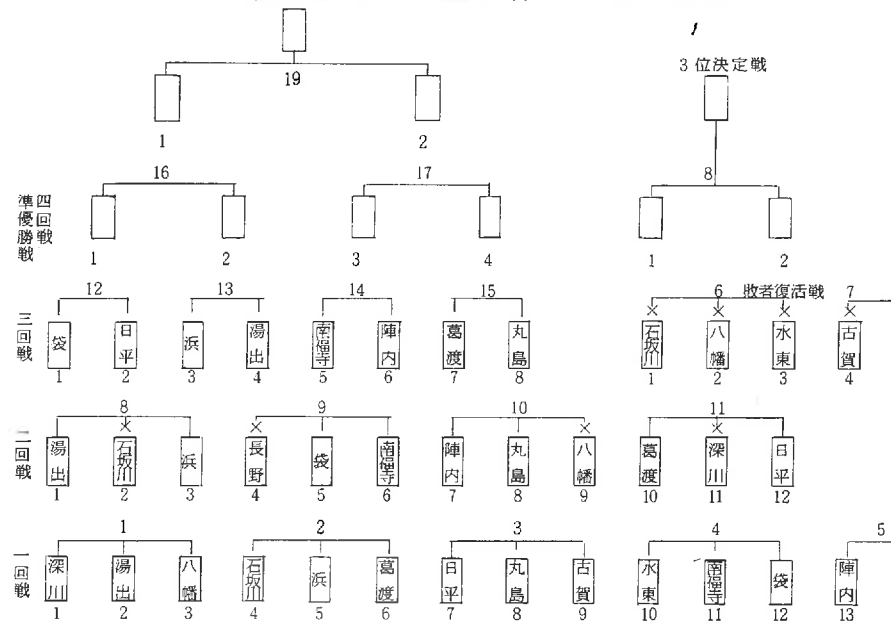


開会式 10時30分  
 試合開始 13時30分  
 試合終了 18時20分  
 当日千歳時  
 千歳10時55分  
 満潮18時00分

昭和33年の組み合わせ表と記録



昭和34年の組み合わせ表と記録





# 日本カヌー発祥の地・みなまた

## 競り舟からカヌーへ

くもすけ」のニックネームで知られた白取は、「農漁村からオリンピック選手を……」の希望の下に、昭和36年4月、「水俣市一協会」を設立した。

時、水俣の競り舟は、水俣病や労働争議等社会不安の中で中断していたものである。

年後の東京オリンピックを目標に、水俣高市役所などの若者と津奈木町のペーロン選集まり、会長を斉所市郎とし、五輪選手のが実行に移された。

本カヌー協会から指導者が派遣され、初代チは、水俣高校教諭の新立義文があたった。統の競り舟は、当時一流の東欧のカヌー指より、近代的なスポーツトレーニングをミス・古くて新しい競り舟カヌー？が育ってた。

和37年に第一次オリンピック候補に吉野・隅本富夫そして強化選手に松山勝征・古健・吉尾詔二・田原静司・石田勝・前田信池田紀美子が選ばれ、20人中大半を占め

回かの海外研修や指導者招へいのあと、陸技の米津午郎（人吉市）がコーチとして就基礎体力を重視した米津式のトレーニングいた。

和38年10月、東京プレオリンピックで活躍、前記の選手に牧武久・小野田悟・砂紀・緒方成満・元田好彦を加え、大半が上位6位内の入賞を独占した。

標の東京オリンピックにはペーロンの吉野迫ペアが補欠となったが、水俣工業出身の富夫・吉尾詔二が出場。役員に白取が参加

した。

競技役員には、広田原、友田義玄・中元敏行・今里英児・淵上康昭・野口恒・坂本哲哉・栄永健一・吉井貞夫・吉海繁人・浜崎国夫・萩嶺昭信・淵上英明・松本好栄・後藤順史・森豊夫・石田勝・田原静司・柳迫義治・吉野仲篤・出田節子等が参加。その後のカヌー界はもとより県下のスポーツの振興にも多大な影響を与えることになった。

東京オリンピックを機に、カヌーの普及に伴ない、九州各地のペーロン関係にも刺激を与えた。特に長崎・熊本・鹿児島は、伝統ペーロンの復活が見られるようになった。

昭和43年には、吉野仲篤が津奈木町ペーロン出身者として、メキシコオリンピックに出場白取の夢がかなえられ、二人三脚で同行し、予戦で敗れたとは言え、念願の「農漁村の青年をオリンピックへ……」送ることができた。

東京オリンピックで1年余修業した石田と田原は、水工高を中心にカヌーの育成を図り、吉野の他に、昭和51年、緒方厚信がモントリオールオリンピックに参加、帰国後コーチとして井上清登（球磨工商出身）を育て、昭和59年ロスアンゼルス大会で見6位入賞を果たした。

日本カヌーで初めて、五輪入賞は、水俣で鍛えられた緒方の教え子であった」

一方、昭和51年、競り舟再建のメンバーに石田が加わり、第1回大会の運営は、水俣市カヌー協会が中心となって実施。カヌーの生みの親に対して、孝行をしたことになる。

又、大会を盛り上げるため、カヌーOB会、「九木舟会」が出演。ブツケ本番で3位に入賞、OBも祝勝の美酒に酔った。



昭和37年当時、競り舟カヌー？をテストする日本カヌー協会役員（水俣川）  
（藤木・西川・管野・元安・須永氏）



昭和42年高校時代の緒方・新立選手  
（緒方は、モントリオールオリンピック参加、  
コーチとなりロス五輪の井上清登を育てた。）



カヌー大会の中のオープンレースとして  
5人乗りカヌー（競り舟）が行なわれた。



昭和37年水俣川のカヌー練習



昭和51年、メキシコオリンピック出場の  
吉野（前漕ぎ）と山口選手（メキシコにて、  
右端は日取監督



昭和38年、全日本大会で大勝万才している  
水俣選手団（荒瀬ダムにて）



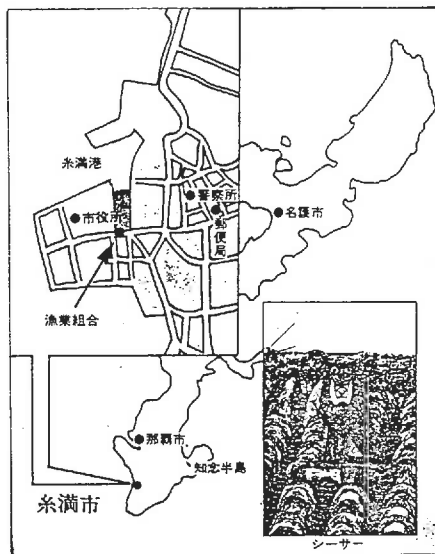
カヌー育ての親、故白取義輝



昭和37年、当時の水俣カヌー  
琵琶湖、全日本大会  
（西独参加）



# 沖縄県糸満市 那覇市



## 糸満のハーレー

旧暦5月4日は「ユッカヌヒー」と称され、各地でハーレー 龍船競漕 行事が開催されますが、ここ糸満のハーレーは、伝統的なものとして有名です。

糸満の、龍船行事は中国に由来し、沖縄に伝わってから約570年古い伝統を持っています。

中国では、泊羅 べきらの淵に身を投じた愛国詩人、屈原を祭る行事として、端午の節句に行なわれています。

この行事が沖縄に伝来したのは、西暦1400年前後と言われ、一説によれば、琉球の三山鼎立時代に南山王の応祖 やふそという人が南京で 龍船競漕を見て、帰ってから豊見城城下の入江で競漕を行ったのが初めてであると言われています。

これが沖縄各地で行なわれるようになり、現在まで続いています。

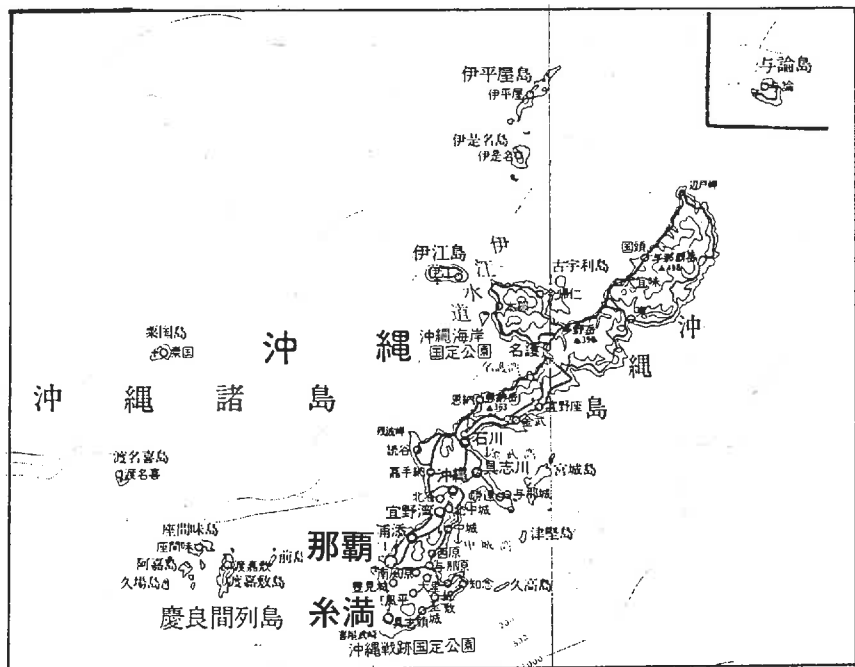
糸満市のハーレーは、独特のニライカナイという信仰にねざした信仰色色彩の濃い行事です。宗教的儀式は南山城、大里ノ口を中心に行うのがしきたりになっています。

ハーレー行事の中でも一きわ観衆の注目

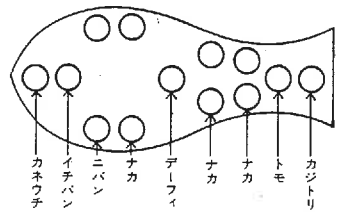


を集めるのは、船の転覆競技です。途中でいったん転覆させ、起こして再び漕ぎ出すという特異な技、日頃海上での船を巧みに操る漁師のわざを競い合う、スリルに富んだユーモラスな競技は、観衆を熱狂させる種目の一つです。

ハーレー行事の行われる一週間前から、作業かり出しハーレー鐘が鳴りはじめると、沖縄地方の梅雨は明けて、そろそろ本格的な夏が訪れると言われていています。



ハーリー船の構成メンバー



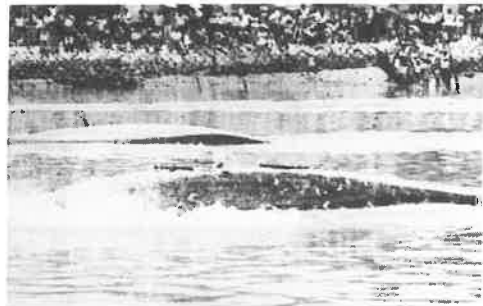
御願パーレーだけが三人で、  
 転覆パーレーや上りパーレーは一  
 二人。図は御願パーレーのもの。  
 このうちもつとも重要なポジシ  
 ョンはイチバン、つぎにニパン。  
 イチバンは力のある人がいい。イ  
 チバンとトモは方向を変えるとき  
 カジトリを手伝う。  
 カネウチは、漕がないのだから  
 体重の軽い人ほどよく、したがっ  
 てふつうは子供になる。



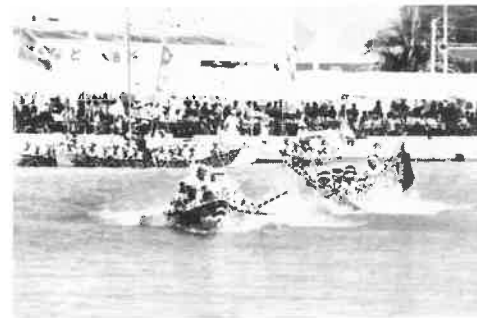
転覆パーレー 正面のターン



中間点で船内に水を入れる



転覆させて、再びレースへ



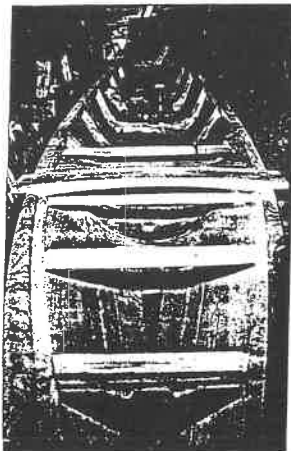
正面、ターン



ユニホームは民俗服のまま



サバニ



サバニ製作者の大蔵さんは、  
 サバニが優れている理由を二つあ  
 げる。一つは波に強い、もう一つ  
 は木が厚いので浮力があること。  
 サバニは、沖縄独特のくり舟だ。  
 波に強いのはなぜかという点、波  
 に乗るからである。ヤマトの舟は  
 波を切るようにできている。サバ  
 ニはだから、高い波で平気なのだ。  
 構造の点からいうと船首が巾広に  
 なっていて、それが波に乗りやす  
 い原因だという。

サバニくり



民俗色豊かに伝統を受け継ぐ



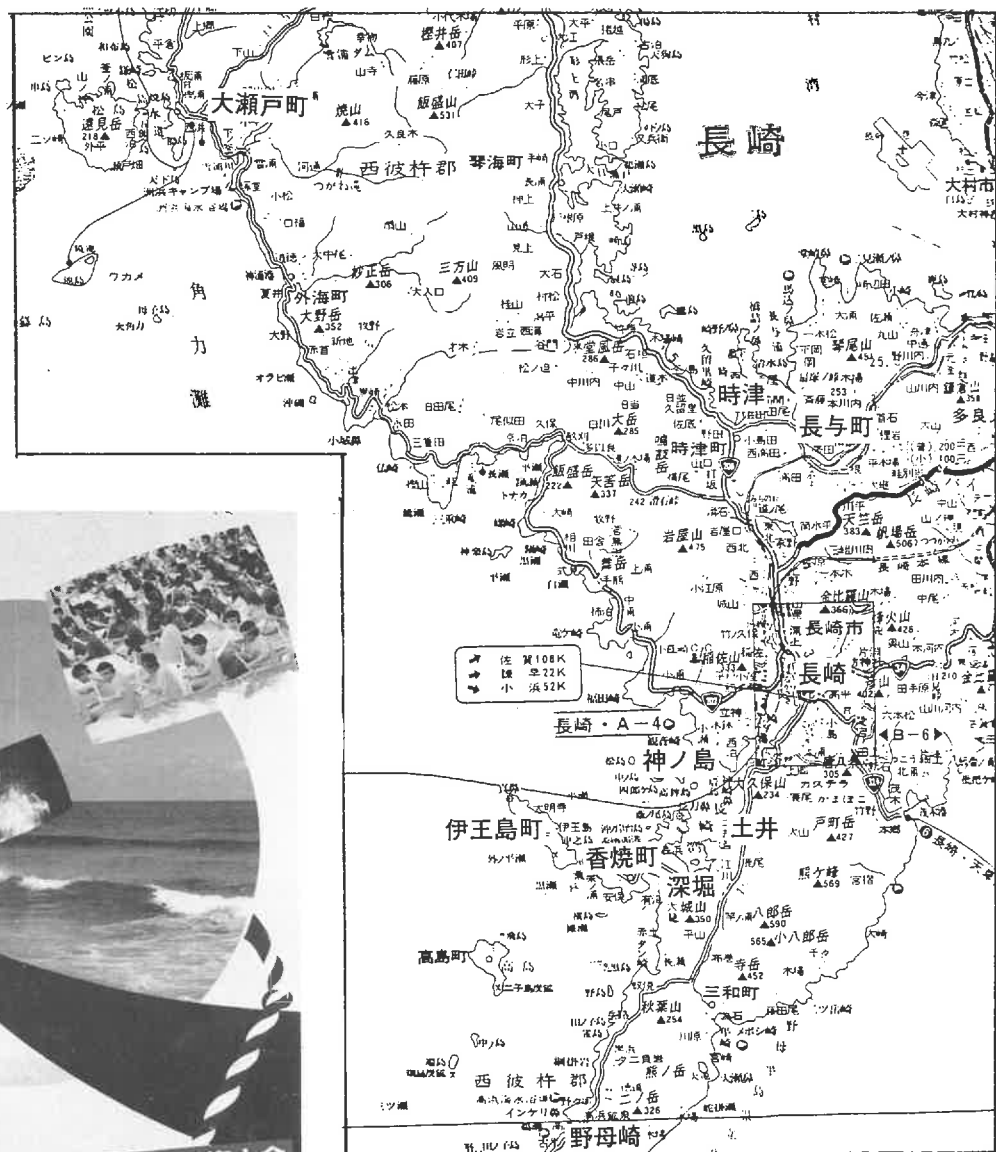
# 長崎県

## (各地)

戸石 (牧島)	伊王島	手熊	大瀬戸	蚊焼	小ヶ倉
------------	-----	----	-----	----	-----

神ノ島	網場	長与	三重 (京泊)	香焼 (堀切)	深堀 (古屋敷)
-----	----	----	------------	------------	-------------

時津	野母崎 (野母)	土井首 (三和)
----	-------------	-------------



### 長崎県ペーロン

長崎には情緒豊かな行事が多いなかで、ペーロン競漕は、お宮日、はた揚げ、盆祭りと共に4大行事の一つと言われ、全国的に知られています。

「その形百足の如く、行く事矢よりも駛し」と古書には書かれています。

長崎で初めてペーロン競漕が行なわれたのは、明暦元年(1655年)で、この年の地方はひどい暴風雨に襲われ、碇泊中の唐船が難破し、多くの溺死者も出る始末でした。そこで、在留していた唐人達が風神の怒りを静めるため、端舟などで競漕したのがそもそもの始めであると言われています。

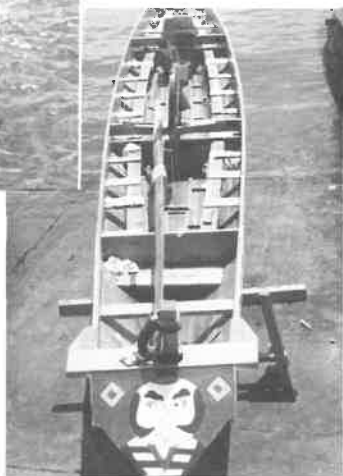
## 長崎県ペーロン選手権大会

### 競漕方法

- コース全長1,900m(1回折り返し)の順位戦による勝ち抜き方式です。
- 折り返しは左旋回でコース表示旗が左側に見えるように保ちターンしなければなりません。
- 舟長45尺(13m636)以内、各チームの持舟で競漕されます。
- 各チームはあらかじめ登録された40名以内で編成され、乗り手は33名以内・漕ぎ手は28名以内となっています。



艇長も声もかけながら漕ぐ



各チーム思い思いの図柄



長崎県でただ一つの中腰ペーロン  
(大瀬戸チーム)

このペーロンは、唐人によってもたらされ、勇壮なこの行事が日本人の気風に合うことから、この一帯に夏の行事(端午の節句から月遅れ盆までの間)として、長崎人の肌に浸透し、盛んに行なわれるようになったと、言われています。



フィナーレ、全チーム一せいに競争



午後の日差しを浴びて、大会のフィナーレ



開会式を終えて、互いに力を誇示する



使った後の船は全員で手入れする

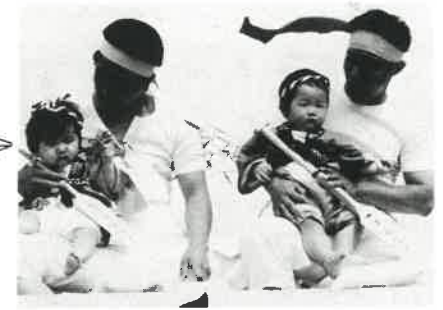


# 1982. 6. 6 深堀ペーロン大会

長崎市深堀町ペーロン大会  
(記 岩阪雅文)



深堀町の人口は15000人  
会場まで約45分



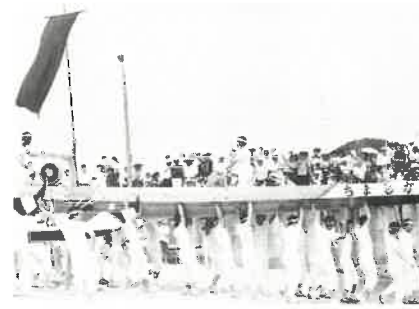
子供達と記念撮影、子供への  
愛着と郷土愛を感じる



「玉串奉典」役員、選手全員が集まる



神事が終り、各チーム  
町内を通過って、大会会場へ



「船下ろし」選手が一齐に舟を  
高々と持ち上げ、海上へ



スタートは、コースによって  
駆け引きがいる



それぞれのチームが、大会の  
準備に入る



ドラと太鼓



大会当日は、ドラ、太鼓、



打ち込み奉納」、神社の境内で  
全チーム一斉に行う



芦北花岡西区、千艘の舟で競り合う  
旧盆の満潮の時（S. 25年頃）



戦い終え、記念撮影する  
通詞島の青年たち。（天草郡五和町）



# 海外の競り舟（ペーロン）

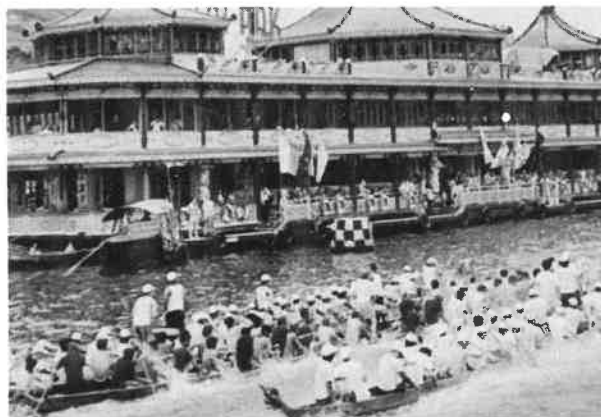
香 港

オーストラリア（シドニー）

マレーシア（ペナン）

シンガポール

# 香港



40数名の選手が乗る、ドラゴンボート

# オーストラリア (シドニー)









宝川内



勇士会



黒木酸素



消防本部



水俣青年会議所



沢井建設



水光社



石坂川



ライオンズクラブ



十六区



宮川ホンダ



2区



久木野



谷口鉄工所



22 区



市議会



連合青年団女子



新栄合板女子



3 区 女 子



湯の尻病院女子



深川 (女子)



22 区 女 子

# 水俣市競り舟協会会則

- 名称) この会は、水俣市競り舟協会と称する
- 目的) この会は、水俣の伝統ある競り舟を保存、育成し、その振興をはかると共に、育文化の向上と観光の進展に寄与することを目的とする。
- 事業) この会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行なう。
- (1) 競り舟関係団体相互の連絡、協調に関する事。
  - (2) 競り舟の保存育成に関する事。
  - (3) 競り舟の普及に関する事。
  - (4) その他本会の目的を達成するために必要な事業に関する事。
- 組織) この会は、本会の主旨に賛同する水俣市内の競り舟関係団体および愛好者をもて組織する。
- 2, 加入は、理事会に諮って決する。
- 役員(の定数) この会に、次の役員をおく。
- (1) 会長 1 名
  - (2) 副会長 2 名
  - (3) 理事長 1 名
  - (4) 理事 若干名
  - (5) 監事 2 名
- 役員(の選任) 会長及び副会長は、理事会において選任し、総会の承認を受ける。
- 2, 理事長は理事の互選により選出し会務を執行する。
  - 3, 理事及び監事は、総会において選任する。
  - 4, 役員に選任された者が、その選出母体の役職を離れたときは、本会の役員を辞任したものとみなし、その後任者が継承する。

- (役員(の任期) 役員(の任期)は2年とする、ただし再選を妨げない。
- 2, 役員が欠けた場合における補充役員(の任期)は前任者の残任期間とする。
- (役員(の任務) 会長は、会務を掌理し、この会を代表する。
- 2, 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。
  - 3, 理事は、この会の運営にあたる。
  - 4, 監事は本会の会計を監査して、総会にて監査報告する。
- (顧問) この会に、顧問をおくことができる。
- 2, 顧問は、会長が理事会に諮って、これを委嘱する。
- (会議) 会議は総会および理事会とし、総会は会長が、理事会は理事長が召集する。
- 2, 会議は、定数の1/2の出席で成立する、議決は出席者の過半数で決し、可否同数のときは、議長が決する。
  - 3, 総会は毎年1回開催し、必要に応じて臨時総会を開催することができる。
  - 4, 理事会は必要に応じて開催する
- (会計) この会の経費は、会費、補助金、寄付金及びその他の収入をもってあてる。
- 2, 会費は1チーム、年間500円とする、但し個人は年間500円とする。
  - 3, この会の会計年度は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。
- (事務局) この会の事務局を理事長宅におく。
- 第13条 この会の運営に必要な事項は、理事会において決する。
- 付 則  
この会則は、昭和59年10月16日より施行する。

## 趣 意 書

「水俣競り舟協会」仮称の結成について

競り舟、それは水俣に生をうけ育まれた多くの人の胸に、古き良き時代の郷愁を呼び起す言葉ではないでしょうか。古くは明治の中期に始まり、全盛期の頃には全市民の血を沸かす勇まな夏の行事として親しまれてきました。その後戦しい社会情勢のなかに中断のやむなきに至り、時代もありましたが、市民の競り舟再興への願いは消えることなく、心の奥深く燃え続けているのであります。

そして、それは水俣市の若人の手によって遂に再現されました。昭和五十一年十月肌寒い晩秋の一日、水俣青年団体連絡協議会が主催した青年祭の一環として、借り舟によって競り舟大会を開催しました。この市民多数の好評を聞き、それを機に競り舟の復活活動が爆発的に起こったのであります。青年達は自ら基金を募り、水俣市も競り舟建造への助成を決定し遂に翌昭和五十一年七月には、六そりの新造船において、市民挙げて大会開催に取り組んだのであります。

それからやがて十年を迎えようとしておりますが、復活後数年は五十チームを超える参加と、会場周りを埋める観衆、応援の出入は一万人もいわれていたが、一昨年、昨年と参加チームも減少傾向がみられるようになりました。その理由はいささかあると思われませんが、私共水俣の競り舟を真に愛する者達にとりまして、この現象をこのまま傍観することは忍びない気持ちでございます。現在では、大会も市が主催する市民競り舟大会と、湯の尻カール二カ所における大会とが行われていますが、県の大規模なイベントに組入れられるなど、ようやく県内外からも注目されるに至り、これからの競り舟を街の名物行事として広く全国に紹介するため、関係者が真摯に努力しなければならぬ時期であると思っております。

このようなとき、私達は競り舟復活十年を契機に、競り舟古来史の研究や資料の収集などは、大会のあり方や外部へのPR等、計画的かつ組織的に進め、将来、水俣競り舟が崎ペロンにも匹敵する全国的観光行事へと発展することを期し、ここに「水俣競り舟協会(仮称)」の設立を發起いたしました次第でございます。

市民各位におかれましても、本趣意にご賛同いただきまして、ご指導並びにご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

昭和五十九年十月一日

- 發起人 寺本 巧(教育委員長)
- 發起人 山田 俊行(月ノ浦)
- 發起人 苗床 悠(天)
- 發起人 坂本 至(光)
- 發起人 山下 澄(川)
- 發起人 岩下 雅夫(深)
- 發起人 友田 義文(湯)
- 發起人 友田 義文(分)



設立準備委員 会が發足、会長に寺本 巧氏が選ばれました。又、後日理事が選ばれました。理事は、苗床 悠、岩下 雅夫、友田 義文、山下 澄、坂本 至、山田 俊行の七名です。また、臨時総会も開催され、競り舟の復活活動が爆発的に起こったのであります。

水俣の競り舟(ペロン)大会は、昭和五十一年、市内各所をめぐって行われ、市民の競り舟再興への願いは消えることなく、心の奥深く燃え続けているのであります。

そして、それは水俣市の若人の手によって遂に再現されました。昭和五十一年十月肌寒い晩秋の一日、水俣青年団体連絡協議会が主催した青年祭の一環として、借り舟によって競り舟大会を開催しました。この市民多数の好評を聞き、それを機に競り舟の復活活動が爆発的に起こったのであります。青年達は自ら基金を募り、水俣市も競り舟建造への助成を決定し遂に翌昭和五十一年七月には、六そりの新造船において、市民挙げて大会開催に取り組んだのであります。

## 復活十周年を迎え 水俣競り舟協会設立

- 組織(5)種目
- 一、大会運営(場)
- 二、大会運営(場)
- 三、大会運営(場)
- 四、大会運営(場)
- 五、大会運営(場)





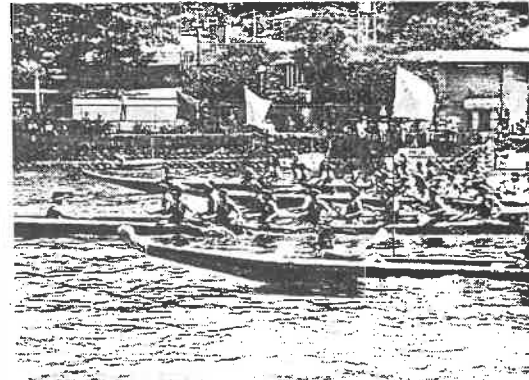


# 世界の競り舟集まれ

## 民間の手で大会構想

### 「観光振興」と市も意欲

水俣市で競り舟の国際大会を対外的に、と義勇市民の多勢が構想が沸きあがり、民間からも期待の声が高まって、市民も市議会でも積極的だ。



水俣市民の血を沸かせる競り舟 (昨夏の市民大会)

同市の競り舟は長崎ペーロンの流れをくみ、明治の中ごろに始まった。戦後中断した。五十年前に香の手で復活。以来毎年開かれ、選手も見物人も一層になって回遊する。観光として市民の血をわかせている。五十九年からは表選手が台湾のドラゴンボートレースにも招待され、また十年には九州大会も開かれた。

競り舟は三年ほど前に、日本カヌー連盟の下取組織として日ドラゴンボート協会(本部・東京)が競り舟、水俣長崎のほか沖縄や出水(鹿児島)県下では松島や津奈木なども含めた組織づくりに進められている。

副市長は「国際大会を市内大会は市の観光振興にも望ましいイベント。必要なら助成も考えたい。金銭も水俣商(ヘドロ処理の

## 「今年こそ優勝だ！」

### 水俣市の競り舟チームが、昨年は三位に入賞(ことしは二年連続台湾に遠征)

水俣市の競り舟チームが、昨年は三位に入賞(ことしは二年連続台湾に遠征)と練習も熱が入っている。

六日(二十一日)、台湾遠征と練習も熱が入っている。日大会は、台北市の主催。台湾各地を回るオーストラリア、東洋の諸国から選手も参加する。

競り舟は、競り舟の歴史が古く、民間の手で大会構想が沸きあがり、民間からも期待の声が高まって、市民も市議会でも積極的だ。

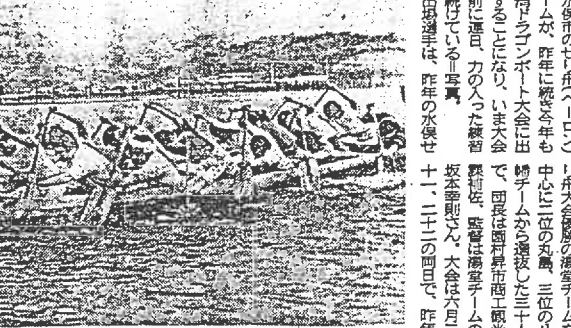
## 遅れましたが、夏

### 水俣市の競り舟チームが、昨年は三位に入賞(ことしは二年連続台湾に遠征)

競り舟の歴史が古く、民間の手で大会構想が沸きあがり、民間からも期待の声が高まって、市民も市議会でも積極的だ。

## 今年も台湾へ遠征

### 水俣市の競り舟チームが、昨年は三位に入賞(ことしは二年連続台湾に遠征)



水俣市の競り舟チームが、昨年は三位に入賞(ことしは二年連続台湾に遠征)と練習も熱が入っている。

## 定着してうれしい

### 水俣市の競り舟チームが、昨年は三位に入賞(ことしは二年連続台湾に遠征)

競り舟の歴史が古く、民間の手で大会構想が沸きあがり、民間からも期待の声が高まって、市民も市議会でも積極的だ。

## 今年優勝だ

### 水俣の競り舟チーム 18日から台湾遠征



台湾出発を前に猛練習する水俣市の競り舟チーム

水俣市の競り舟チームが、昨年は三位に入賞(ことしは二年連続台湾に遠征)と練習も熱が入っている。

競り舟の歴史が古く、民間の手で大会構想が沸きあがり、民間からも期待の声が高まって、市民も市議会でも積極的だ。

# 水俣市民競り舟大会復活10周年記念誌

## 編集委員

寺本 巧	友田 義玄	坂本 幸則
山田 俊行	森山 伸一	(社)青年会議所
岩阪 雅文	山平 勝利	
箱崎 力	浜崎 由広	
寒川 忍	坂本 幸則	
林田 和幸	坂本 至	
石田 勝	山下 澄男	

## 編集後記

水俣市競り舟協会が結成されて、今年で3年を迎えましたが、まだまだ産声を上げたばかりで、これと言って何が出来たわけでも有りませんが、チーム間の交流や、対話の場が出来、競り舟がより楽しいものに成りました。

今回の記念誌もそのような中から生まれたものでしょう。

さて、資料の收拾から今日まで約6年間を費やされどうにか完成の運びとなりました。水俣競り舟の歴史は古く、やがて100年の伝統に成らんとしていきます。明治30年頃長崎から伝えられ、水俣市民の血を湧かす勇壮な夏の行事として続いています。

しかし、この100年の歴史の中で、競り舟の資料らしきものが少なく、関係者一同、今日の記念誌(資料集)の発刊に取り組んだ理由でもありました。この記念誌が100年の集大成とも言えるかもしれません。

水俣の競り舟が今後も、地域のコミュニティに大きく貢献し、ふるさとを愛する市民の力として、末永く続いて行くことを祈ります。

本誌の発刊に当たり、県内外の関係者各位に多大の御協力を頂き誠に有り難うございました。

編集責任者 岩阪 雅文

## せりふね 水俣市民競り舟大会復活 10周年記念誌

発行日 昭和62年5月1日

発行 水俣市競り舟協会

事務局 水俣市陣内2-1-3

TEL 0966(63)1817

(63)1766

印刷 水俣市月浦22-2

有限会社 あすなろ印刷